

東近江市
人権問題に関する市民意識調査
報告書

令和4年（2022年）3月



目 次

第1章 調査の概要	1
第2章 調査結果の概要	2
第3章 調査結果	8
1 回答者の属性	8
(1) 性別	8
(2) 年齢	8
(3) 居住地区	9
(4) 職業	9
2 関心のある人権課題、取組が必要な人権課題について	10
(1) 関心のある人権課題	10
(2) 特に取組が必要な人権課題	13
3 女性の人権について	15
(1) 女性の人権に関して特に問題があると思うこと	15
(2) 女性の人権を守るために特に必要なこと	18
4 子どもの人権について	20
(1) 子どもの人権に関して特に問題があると思うこと	20
(2) 子どもの人権を守るために特に必要なこと	23
5 高齢者の人権について	25
(1) 高齢者の人権に関して特に問題があると思うこと	25
(2) 高齢者の人権を守るために特に必要なこと	28
6 障害のある人の人権について	30
(1) 障害のある人の人権に関して特に問題があると思うこと	30
(2) 障害のある人の人権を守るために特に必要なこと	33
7 日本に住む外国人の人権について	35
(1) 日本に住む外国人の人権に関して特に問題があると思うこと	35
(2) 日本に住む外国人の人権を守るために特に必要なこと	38
(3) ハイトスピーチについて	40
8 性的指向及び性自認（性同一性）などについて	42
9 インターネット上の人権について	45
10 さまざまな人権について	48
(1) 災害発生時において特に人権上問題があると思うこと	48
(2) 新型コロナウイルス(COVID-19)感染症について特に人権上問題があると思うこと	50
11 同和問題について	52
(1) 差別意識は解消しつつあると思うか	52
(2) 身近な人から同和問題に関連した差別発言を聞いたことがあるか	54
(3) 同和問題に関連した差別発言を聞いたときの対応	56
(4) 同和問題を解決するための取組や対応について	58

12	人権問題とその対策について	66
	(1) 差別や人権侵害を受けた経験	66
	(2) 人権が侵害された内容と相談先	67
13	人権尊重について	71
	(1) 「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思うか	71
	(2) 人権問題を解決するためにどのような行動をとろうと思うか	73
14	人権問題の啓発活動について	75
	(1) 人権に関する講演会や研修会への参加経験	75
	(2) 人権に関する講演のテーマ	78
	(3) 人権問題について理解を深めるため特に役立つもの	80
	(4) 人権に関わる法律や条例の認知度	82
15	自由意見	84
	資料編	85
	アンケート調査票	85

第1章 調査の概要

【調査目的】

市民一人一人の人権が尊重され、その個性や能力が最大限に発揮できる社会を目指し、「東近江市人権施策基本計画」に基づき、人権尊重の視点に立った様々な施策の推進を図るに当たって、今後の効果的な施策や計画づくりに活用するための資料を得ることを目的として実施したものです。

【調査対象】

東近江市住民基本台帳から無作為に抽出した満18歳以上の市民3,000人

【調査方法】

調査票による本人記入方式、郵送による配布・回収

【調査期間】

令和3年(2021年)9月15日(水)～10月15日(金)

【回収状況】

	今回調査	前回調査 (平成28年度)
調査対象数	3,000件	3,000件
不達数	10件	13件
有効回答数	1,143件	951件
有効回答率	38.2%	31.8%

【調査結果の表記について】

- ・ グラフや表に書かれている「n=」に続く数字は、その設問の回答数です。
- ・ 百分率(%)については、それぞれの調査の回答数(n)を基数として算出しています。小数第2位を四捨五入しているため、単一回答の数字の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・ 過去に東近江市が実施した調査との比較について、平成28年度に実施した「東近江市人権問題に関する市民意識調査」は「前回調査」、今回実施した「東近江市人権問題に関する市民意識調査」(前回調査と同名)は「本調査」と表記しています。
- ・ 滋賀県や国が実施した調査との比較について、滋賀県による「平成28年度人権に関する県民意識調査」は「H28滋賀県」、内閣府が平成29年度に実施した「人権擁護に関する世論調査」は「H29全国」と表記しています。
- ・ 「旧八日市市地区」とは、調査票問31の居住地区に係る設問で平田地区・市辺地区・玉緒地区・御園地区・建部地区・中野地区・八日市地区・南部地区の総称であり、その数値については合計を表しています。

第2章 調査結果の概要

問1 関心のある人権課題、取組が必要な人権課題について (P.10~14)

- ★ 全体的に子ども、女性、高齢者、障害者及び職場の人権への意識が高く、近年では「感染症に関連する偏見や差別」「インターネットによる人権侵害」への意識も高まっています。
 - 関心がある人権課題については、「インターネットによる人権侵害」「感染症に関連する偏見や差別(新型コロナウイルス感染症、エイズ、肝炎等)」「子どもの人権」が多く挙げられています。「女性」は「女性の人権」が最も多くなっています。「70~79歳」「80歳以上」では「高齢者の人権」が最も多くなっています。
 - 特に取組が必要な人権課題についてみると、「インターネットによる人権侵害」「感染症に関連する偏見や差別(新型コロナウイルス感染症、エイズ、肝炎等)」「障害を理由とする偏見や差別」が多く挙げられています。「18~29歳」「40~49歳」では「職場での人権(パワー・ハラスメントなど)」、「30~39歳」では「子どもの人権」が多くなっています。
 - 「前回調査」と比較すると、関心のある人権課題、特に取組が必要な人権課題ともに「インターネットによる人権侵害」が増えています。

問2~3 女性の人権について (P.15~19)

- ★ 女性は家事、育児及び介護についての家庭での役割分担意識や男女共同で担う社会の仕組みを問題視しており、生涯働くことができる環境の整備が必要とされています。
 - 女性の人権に関して特に問題があると思うことについてみると、「社会において、家事・育児や介護などを男女が共同して担う社会の仕組みが十分に整備されていないこと」「家庭において、「男は仕事、女は家事・育児」などの男女の固定的な役割分担意識があること」「職場において、採用あるいは昇進などで男女の待遇に違いがあること」が多く挙げられています。「女性」の回答をみると、「家庭において、「男は仕事、女は家事・育児」などの男女の固定的な役割分担意識があること」「社会において、家事・育児や介護などを男女が共同して担う社会の仕組みが十分に整備されていないこと」が「男性」の回答を10ポイント以上上回っています。
 - 女性の人権を守るために特に必要なことについてみると、「女性が生涯働くことができる環境を整備する」「職場で、採用や賃金、昇進での格差や、性別による仕事の役割分担などを改めるよう事業所を指導する」「女性が被害者となる犯罪の取締りを強化する」が多く挙げられています。特に「女性が生涯働くことができる環境を整備する」については、「女性」60.6%、「男性」48.8%と「女性」の回答率が「男性」の回答率を10ポイント以上大きく上回っています。

問4～5 子どもの人権について (P. 20～24)

★ いじめに関わることや、親(保護者)が子どもに虐待することなどが問題とされています。また、子どもの人権を守るためには「いじめの未然防止」「思いやりの心を育む教育」及び「安心できる家庭環境を作ること」が必要とされています。

- 子どもの人権に関して特に問題があると思うことについてみると、「仲間はずれ、無視、悪口、暴力などのいじめがあること」「親(保護者)が子どもに暴力をふるったり育児放棄などの虐待をすること」「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする」と多く挙げられています。「家庭の経済的事情により、子どもの教育環境に格差が生じていること」も、79歳以下の全ての年代で約半数が挙げており、「前回調査」に引き続き、問題であると認識されています。
- 子どもの人権を守るために特に必要なことについてみると、「いじめの未然防止に努める」「子どもに、他人に対する思いやりの心を育む教育を行う」「子どもが安心してくつろげる家庭をつくる」が多く挙げられています。「成績を重視する社会の風潮を改める」「大人に、子どもが独立した人格であることを教育する」については「18～29歳」で多くなっています。

問6～7 高齢者の人権について (P. 25～29)

★ 高齢者にとってわかりやすい情報提供への配慮や、財産管理面などでの権利侵害や悪質商法による被害が特に問題視されています。また、「高齢者が自立して生活しやすい環境づくりを推進する」「高齢者を介護する家族などへのサポート体制を整える」ことが必要とされています。

- 高齢者の人権に関して特に問題があると思うことについてみると、「情報を高齢者にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと」「財産管理面などでの権利侵害や悪質商法などの被害が高齢者に多いこと」「経済的に自立が困難なこと」が多く挙げられています。
- 高齢者の人権を守るために特に必要なことについてみると、「高齢者が自立して生活しやすい環境づくりを推進する」「高齢者を介護する家族などへのサポート体制を整える」「高齢者が被害者になる犯罪の取締りを強化する」が多く挙げられています。「80歳以上」では、「高齢者のための相談体制を充実する」が多くなっています。

問8～9 障害のある人の人権について (P. 30～34)

★ 障害のある人への理解不足や、就労機会や就労待遇が不十分であることが問題視されています。また、働く場所の確保や、就労支援が必要とされています。

- 障害のある人の人権に関して特に問題があると思うことについてみると、「障害のある人に対する理解や認識が十分でないこと」「働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇も十分でないこと」「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が多く挙げられています。「18～29歳」は、他の年代と比較すると、大半の項目について高い傾向にあります。

- 障害のある人の人権を守るために特に必要なことについてみると、「働く場を確保する」「障害のある人の就労のための教育を充実する」「在宅の福祉サービスや地域で暮らせる施設(グループホームなど)を整備する」が多く挙げられています。「80歳以上」では、「経済的なゆとりができるよう支援する」が多くなっています。

問10～12 日本に住む外国人の人権について (P. 35～41)

★ 外国人の生活習慣や文化への理解、外国語によるサービス及び仕事での待遇の不十分さが問題とされており、相談体制の充実や外国語による情報提供などが必要とされています。また、ヘイトスピーチは問題視されていますが、「わからない」という意見も多く見られます。

- 外国人の人権に関して特に問題があると思うことについてみると、「外国人の生活習慣や文化への理解や認識が十分でないこと」「病院や公共施設などに通訳や外国語表記が少ないので、十分なサービスを受けられないこと」「就職、仕事の内容、待遇などで不利な条件におかれていること」が多く挙げられています。年齢が低くなるほど「ヘイトスピーチが行われていること」が多くなっています。
- 外国人の人権を守るために特に必要なことについてみると、「外国人のための相談体制を充実する」「日常生活に必要な情報を外国語により提供する」「外国の文化や伝統を尊重し、外国の人々と共に生きる教育を行う」が多く挙げられています。
- ヘイトスピーチについてみると、「不愉快で許せないと思った」「日本に対する印象が悪くなると思った」が多く挙げられています。4人に1人は「わからない」と回答しています。

問13 性的指向及び性自認(性同一性)などについて (P. 42～44)

★ 様々な性のあり方に関する理解や認識が十分でないこと、差別的な言動をされること、職場、学校等で嫌がらせやいじめが行われることが問題視されています。

- 性的指向及び性自認(性同一性)などについて、特に人権上問題があると思うことについてみると、「様々な性のあり方に関する理解や認識が十分でないこと」「差別的な言動をされること」「職場、学校等で嫌がらせやいじめが行われること」が多く挙げられています。

問14 インターネット上の人権について (P. 45～47)

★ 特に、他人を誹謗中傷する情報に対する問題意識が前回調査と比較すると、10ポイント以上高まっています。また、子どもたちの間でインターネット・SNSを利用したいじめが発生していることや、情報の取扱いに関しても問題意識が高くなっています。

- インターネット・SNSに関して特に人権上問題があると思うことについては、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」「子どもたちの間でインターネット・SNSを利用したいじめが発生していること」「いったん流れた情報の訂正や削除が難しいこと」が多く挙げられています。「前回調査」と比較

すると、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が増えています。「女性」は、多くの項目について「男性」より高い問題意識を持っています。

問15～16 さまざまな人権について (P. 48～51)

- ★ 災害発生時の生活面についての問題意識が強く、若年層は被災者への差別も懸念しています。
- ★ 新型コロナウイルス(COVID-19)の感染者や家族に対する差別やいじめ、インターネットやSNSによる誹謗中傷やデマが問題視されています。
 - 災害発生時において特に人権上問題があると思うことについてみると、「障害者、高齢者、乳幼児、妊産婦などに十分な配慮が行き届かないこと」「避難生活でプライバシーが守られないこと」「避難生活の長期化によるストレスに伴う嫌がらせやトラブルが生じること」が多く挙げられています。「18～29歳」では、「デマ・風評などによる差別的な言動が起きること」が多くなっています。
 - 新型コロナウイルス(COVID-19)感染症に関して特に問題があると思うことについてみると、「感染者に対して差別的な言動・いじめ等が行われること」「感染者の家族に対して差別的な言動・いじめ等が行われること」「インターネットやSNS上で誹謗中傷やデマが流されること」が多く挙げられています。

問17～20 同和問題について (P. 52～65)

- ★ 6割近くの人が差別意識は解消しつつあると考えていますが、若年層を中心に「わからない」という意見も増えています。また、2割弱が同和問題に関連した差別発言を耳にしていますが、問題解決のための対応をしなかった人が多く、何らかの対応を取った人も減少傾向にあります。同和問題を解決するための様々な取組について、半数以上の人は肯定的である一方、同和問題のことなど口にせず、そっとしておけば差別は自然になくなるという考えの人も約4割います。
 - 同和問題について差別意識は解消しつつあると思うかについてみると、6割近くの人が解消しつつあると思っています。その一方で約3割が「わからない」と回答しており、「前回調査」と比較して多くなっています。年齢が高くなるほど「かなり解消してきている」が多く、低くなるほど「わからない」が多くなる傾向にあります。
 - 過去5年以内に身近な人から同和問題に関連した差別発言を聞いたことがあるかについてみると、2割弱が聞いたと回答しています。「前回調査」と比較すると、聞いたという回答はやや減っており、「聞いたことがない」が増えています。年齢が高くなるほど、「聞いたことがない」が少なくなる傾向にあります。
 - 同和問題に関連した差別発言を聞いたときの対応についてみると、何らかの対応をしたという回答は約2割で、「何もしないでそのままにしておいた」「どうしていいのかわからなかった」が多くなっています。「前回調査」と比較すると、何らかの対応をしたという回答が減っています。
 - 同和問題を解決するための取組や対応についてみると、「同和問題についての理解や認識を深め、差別をしない人権尊重の意識を高める」という考えに約7割が肯定的、「身元調査をしない、させない取組を進めることが必要」という考えに約6割が肯定的、そして「差別的な言動による人権侵害を

救済する法整備をする」という考えに約5割が肯定的です。一方で、約4割は「同和問題のことなど口にせず、そっとしておけば、差別は自然になくなる」と考えています。「前回調査」と比較すると、「同和問題についての理解や認識を深め、差別をしない人権尊重の意識を高める」という考えに肯定的な回答が増えています。年齢が高くなるほど「同和問題のことなど口にせず、そっとしておけば、差別は自然になくなる」という考えが多くなり、年齢が低くなるほど「差別的な言動による人権侵害を救済する法整備をする」という考えが多くなる傾向にあります。

問21～22 人権問題とその対策について (P. 66～70)

★ 女性や若年層で、差別や人権侵害の経験が多くなっており、パワー・ハラスメントによる被害が増えています。人権が侵害されても、約5割は誰にも相談せず、我慢するか自分で対処しています。

- 約1割が、過去5年以内に差別や人権侵害を受けた経験が「ある」と回答しています。「女性」は「男性」より、「ある」がやや多くなっています。年齢が低くなるほど「ある」が多くなる傾向にあります。
- 人権侵害の内容についてみると、「パワー・ハラスメント」「あらぬ噂や陰口による名誉・信用の侵害」「プライバシーの侵害」が多く挙げられています。「前回調査」と比較すると、「パワー・ハラスメント」が増えています。「女性」は「セクシュアル・ハラスメント」「プライバシーの侵害」「あらぬ噂や陰口による名誉・信用の侵害」が多く、男性は「障害による差別」「パワー・ハラスメント」「労働の強制など不当な待遇」「暴力、強迫、強要行為」が多くなっています。
- 人権が侵害された際の相談先をみると、「家族や親戚」「友人や知人」が多く挙げられています。一方で、約5割は「相談していない」と回答しています。「前回調査」と比較すると、「家族や親戚」が10ポイント以上減っています。「女性」は「家族や親戚」が多く、「男性」は「民生委員・児童委員」が多くなっています。

問23～24 人権尊重について (P. 71～74)

★ 「東近江市は人権が尊重されるまち」だと思える人は増えてきており、年齢が高くなるほどその傾向は強くなっていますが、約5割は「わからない」と回答しています。一方で、人権問題を解決するためには何らかの行動が必要であるという回答は若い年代ほど多くなっています。

- 約3割が、「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思うと回答しています。一方で、約5割は「わからない」と回答しています。「前回調査」と比較すると、「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思うという回答はやや多くなっています。年齢が高くなるほど、「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思うという回答が多くなる傾向にあります。
- 約6割が、人権問題を解決するためには何らかの行動が必要であると考えています。また、年齢が低くなるほど、何らかの行動が必要であるという回答が多くなる傾向にあります。

問25～28 人権問題の啓発活動について (P. 75～83)

★ 人権に関する講演会や研修会への参加は減少傾向にあります。参加経験のある回答者の多くは、人権問題について自分も市民の一人として問題の解決を目指し努力したいと考えています。これまで受講したテーマについては、年齢が高くなるほど「高齢者の人権問題」が多く、低くなるほど「女性の人権問題」「外国人の人権問題」「インターネット上の人権問題」「プライバシーの問題」が多くなる傾向にあります。人権問題に関して理解を深めるための手段については、学校等での人権教育や講演会、新聞・テレビ等のメディアの活用が有効と考えられていますが、高い年齢層では人権のまちづくり町別懇談会、若い年齢層では映画やDVD、インターネットやSNSの活用も有効と考えられています。人権に関わる法律や条例については、年齢が高くなるほど認知度が高い傾向にあります。

- 約4割が、5年以内に人権に関する講演会や研修会へ参加した経験があります。「前回調査」と比較すると、参加したことがあるという回答は少なくなっており、「全く参加したことがない」が増えています。「女性」の回答をみると、「全く参加したことがない」が「男性」より多くなっています。
- 5年以内に人権に関する講演会や研修会へ参加した経験の有無と、人権問題を解決するための行動意識の関係についてみると、「参加したことがある」回答者の5割以上は「自分も市民の一人として問題の解決を目指し努力したい」と考えており、「参加したことがない」回答者を大きく上回っています。
- 人権に関する講演で聞いたことがあるテーマについてみると、「同和問題」「障害者の人権問題」「女性の人権問題」が多くなっています。年齢が高くなるほど「高齢者の人権問題」が多く、低くなるほど「女性の人権問題」「外国人の人権問題」「インターネット上の人権問題」「プライバシーの問題」が多くなる傾向にあります。
- 人権問題について理解を深めるため特に役立つものについてみると、「園での人権保育及び小中学校での人権教育」「講演会」「新聞、テレビ、ラジオ」が多く挙げられています。「女性」は「新聞、テレビ、ラジオ」が多く、「男性」は「人権のまちづくり町別懇談会」が多くなっています。年齢が高くなるほど「人権のまちづくり町別懇談会」「広報紙(誌)、パンフレット、冊子」が多く、低くなるほど「映画、DVDなど」「インターネット・SNS」「園での人権保育及び小中学校での人権教育」が多くなる傾向にあります。
- 人権に関わる法律や条例の認知度についてみると、「東近江市人権尊重のまちづくり条例」「部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)」は約5割、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」は約4割、「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律(ヘイトスピーチ解消法)」は約3割に認知されています。いずれの法律、条例も、年齢が高くなるほど認知度が高くなる傾向にあります。

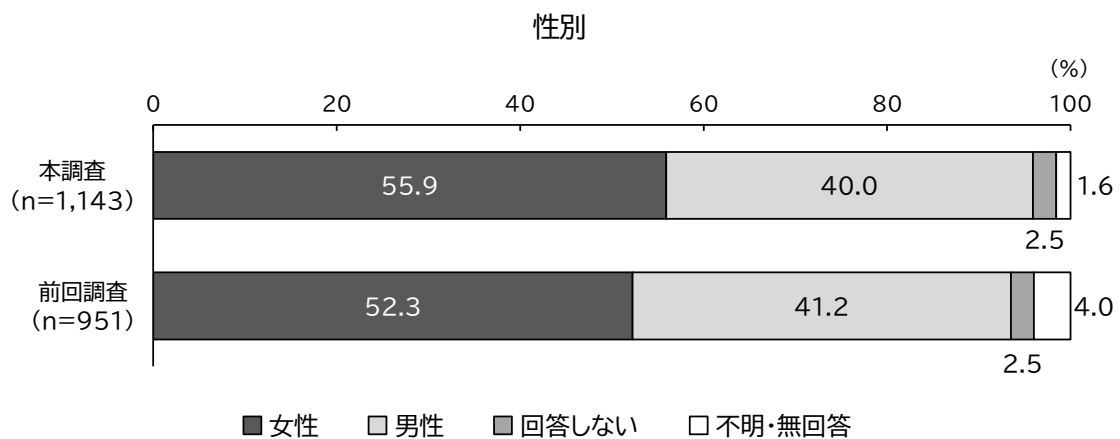
第3章 調査結果

1 回答者の属性

(1) 性別

問29 あなたの性別は。(1つに○)

回答者の性別について、「女性」が55.9%、「男性」が40.0%、「回答しない」が2.5%となっています。「前回調査」と比較すると、女性の割合がやや高くなっています。

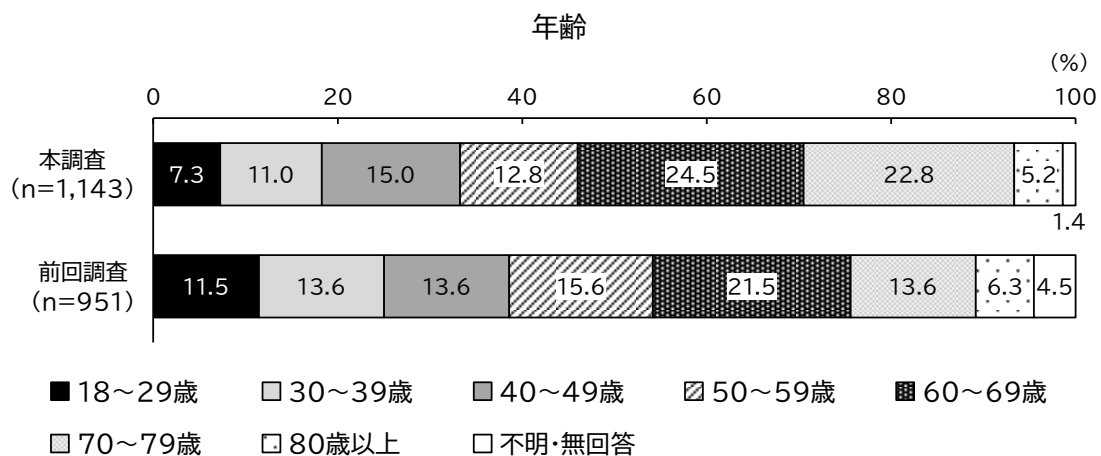


(2) 年齢

問30 あなたの年齢は。(1つに○)

回答者の年齢について、最も多いのは「60～69歳」で24.5%、次いで「70～79歳」が22.8%、「40～49歳」が15.0%となっています。

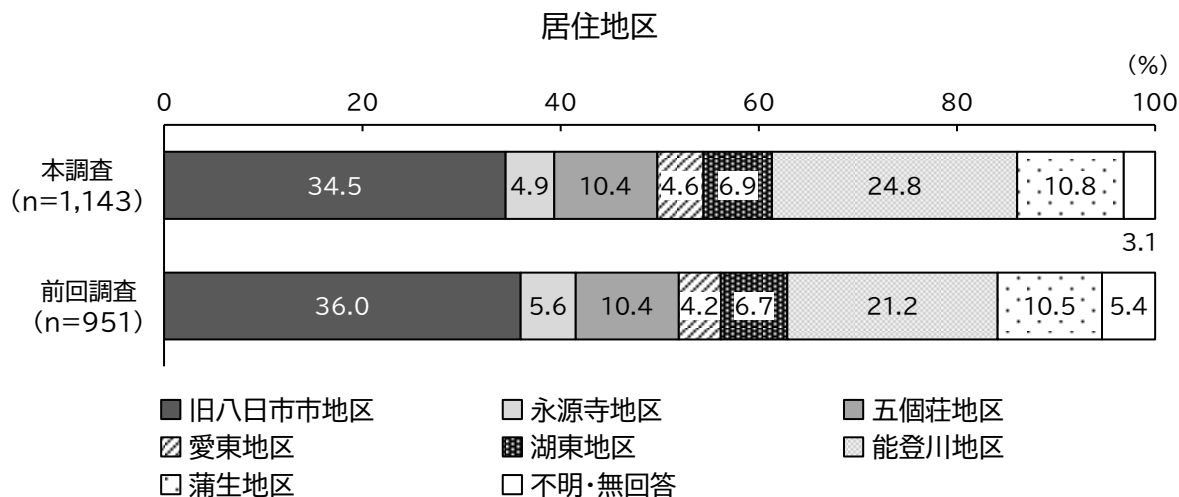
「前回調査」と比較すると、年齢層が高くなっています。



(3) 居住地区

問31 あなたのお住まいはどちらですか。(1つに○)

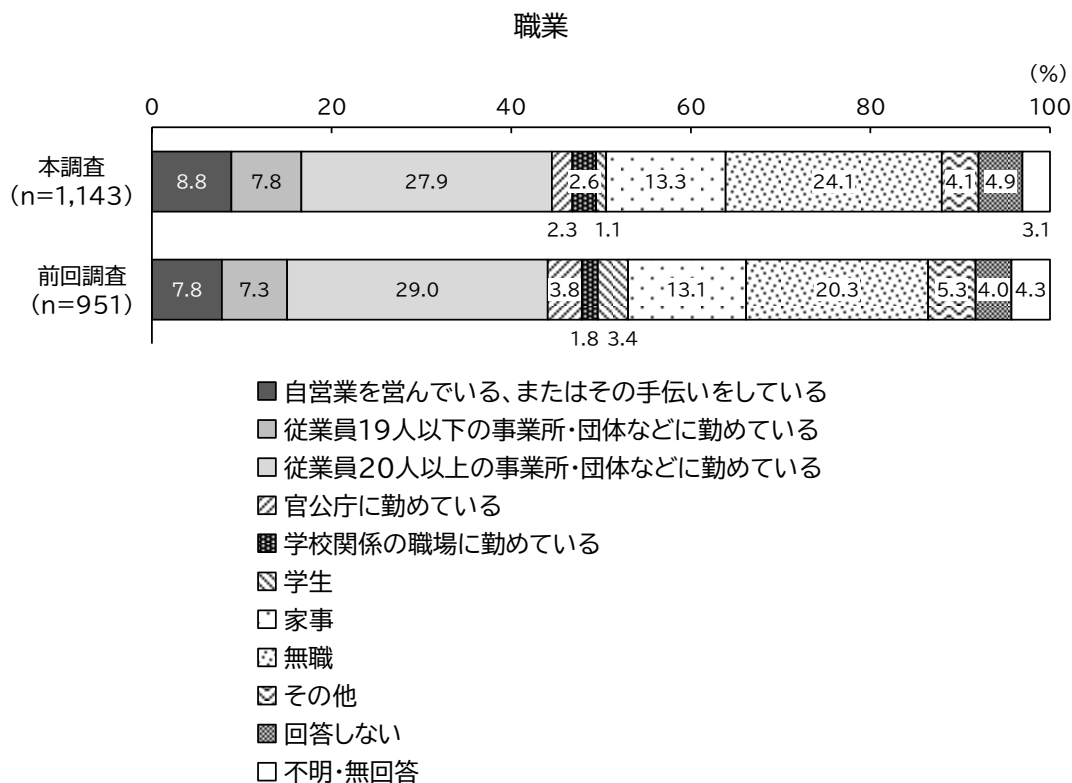
回答者の居住地区について、最も多いのは「旧八日市市地区」で34.5%、次いで「能登川地区」が24.8%、「蒲生地区」が10.8%となっています。



(4) 職業

問32 あなたのお仕事は。(1つに○)

回答者の職業等について、最も多いのは「従業員20人以上の事業所・団体などに勤めている」で27.9%、次いで「無職」が24.1%、「家事」が13.3%となっています。



2 関心のある人権課題、取組が必要な人権課題について

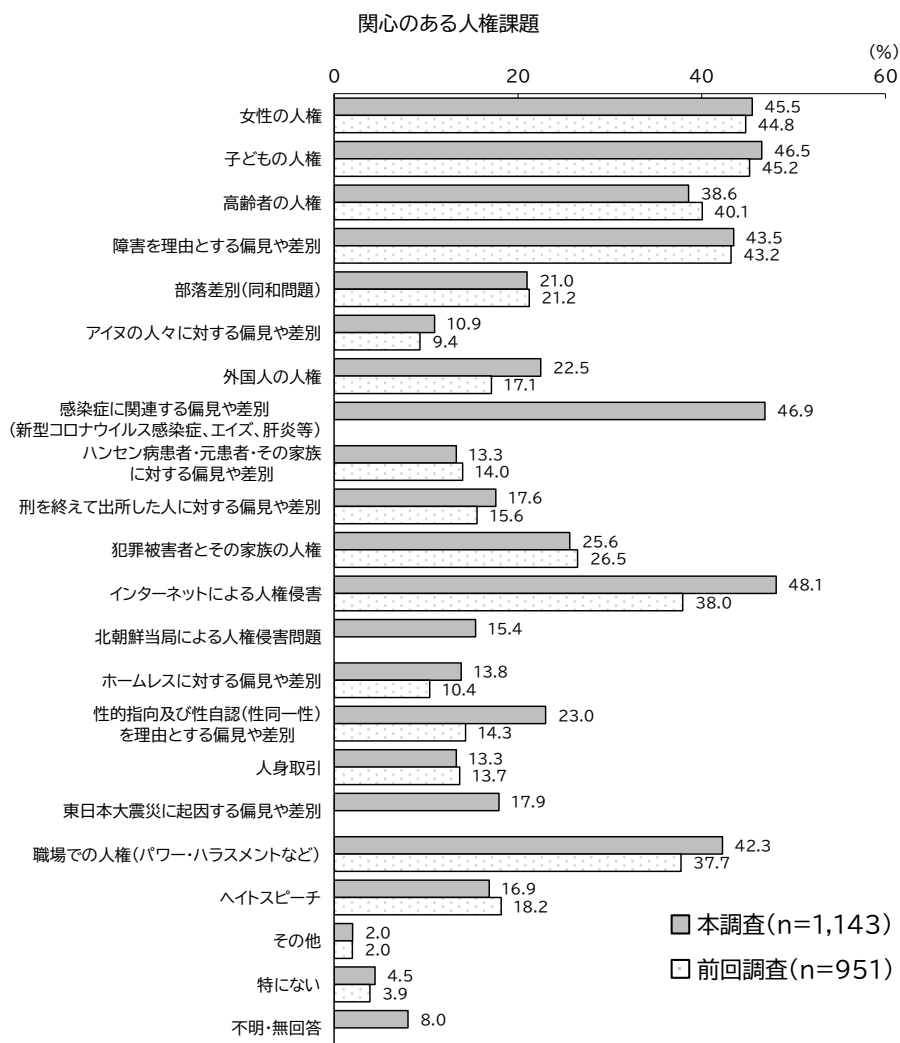
(1) 関心のある人権課題

問1 次の人権課題で、あなたが関心のあるものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【本調査の結果及び前回調査との比較】

関心がある人権課題について、最も多いのは「インターネットによる人権侵害」で48.1%、次いで「感染症に関連する偏見や差別(新型コロナウイルス感染症、エイズ、肝炎等)」が46.9%、「子どもの人権」が46.5%となっています。

「前回調査」と比較すると、「インターネットによる人権侵害」が10ポイント以上増えています。

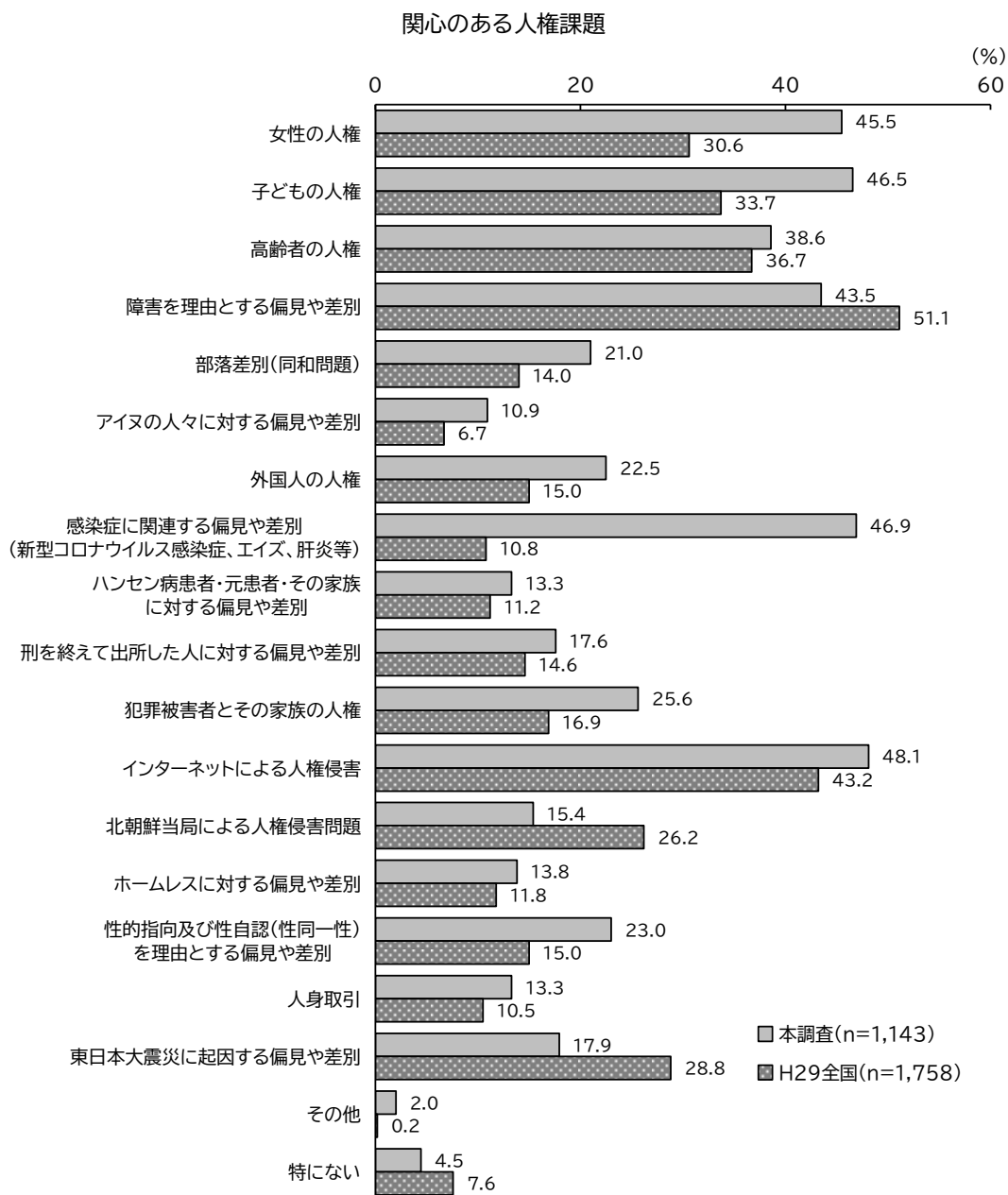


※ 「感染症に関連する偏見や差別(新型コロナウイルス感染症、エイズ、肝炎等)」「北朝鮮当局による人権侵害問題」「東日本大震災に起因する偏見や差別」は「本調査」のみにつき割愛

※ 「前回調査」では、「障害を理由とする偏見や差別」は「障害者の人権」、「部落差別(同和問題)」は「同和問題」、「職場での人権(パワー・ハラスメントなど)」は「職場(パワー・ハラスメントなど)での人権」、「ハンセン病患者・元患者・その家族に対する偏見や差別」は「HIV感染者・ハンセン病患者・回復者などの人権」、「刑を終えて出所した人に対する偏見や差別」は「刑を終えて出所した人とその家族の人権」、「インターネットによる人権侵害」は「インターネット・SNSによる人権侵害」、「ホームレスに対する偏見や差別」は「ホームレスに関する人権」、「性的指向及び性自認(性同一性)を理由とする偏見や差別」は「性同一性障害者(身体的性別と精神的性別が一致しない人)や同性愛者の人権」、「人身取引」は「人身取引(性的搾取、強制労働を目的とした人身取引)」、「不明・無回答」は未集計

【全国との比較】

「本調査」を「H29全国」と比較すると、「感染症に関連する偏見や差別（新型コロナウイルス感染症、エイズ、肝炎等）」は30ポイント以上多く、「女性の人権」「子どもの人権」が10ポイント以上多くなっています。一方、「北朝鮮当局による人権侵害問題」「東日本大震災に起因する偏見や差別」は10ポイント以上少なくなっています。



※ 「職場での人権(パワー・ハラスメントなど)」「ヘイトスピーチ」は「本調査」のみにつき割愛

※ 「H29全国」では、「女性の人権」は「女性」、「子どもの人権」は「子ども」、「高齢者の人権」は「高齢者」、「部落差別(同和問題)」は「部落差別等の同和問題」、「アイヌの人々に対する偏見や差別」は「アイヌの人々」、「外国人の人権」は「外国人」、「感染症に関連する偏見や差別(新型コロナウイルス感染症、エイズ、肝炎等)」は「HIV感染者等」、「ハンセン病患者・元患者・その家族に対する偏見や差別」は「ハンセン病患者・回復者等」、「刑を終えて出所した人に対する偏見や差別」は「刑を終えて出所した人」、「犯罪被害者とその家族の人権」は「犯罪被害者等」、「北朝鮮当局による人権侵害問題」は「北朝鮮当局によって拉致された被害者等」、「ホームレスに対する偏見や差別」は「ホームレス」、「性的指向及び性自認(性同一性)を理由とする偏見や差別」は「性的指向(異性愛、同性愛、両性愛)」、「東日本大震災に起因する偏見や差別」は「東日本大震災に伴う人権問題」、「不明・無回答」は未集計

【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」は「女性の人権」が最も多く、「男性」は「インターネットによる人権侵害」が最も多くなっています。「女性の人権」は、「女性」が「男性」より10ポイント以上多くなっています。

年齢別にみると、「30～39歳」では「子どもの人権」が、「70～79歳」「80歳以上」では「高齢者の人権」が最も多く、他の年代では「インターネットによる人権侵害」が最も多くなっています。「子どもの人権」「感染症に関連する偏見や差別(新型コロナウイルス感染症、エイズ、肝炎等)」は「30～39歳」で多く、「インターネットによる人権侵害」は「70～79歳」「80歳以上」で少なくなっています。

関心のある人権課題

(単位:%)

	女性の人権	子どもの人権	高齢者の人権	障害や差別を理由とする偏見や差別	部落差別(同和問題)	アイヌの人々に対する偏見や差別	外国人の人権	感染症(新型コロナウイルス、エイズ、肝炎等)	感染症に関連する偏見や差別	ハンセン病患者・元患者・その家族に対する偏見や差別	刑を終えて出所した人に対する偏見や差別	犯罪被害者とその家族の人権
本調査(n=1,143)	45.5	46.5	38.6	43.5	21.0	10.9	22.5	46.9	13.3	17.6	25.6	
女性(n=639)	51.0	47.3	40.4	42.6	18.8	9.9	18.5	47.3	11.6	16.6	24.3	
男性(n=457)	39.8	47.0	37.9	47.3	24.9	12.7	28.0	47.9	15.8	19.3	27.8	
回答しない(n=29)	31.0	41.4	24.1	24.1	6.9	3.4	24.1	37.9	6.9	13.8	20.7	
18～29歳(n=83)	45.8	44.6	28.9	45.8	24.1	8.4	30.1	42.2	12.0	21.7	28.9	
30～39歳(n=126)	53.2	68.3	27.8	47.6	16.7	5.6	22.2	57.1	5.6	8.7	21.4	
40～49歳(n=171)	43.3	45.0	25.7	39.8	19.9	8.2	20.5	49.1	9.9	15.8	26.9	
50～59歳(n=146)	43.2	43.2	38.4	39.7	15.8	10.3	19.9	41.1	11.0	15.1	24.0	
60～69歳(n=280)	45.7	45.0	41.4	44.6	19.3	8.2	21.4	47.5	10.4	16.1	22.5	
70～79歳(n=261)	46.0	43.7	49.8	45.6	25.7	16.1	21.8	46.0	19.5	22.2	29.5	
80歳以上(n=60)	45.0	43.3	53.3	43.3	28.3	23.3	30.0	45.0	30.0	28.3	26.7	

	インターネットによる人権侵害	北朝鮮当局による人権侵害問題	ホームレスに対する偏見や差別	性的指向及び性自認(同性・異性)を理由とする偏見や差別	人身取引	東日本大震災に起因する偏見や差別	職場での人権(パワー・ハラスメントなど)	ヘイトスピーチ	その他	特になし	不明・無回答
本調査(n=1,143)	48.1	15.4	13.8	23.0	13.3	17.9	42.3	16.9	2.0	4.5	8.0
女性(n=639)	46.0	13.9	13.3	24.1	11.9	17.5	41.9	14.7	1.9	4.4	9.1
男性(n=457)	52.1	17.9	15.3	23.0	15.8	18.8	43.5	20.6	2.0	4.4	5.0
回答しない(n=29)	37.9	10.3	3.4	6.9	3.4	17.2	37.9	6.9	0.0	6.9	13.8
18～29歳(n=83)	54.2	9.6	22.9	38.6	15.7	13.3	47.0	16.9	4.8	4.8	3.6
30～39歳(n=126)	54.8	5.6	4.8	31.7	8.7	10.3	53.2	9.5	0.8	3.2	1.6
40～49歳(n=171)	55.6	13.5	11.1	26.9	12.9	14.0	50.9	19.3	0.6	5.3	4.7
50～59歳(n=146)	50.0	11.6	11.6	17.8	11.0	16.4	38.4	15.1	2.1	6.8	8.9
60～69歳(n=280)	51.1	13.9	11.1	17.1	11.4	18.6	36.8	12.5	1.4	3.9	8.9
70～79歳(n=261)	37.9	25.3	19.2	19.2	16.9	23.8	39.8	23.0	2.3	4.6	10.0
80歳以上(n=60)	31.7	23.3	23.3	30.0	18.3	26.7	38.3	23.3	3.3	1.7	15.0

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

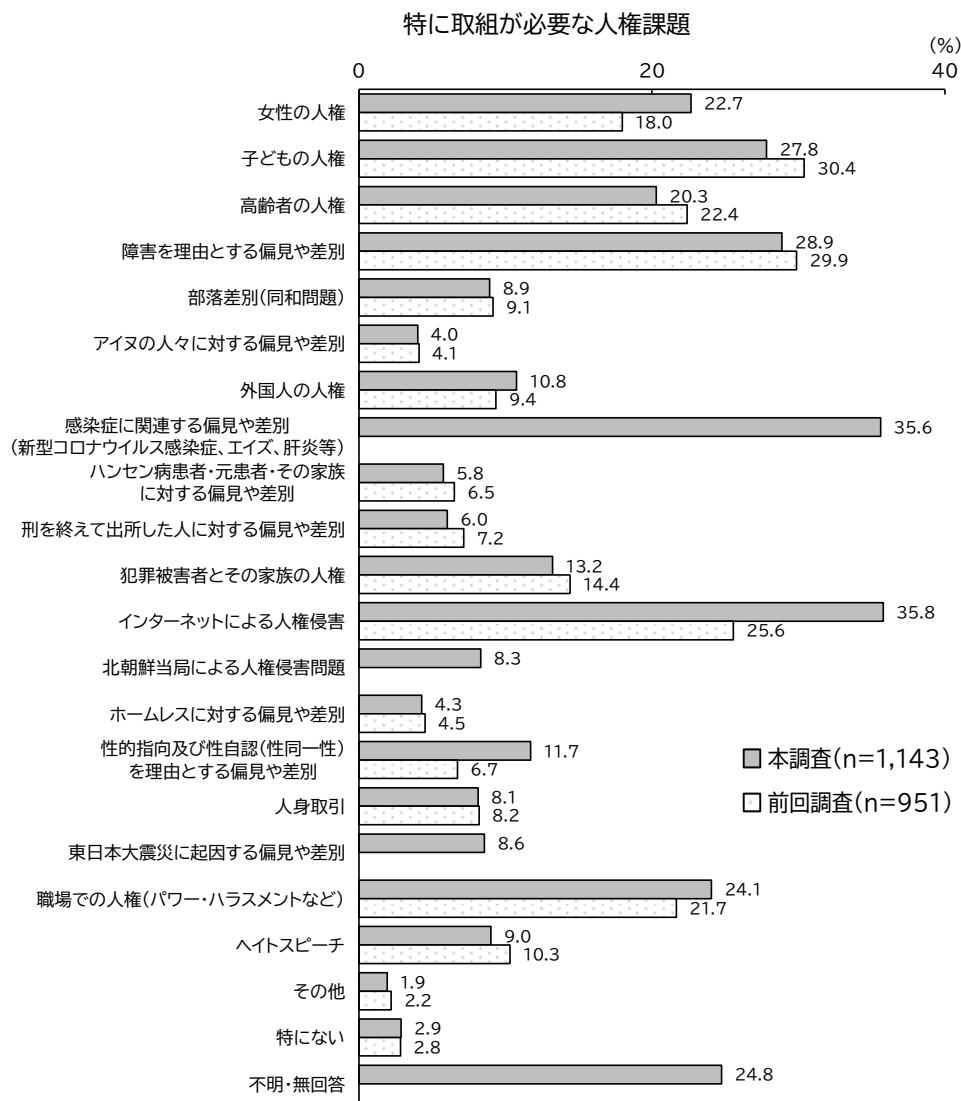
(2) 特に取組が必要な人権課題

問1 東近江市として、特に取組が必要な人権課題は何であると思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

【本調査の結果及び前回調査との比較】

特に取組が必要な人権課題について、最も多いのは「インターネットによる人権侵害」で35.8%、次いで「感染症に関連する偏見や差別(新型コロナウイルス感染症、エイズ、肝炎等)」が35.6%、「障害を理由とする偏見や差別」が28.9%となっています。

「前回調査」と比較すると、「インターネットによる人権侵害」が10ポイント以上増えており、「感染症に関連する偏見や差別」とともに多くなっています。



※ 「感染症に関連する偏見や差別(新型コロナウイルス感染症、エイズ、肝炎等)」「北朝鮮当局による人権侵害問題」「東日本大震災に起因する偏見や差別」は「本調査」のみにつき割愛

※ 「前回調査」では、「障害を理由とする偏見や差別」は「障害者の人権」、「部落差別(同和問題)」は「同和問題」、「職場での人権(パワー・ハラスメントなど)」は「職場(パワー・ハラスメントなど)での人権」、「ハンセン病患者・元患者・その家族に対する偏見や差別」は「HIV感染者・ハンセン病患者・回復者などの人権」、「刑を終えて出所した人に対する偏見や差別」は「刑を終えて出所した人とその家族の人権」、「インターネットによる人権侵害」は「インターネット・SNSによる人権侵害」、「ホームレスに対する偏見や差別」は「ホームレスに関する人権」、「性的指向及び性自認(性同一性)を理由とする偏見や差別」は「性同一性障害者(身体的性別と精神的性別が一致しない人)や同性愛者の人権」、「人身取引」は「人身取引(性的搾取、強制労働を目的とした人身取引)」、「不明・無回答」は未集計

【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」とともに「インターネットによる人権侵害」が最も多くなっていますが、「女性」は「感染症に関連する偏見や差別(新型コロナウイルス感染症、エイズ、肝炎等)」も同数で最も多くなっています。

年齢別にみると、「感染症に関連する偏見や差別(新型コロナウイルス感染症、エイズ、肝炎等)」「インターネットによる人権侵害」は全ての年代に共通して多くなっています。

「18～29歳」「40～49歳」では「職場での人権(パワー・ハラスメントなど)」、「30～39歳」では「子どもの人権」、「50～59歳」「60～69歳」「70～79歳」では「障害を理由とする偏見や差別」が多くなっています。また、「北朝鮮当局による人権侵害問題」は年齢層が高くなるほど多くなっています。

特に取組が必要な人権課題

(単位:%)

	女性の人権	子どもの人権	高齢者の人権	障害を理由とする偏見や差別	部落差別(同和問題)	アイヌの人々に対する偏見や差別	外国人の人権	感染症(新型コロナウイルス、エイズ、肝炎等)	感染症に関連する偏見や差別(新型コロナウイルス感染症、エイズ、肝炎等)	ハンセン病患者・元患者・その家族に対する偏見や差別	刑を終えて出所した人に対する偏見や差別	犯罪被害者とその家族の人権
本調査(n=1,143)	22.7	27.8	20.3	28.9	8.9	4.0	10.8	35.6	5.8	6.0	13.2	
女性(n=639)	23.8	28.6	21.6	26.3	8.3	3.6	9.4	34.9	5.5	5.3	10.5	
男性(n=457)	21.0	26.9	18.8	33.0	10.3	4.8	13.1	37.4	6.1	6.8	16.8	
回答しない(n=29)	31.0	34.5	24.1	24.1	3.4	3.4	10.3	31.0	6.9	6.9	13.8	
18～29歳(n=83)	34.9	34.9	16.9	32.5	7.2	2.4	19.3	41.0	4.8	4.8	13.3	
30～39歳(n=126)	25.4	37.3	11.1	23.0	7.1	2.4	10.3	34.9	4.0	3.2	10.3	
40～49歳(n=171)	17.5	22.8	11.1	19.3	8.2	2.3	11.1	39.8	5.3	4.1	13.5	
50～59歳(n=146)	26.0	32.2	24.7	33.6	6.8	3.4	13.0	38.4	6.8	7.5	18.5	
60～69歳(n=280)	26.4	29.6	25.4	33.9	7.9	3.9	7.5	36.1	5.0	3.9	11.4	
70～79歳(n=261)	17.2	21.5	23.4	29.9	12.6	6.1	10.7	31.0	6.9	9.2	13.8	
80歳以上(n=60)	16.7	26.7	26.7	25.0	11.7	8.3	11.7	30.0	8.3	10.0	11.7	

	インターネットによる人権侵害	北朝鮮当局による人権侵害問題	ホームレスに対する偏見や差別	(性的指向及び性自認と性同一性)を理由とする偏見や差別	人身取引	東日本大震災に起因する偏見や差別	職場での人権(パワー・ハラスメントなど)	ヘイトスピーチ	その他	特にな	不明・無回答
本調査(n=1,143)	35.8	8.3	4.3	11.7	8.1	8.6	24.1	9.0	1.9	2.9	24.8
女性(n=639)	34.9	6.3	4.1	11.3	6.9	7.7	23.3	8.6	1.9	3.9	25.5
男性(n=457)	38.5	11.6	3.9	12.5	9.8	9.8	25.2	9.8	1.8	1.5	22.3
回答しない(n=29)	20.7	6.9	6.9	13.8	6.9	10.3	27.6	6.9	6.9	3.4	31.0
18～29歳(n=83)	42.2	3.6	4.8	25.3	3.6	2.4	36.1	7.2	4.8	2.4	14.5
30～39歳(n=126)	34.9	4.0	2.4	12.7	7.9	7.1	27.8	5.6	2.4	3.2	24.6
40～49歳(n=171)	36.3	4.1	2.9	15.2	7.0	5.3	26.9	8.8	1.8	5.3	21.6
50～59歳(n=146)	43.8	5.5	4.1	12.3	6.2	10.3	22.6	10.3	1.4	4.8	23.3
60～69歳(n=280)	41.4	6.1	2.9	9.3	5.4	7.5	21.8	9.6	1.4	1.4	22.1
70～79歳(n=261)	26.1	16.1	5.0	8.0	11.9	13.0	20.3	9.2	1.5	2.3	31.0
80歳以上(n=60)	28.3	21.7	11.7	8.3	18.3	11.7	23.3	13.3	3.3	1.7	31.7

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

3 女性の人権について

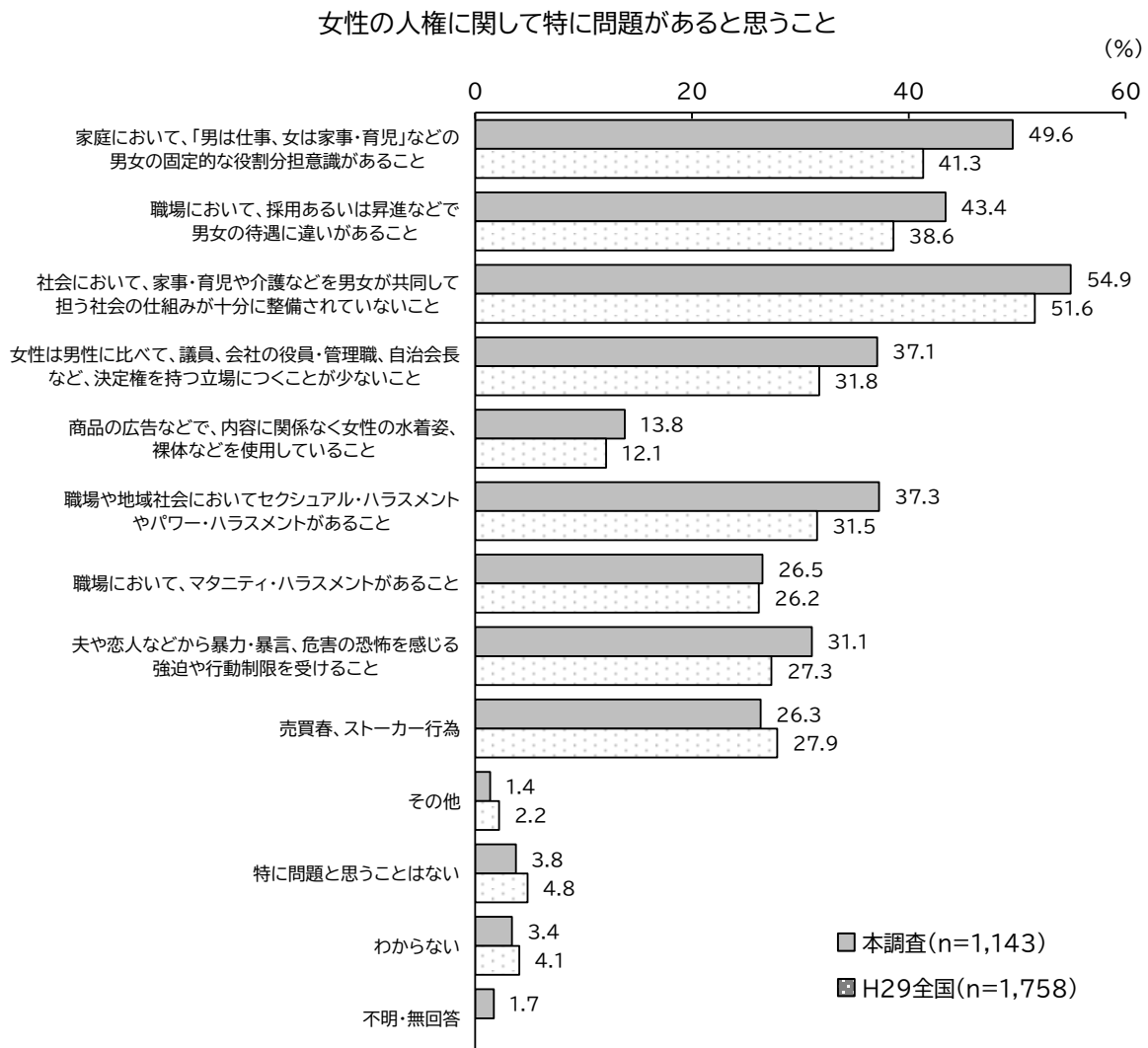
(1) 女性の人権に関して特に問題があると思うこと

問2 女性に関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

【本調査の結果及び前回調査との比較】

女性の人権上特に問題があると思うことについて、最も多いのは「社会において、家事・育児や介護などを男女が共同して担う社会の仕組みが十分に整備されていないこと」で54.9%、次いで「家庭において、「男は仕事、女は家事・育児」などの男女の固定的な役割分担意識があること」が49.6%、「職場において、採用あるいは昇進などで男女の待遇に違いがあること」が43.4%となっています。

「前回調査」と比較すると、大きく増減した項目はありません。



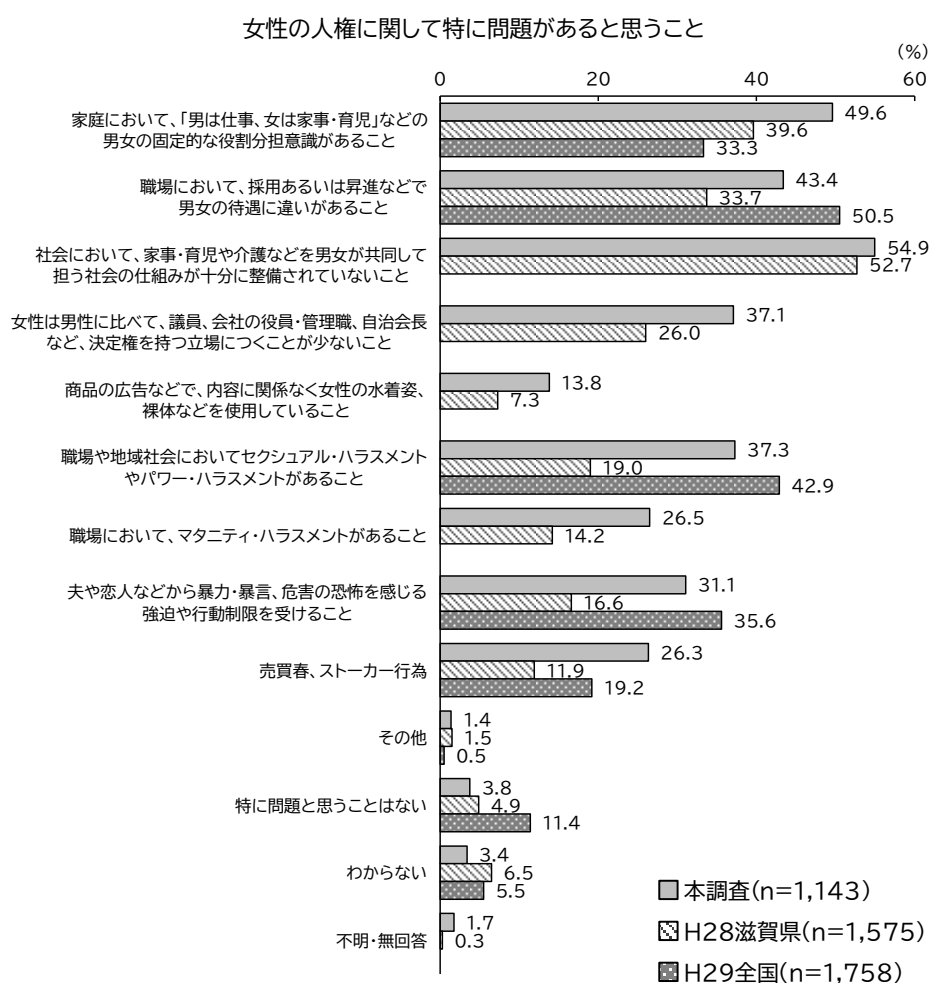
※ 「前回調査」では、「不明・無回答」は未集計

【滋賀県及び全国との比較】

「H28滋賀県」では、「社会において、家事・育児や介護などを男女が共同して担う社会の仕組みが十分に整備されていないこと」が52.7%、「H29全国」では、「職場において、採用あるいは昇進などで男女の待遇に違いがあること」が50.5%と最も多くなっています。

「本調査」を「H28滋賀県」と比較すると、「家庭において、「男は仕事、女は家事・育児」などの男女の固定的な役割分担意識があること」「女性は男性に比べて、議員、会社の役員・管理職、自治会長など、決定権を持つ立場につくことが少ないこと」「職場や地域社会においてセクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメントがあること」「職場において、マタニティ・ハラスメントがあること」「夫や恋人などから暴力・暴言、危害の恐怖を感じる強迫や行動制限を受けること」「売買春、ストーカー行為」が10ポイント以上多くなっています。

「本調査」を「H29全国」と比較すると、「家庭において、「男は仕事、女は家事・育児」などの男女の固定的な役割分担意識があること」が10ポイント以上多くなっています。



- ※ 「社会において、家事・育児や介護などを男女が共同して担う社会の仕組みが十分に整備されていないこと」「女性は男性に比べて、議員、会社の役員・管理職、自治会長など、決定権を持つ立場につくことが少ないこと」「商品の広告などで、内容に関係なく女性の水着姿、裸体などを使用していること」「職場において、マタニティ・ハラスメントがあること」は「本調査」「H28滋賀県」のみ
- ※ 「H28滋賀県」は3つまでに○、「職場や地域社会においてセクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメントがあること」は「職場や地域社会において、セクシュアルハラスメント(性的嫌がらせ)があること」、「職場において、マタニティ・ハラスメントがあること」は「職場において、マタニティ・ハラスメント(妊娠・出産した女性に対する職場での嫌がらせ)があること」
- ※ 「H29全国」では、「家庭において、「男は仕事、女は家事・育児」などの男女の固定的な役割分担意識があること」は「男女の固定的な役割分担」、「職場において、採用あるいは昇進などで男女の待遇に違いがあること」は「職場において差別待遇を受けること」、「職場や地域社会においてセクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメントがあること」は「セクシュアル・ハラスメント」、「夫や恋人などから暴力・暴言、危害の恐怖を感じる強迫や行動制限を受けること」は「ドメスティック・バイオレンス」、「売買春、ストーカー行為」は「売春・買春」、「特に問題と思うことはない」は「特にない」、「不明・無回答」は未集計

【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」とともに「社会において、家事・育児や介護などを男女が共同して担う社会の仕組みが十分に整備されていないこと」が最も多くなっています。「女性」でその次に多いのは「家庭において、「男は仕事、女は家事・育児」などの男女の固定的な役割分担意識があること」、次いで「職場において、採用あるいは昇進などで男女の待遇に違いがあること」となっています。「家庭において、「男は仕事、女は家事・育児」などの男女の固定的な役割分担意識があること」「社会において、家事・育児や介護などを男女が共同して担う社会の仕組みが十分に整備されていないこと」は、「女性」が「男性」より10ポイント以上多くなっています。

年齢別にみると、全ての年代で「家庭において、「男は仕事、女は家事・育児」などの男女の固定的な役割分担意識があること」が上位となっています。また、「18～29歳」「30～39歳」は、「職場において、採用あるいは昇進などで男女の待遇に違いがあること」が他の年代よりも多くなっています。

女性の人権に関して特に問題があると思うこと

(単位:%)

	家庭において、「男は仕事、女は家事・育児」などの男女の固定的な役割分担意識があること	職場において、採用あるいは昇進などで男女の待遇に違いがあること	社会において、「男は仕事、女は家事・育児」などの男女の固定的な役割分担意識があること	女性に比べて、議員、会社の役員・管理職、自治会長など、役職につくことが少ないこと	商品の広告などで、裸体などを使用していること	セクシュアル・ハラスメントやパワハラ・ハラスメントがあること	職場や地域社会においてマタニティ・ハラスメントがあること	夫や恋人などから暴力・暴言、危害の恐怖を感じる強迫や行動制限を受けること	売買春、ストーカー行為	その他
本調査(n=1,143)	49.6	43.4	54.9	37.1	13.8	37.3	26.5	31.1	26.3	1.4
女性(n=639)	56.7	44.1	62.3	34.0	15.6	39.6	29.9	33.2	26.8	0.9
男性(n=457)	42.5	43.1	47.5	41.6	11.4	34.6	21.9	28.4	26.9	2.0
回答しない(n=29)	31.0	44.8	34.5	44.8	13.8	31.0	24.1	27.6	10.3	0.0
18～29歳(n=83)	61.4	54.2	59.0	36.1	13.3	47.0	39.8	31.3	32.5	2.4
30～39歳(n=126)	55.6	54.0	68.3	29.4	9.5	38.9	39.7	23.0	19.8	1.6
40～49歳(n=171)	45.6	42.1	57.3	28.1	12.3	35.1	32.7	30.4	22.8	1.2
50～59歳(n=146)	53.4	41.1	46.6	35.6	18.5	39.0	24.7	37.0	28.8	1.4
60～69歳(n=280)	49.6	38.2	58.2	35.7	12.9	34.3	18.6	33.2	23.6	0.7
70～79歳(n=261)	47.5	42.9	53.3	48.3	14.9	36.0	21.1	29.9	29.1	1.9
80歳以上(n=60)	43.3	48.3	36.7	43.3	15.0	41.7	26.7	31.7	36.7	0.0

	特に問題と思う	わからない	不明・無回答
本調査(n=1,143)	3.8	3.4	1.7
女性(n=639)	2.8	2.5	1.7
男性(n=457)	5.0	4.2	0.7
回答しない(n=29)	3.4	6.9	6.9
18～29歳(n=83)	1.2	1.2	0.0
30～39歳(n=126)	1.6	2.4	0.8
40～49歳(n=171)	4.1	4.7	0.6
50～59歳(n=146)	4.1	4.8	0.0
60～69歳(n=280)	2.5	2.5	1.8
70～79歳(n=261)	6.1	3.4	3.4
80歳以上(n=60)	6.7	5.0	1.7

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

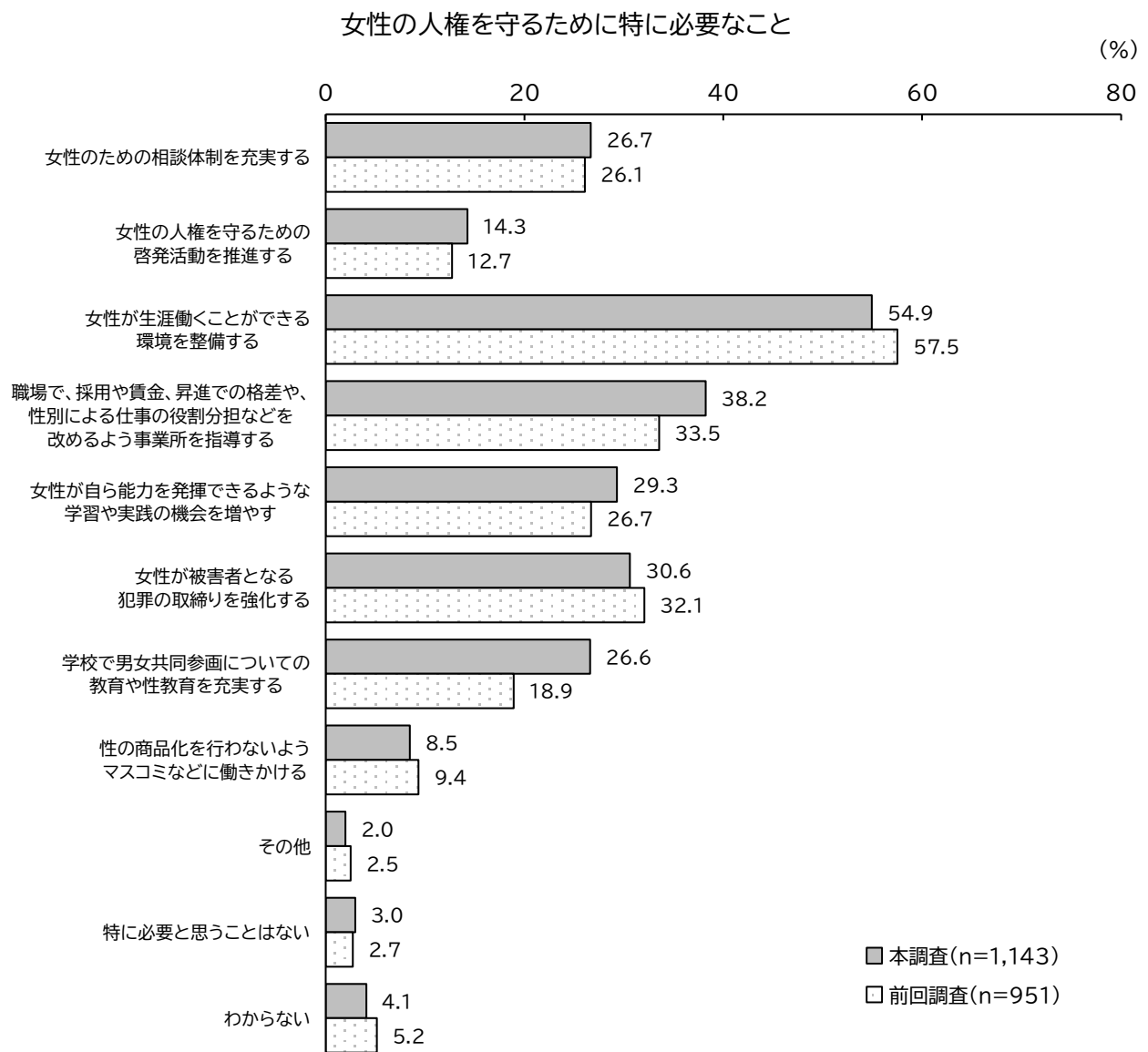
(2) 女性の人権を守るために特に必要なこと

問3 あなたは、女性の人権を守るためには特にどのようなことが必要だと思いますか。(3つまでに○)

【本調査の結果】

女性の人権を守るために特に必要なことについて、最も多いのは「女性が生涯働くことができる環境を整備する」で54.9%、次いで「職場で、採用や賃金、昇進での格差や、性別による仕事の役割分担などを改めるよう事業所を指導する」が38.2%、「女性が被害者となる犯罪の取締りを強化する」が30.6%となっています。

「前回調査」と比較すると、大きく増減した項目はありません。



【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」とともに「女性が生涯働くことができる環境を整備する」が最も多くなっており、さらに「女性」は60.6%、「男性」は48.8%で、「女性」の方が10ポイント以上多くなっています。「女性」でその次に多いのは「職場で、採用や賃金、昇進での格差や、性別による仕事の役割分担などを改めるよう事業所を指導する」で37.6%、「男性」も41.4%と多い傾向にあります。次いで「女性が自ら能力を発揮できるような学習や実践の機会を増やす」となっています。

年齢別にみると、全ての年代で「女性が生涯働くことができる環境を整備する」が最も多くなっています。他の年代と比較すると、「18～29歳」では、「学校で男女共同参画についての教育や性教育を充実する」が多くなっています。

女性の人権を守るために特に必要なこと

(単位:%)

	女性のための相談体制を充実する	啓発活動を進めるための女性の人権を守るための	女性が生涯働くことができる環境を整備する	職場で、採用や賃金、昇進での格差や、性別による仕事の役割分担などを改めるよう事業所を指導する	女性が自ら能力を発揮できるような学習や実践の機会を増やす	女性が被害者となる犯罪の取締りを強化する	学校で男女共同参画についての教育や性教育を充実する	性的商品化を行わないようマスコミなどに働きかける	その他	特に必要と思うことはない	わからない
本調査(n=1,143)	26.7	14.3	54.9	38.2	29.3	30.6	26.6	8.5	2.0	3.0	4.1
女性(n=639)	27.5	11.7	60.6	37.6	31.5	30.7	27.9	8.5	2.2	2.2	4.2
男性(n=457)	26.7	18.4	48.8	41.4	25.4	30.4	25.4	8.8	2.0	3.9	3.7
回答しない(n=29)	20.7	10.3	48.3	13.8	41.4	37.9	20.7	3.4	0.0	6.9	3.4
18～29歳(n=83)	22.9	16.9	59.0	44.6	25.3	36.1	37.3	6.0	3.6	2.4	3.6
30～39歳(n=126)	23.8	11.9	61.9	39.7	27.8	31.0	24.6	0.0	3.2	0.8	0.8
40～49歳(n=171)	24.6	11.7	56.7	36.3	26.3	33.9	25.7	7.6	2.9	1.8	8.2
50～59歳(n=146)	32.2	10.3	47.9	40.4	30.1	29.5	19.9	11.0	4.1	3.4	7.5
60～69歳(n=280)	30.0	13.2	60.0	35.7	28.9	28.2	27.1	8.9	0.7	1.4	3.6
70～79歳(n=261)	23.8	18.0	50.6	38.3	31.8	30.3	29.9	11.9	0.4	5.4	2.3
80歳以上(n=60)	33.3	23.3	51.7	41.7	31.7	30.0	18.3	8.3	3.3	6.7	3.3

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

4 子どもの人権について

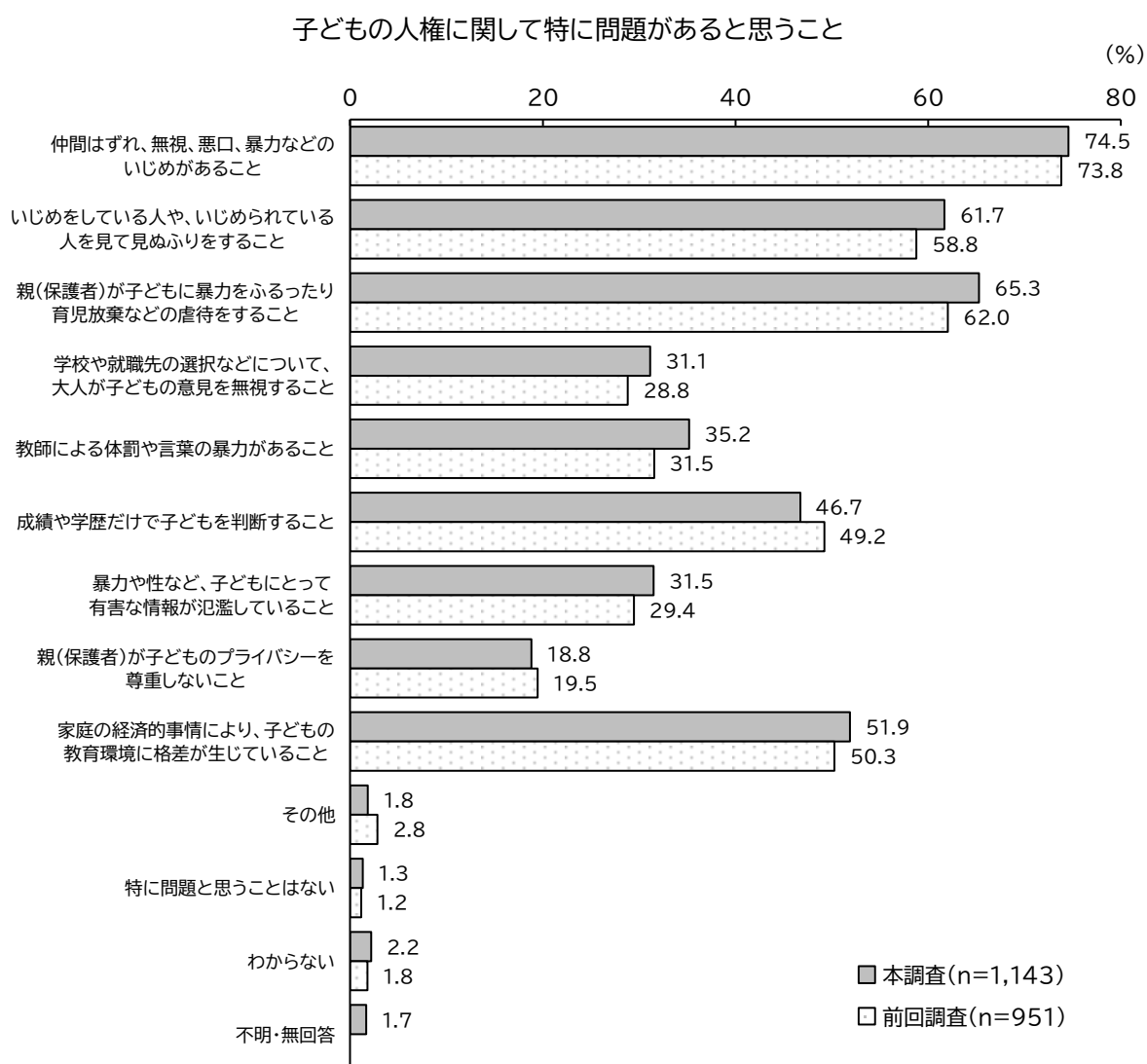
(1) 子どもの人権に関して特に問題があると思うこと

問4 子どもに関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

【本調査の結果及び前回調査との比較】

子どもの人権上特に問題があると思うことについて、最も多いのは「仲間はずれ、無視、悪口、暴力などのいじめがあること」で74.5%、次いで「親(保護者)が子どもに暴力をふるったり育児放棄などの虐待をすること」が65.3%、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする事」が61.7%となっています。

「前回調査」と比較すると、大きく増減した項目はありません。



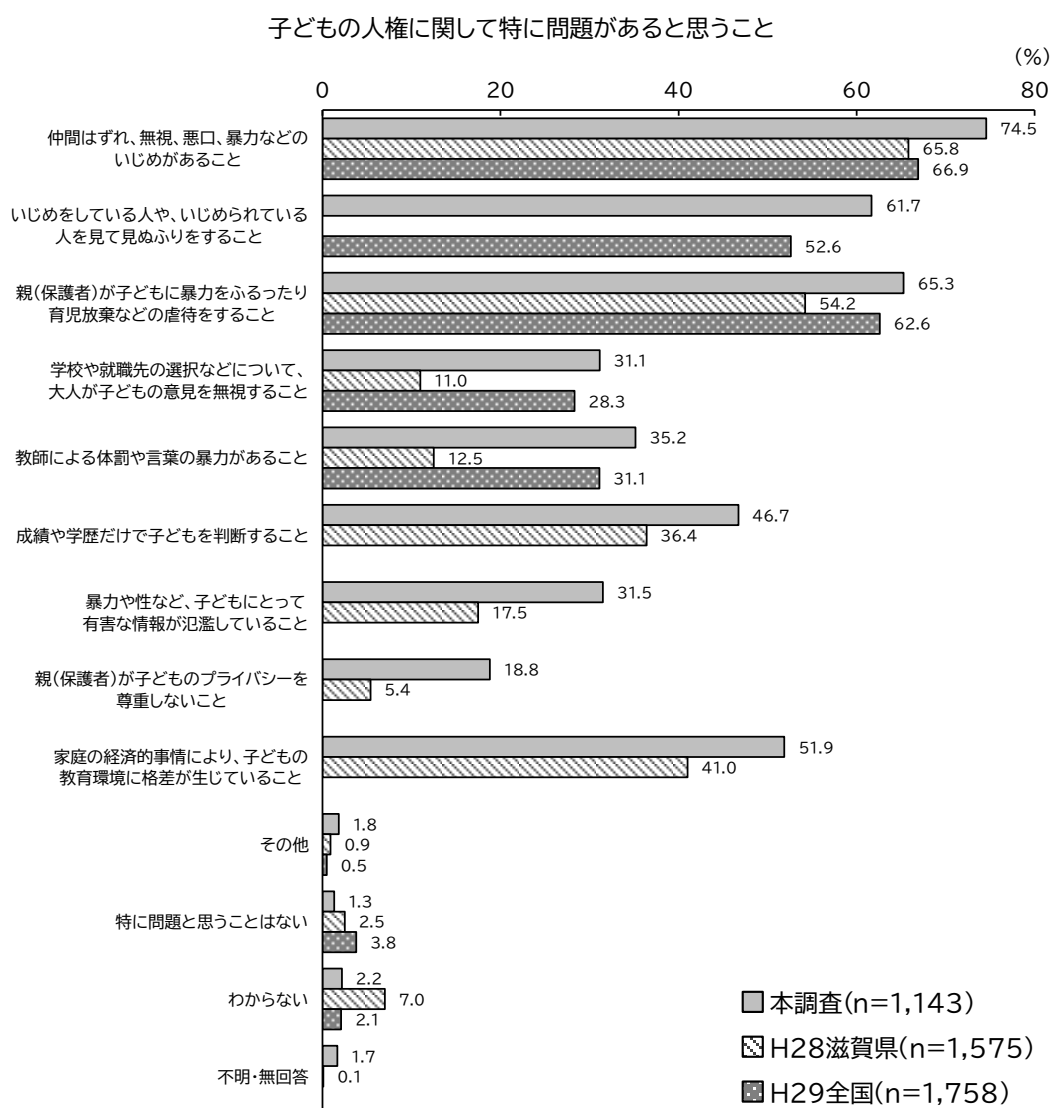
※ 「前回調査」では、「不明・無回答」は未集計

【滋賀県及び全国との比較】

「H28滋賀県」「H29全国」においても、「仲間はずれ、無視、悪口、暴力などのいじめがあること」が最も多くなっています。

「本調査」を「H28滋賀県」と比較すると、「親(保護者)が子どもに暴力をふるったり育児放棄などの虐待をすること」「学校や就職先の選択などについて、大人が子どもの意見を無視すること」「教師による体罰や言葉の暴力があること」「成績や学歴だけで子どもを判断すること」「暴力や性など、子どもにとって有害な情報が氾濫していること」「親(保護者)が子どものプライバシーを尊重しないこと」「家庭の経済的事情により、子どもの教育環境に格差が生じていること」が10ポイント以上多くなっています。

「本調査」を「H29全国」と比較すると、大きな差が見られる項目はありません。



※ 「成績や学歴だけで子どもを判断すること」「暴力や性など、子どもにとって有害な情報が氾濫していること」「親(保護者)が子どものプライバシーを尊重しないこと」「家庭の経済的事情により、子どもの教育環境に格差が生じていること」は「本調査」「H28滋賀県」のみ

※ 「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする」は「本調査」「H29全国」のみ

※ 「H28滋賀県」は3つまでに○

※ 「H29全国」では、「仲間はずれ、無視、悪口、暴力などのいじめがあること」は「いじめを受けること」、「いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをする」は「いじめ等を見て見ぬふりをする」、「親(保護者)が子どもに暴力をふるったり育児放棄などの虐待をすること」は「虐待を受けること」、「学校や就職先の選択などについて、大人が子どもの意見を無視すること」は「子どもの意見を大人が無視すること」、「教師による体罰や言葉の暴力があること」は「体罰を受けること」、「特に問題とすることは無い」は「特にない」、「不明・無回答」は未集計

【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」とともに「仲間はずれ、無視、悪口、暴力などのいじめがあること」が最も多くなっています。

年齢別にみると、全ての年代において「仲間はずれ、無視、悪口、暴力などのいじめがあること」が最も多くなっています。他の年代と比較すると、「18～29歳」では、「親(保護者)が子どもに暴力をふるったり育児放棄などの虐待をすること」「学校や就職先の選択などについて、大人が子どもの意見を無視すること」「成績や学歴だけで子どもを判断すること」が多くなっています。また、「家庭の経済的事情により、子どもの教育環境に格差が生じていること」は、79歳以下の全ての年代で約50%となっています。

子どもの人権に関して特に問題があると思うこと

(単位:%)

	暴力など 仲間はずれ、 無視、悪口、 いじめがあること	見 て 見 ぬ ふ り を す る こ と	い じ め を し て い る 人 や、 い じ め を し て い る こ と	親(保護者)が子どもに 暴力をふるったり育児 放棄などの虐待を すること	学校や就職先の選 択などについて、大 人が子どもの意見 を無視すること	教師による体罰や 言葉の暴力がある こと	成績や学歴だけ で子どもを判断 すること	暴力や性など、 子どもにとつて 有害な情報が 氾濫している こと	親(保護者)が 子どものプライ バシーを尊重 しないこと	家庭の経済的 事情により、 子どもの教育 環境に格差が 生じている こと	その他
本調査(n=1,143)	74.5	61.7	65.3	31.1	35.2	46.7	31.5	18.8	51.9	1.8	
女性(n=639)	76.4	62.8	67.1	31.6	38.0	50.5	34.3	19.4	54.3	1.6	
男性(n=457)	73.3	61.3	64.6	29.5	31.9	43.3	28.4	17.7	49.0	2.4	
回答しない(n=29)	72.4	51.7	55.2	48.3	31.0	34.5	27.6	31.0	48.3	0.0	
18～29歳(n=83)	79.5	61.4	75.9	50.6	37.3	55.4	18.1	26.5	54.2	3.6	
30～39歳(n=126)	81.7	60.3	72.2	42.9	43.7	44.4	36.5	23.0	49.2	2.4	
40～49歳(n=171)	73.7	58.5	71.3	33.3	33.3	35.7	30.4	16.4	51.5	2.3	
50～59歳(n=146)	74.7	66.4	69.9	32.2	34.9	45.2	32.2	16.4	56.2	3.4	
60～69歳(n=280)	74.3	60.7	63.2	22.1	31.4	47.1	30.7	15.4	51.1	0.4	
70～79歳(n=261)	70.5	62.5	58.2	28.0	36.0	53.3	35.6	19.9	54.4	1.5	
80歳以上(n=60)	78.3	65.0	55.0	25.0	38.3	50.0	30.0	26.7	36.7	1.7	

	こ と は 問 題 と 思 う	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
本調査(n=1,143)	1.3	2.2	1.7
女性(n=639)	1.4	1.7	1.7
男性(n=457)	1.1	2.6	0.7
回答しない(n=29)	0.0	3.4	3.4
18～29歳(n=83)	1.2	1.2	0.0
30～39歳(n=126)	0.0	1.6	0.8
40～49歳(n=171)	1.2	0.6	1.2
50～59歳(n=146)	2.7	2.7	0.7
60～69歳(n=280)	1.8	1.4	0.4
70～79歳(n=261)	0.8	3.8	3.8
80歳以上(n=60)	1.7	5.0	1.7

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

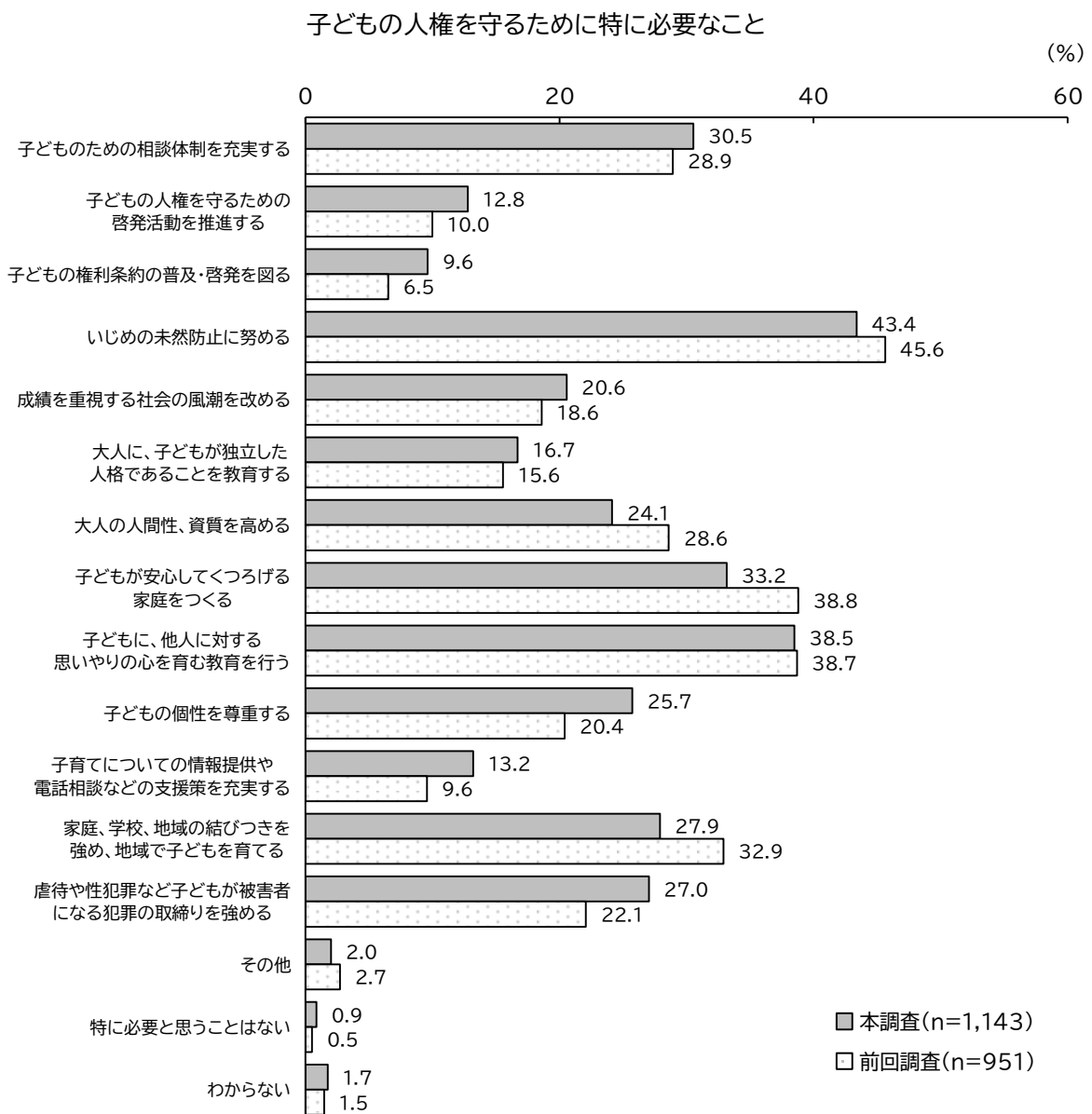
(2) 子どもの人権を守るために特に必要なこと

問5 あなたは、子どもの人権を守るためには特にどのようなことが必要だと思いますか。(3つまでに○)

【本調査の結果】

子どもの人権を守るために特に必要なことについて、最も多いのは「いじめの未然防止に努める」で43.4%、次いで「子どもに、他人に対する思いやりの心を育む教育を行う」が38.5%、「子どもが安心してくつろげる家庭をつくる」が33.2%となっています。

「前回調査」と比較すると、大きく増減した項目はありません。



【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」とともに「いじめの未然防止に努める」が最も多くなっています。「子どもが安心してくつろげる家庭をつくる」は、「女性」が「男性」より10ポイント以上多くなっています。

年齢別にみると、「18～29歳」では「いじめの未然防止に努める」と「子どもが安心してくつろげる家庭をつくる」が同数で最も多くなっています。「50～59歳」では「子どものための相談体制を充実する」が、「80歳以上」では「子どもが安心してくつろげる家庭をつくる」が最も多くなっています。他の年代では「いじめの未然防止に努める」が最も多くなっています。

他の年代と比較すると、「18～29歳」では、「成績を重視する社会の風潮を改める」「大人に、子どもが独立した人格であることを教育する」が多く、「30～39歳」では、「子どものための相談体制を充実する」が少なくなっています。

子どもの人権を守るために特に必要なこと

(単位:%)

	子どものための相談体制を充実する	子どもの人権を守るための啓発活動を推進する	子どもの権利条約の普及・啓発を図る	いじめの未然防止に努める	成績を重視する社会の風潮を改める	大人に、子どもが独立した人格であることを教育する	大人の人間性、資質を高める	子どもが安心してくつろげる家庭をつくる	子どもに、他人に対する思いやりの心を育む教育を行う	子どもの個性を尊重する
本調査(n=1,143)	30.5	12.8	9.6	43.4	20.6	16.7	24.1	33.2	38.5	25.7
女性(n=639)	30.7	10.8	8.9	41.8	20.7	18.2	23.6	38.0	38.7	26.6
男性(n=457)	30.9	15.8	11.2	45.5	20.4	14.9	24.9	27.4	38.1	24.1
回答しない(n=29)	27.6	13.8	6.9	48.3	24.1	20.7	20.7	24.1	41.4	34.5
18～29歳(n=83)	25.3	9.6	12.0	41.0	34.9	28.9	21.7	41.0	34.9	34.9
30～39歳(n=126)	19.8	10.3	7.1	50.0	15.1	18.3	22.2	40.5	41.3	31.0
40～49歳(n=171)	26.9	8.8	8.2	40.4	24.0	21.1	33.3	35.1	36.8	31.0
50～59歳(n=146)	43.2	17.1	11.6	41.8	15.8	17.1	29.5	26.7	37.0	20.5
60～69歳(n=280)	36.4	11.1	9.6	42.5	17.9	15.0	23.9	25.0	38.2	23.9
70～79歳(n=261)	26.8	16.1	9.6	45.6	23.4	13.0	18.8	36.0	39.8	23.0
80歳以上(n=60)	31.7	18.3	13.3	38.3	13.3	8.3	11.7	43.3	40.0	18.3

	子育てに関する情報提供や電話相談など	家庭、学校、地域での子どもを育てる	子どもが被害者となる	虐待や犯罪者など	その他	特には必要としない	わからない
本調査(n=1,143)	13.2	27.9	27.0	2.0	0.9	1.7	
女性(n=639)	14.6	28.3	28.5	2.2	0.6	1.1	
男性(n=457)	11.6	28.0	25.6	2.0	0.9	2.6	
回答しない(n=29)	17.2	20.7	24.1	0.0	3.4	3.4	
18～29歳(n=83)	13.3	24.1	28.9	2.4	2.4	1.2	
30～39歳(n=126)	15.1	30.2	31.0	4.0	0.0	0.8	
40～49歳(n=171)	11.1	24.6	30.4	1.8	0.6	0.6	
50～59歳(n=146)	23.3	25.3	29.5	4.1	1.4	4.1	
60～69歳(n=280)	13.9	25.4	24.3	1.1	1.1	1.1	
70～79歳(n=261)	10.0	34.5	24.9	0.8	0.4	2.7	
80歳以上(n=60)	5.0	28.3	26.7	3.3	1.7	1.7	

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

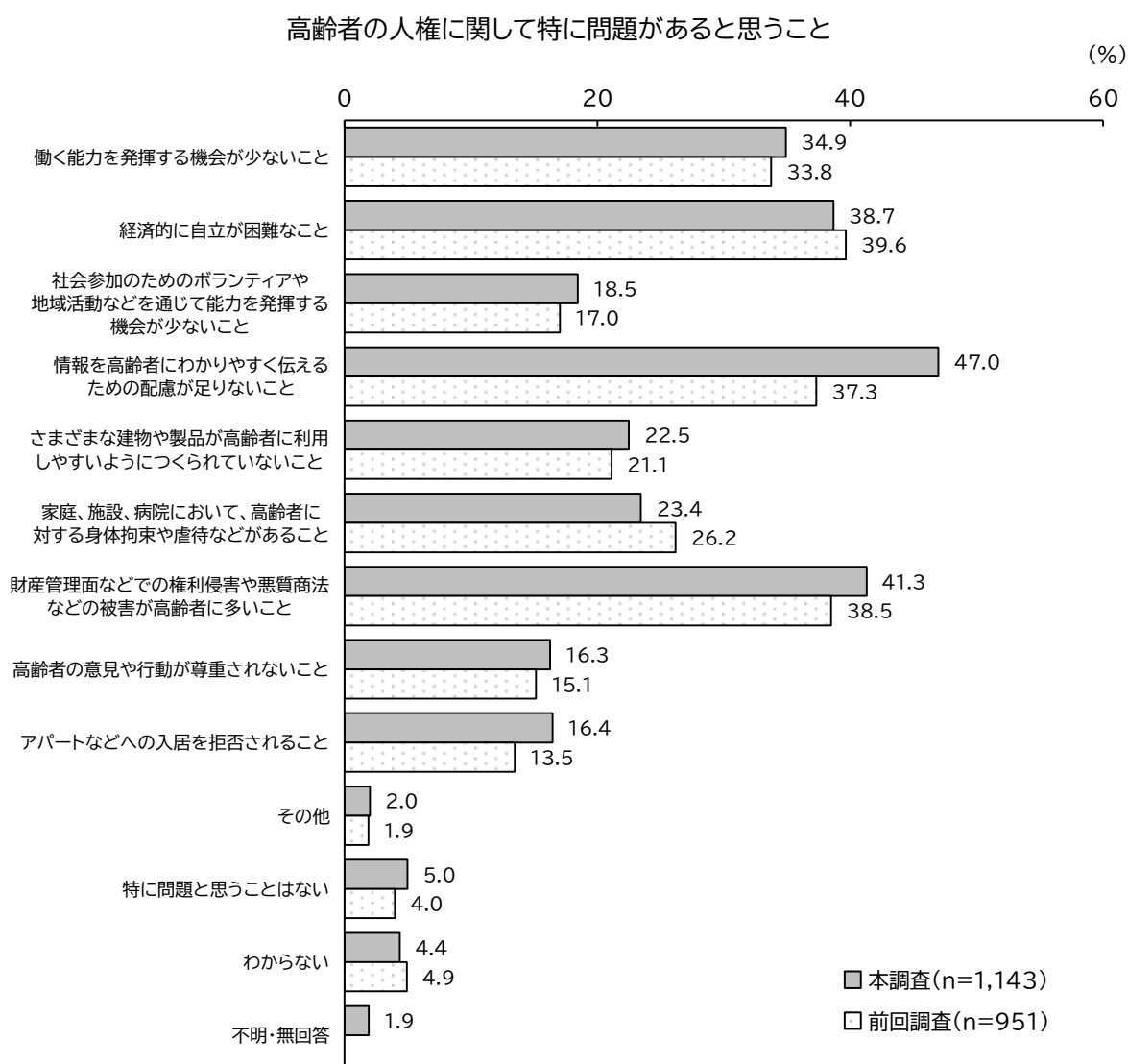
5 高齢者の人権について

(1) 高齢者の人権に関して特に問題があると思うこと

問6 高齢者に関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

【本調査の結果及び前回調査との比較】

高齢者の人権上特に問題があると思うことについて、最も多いのは「情報を高齢者にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと」で47.0%、次いで「財産管理面などでの権利侵害や悪質商法などの被害が高齢者に多いこと」が41.3%、「経済的に自立が困難なこと」が38.7%となっています。



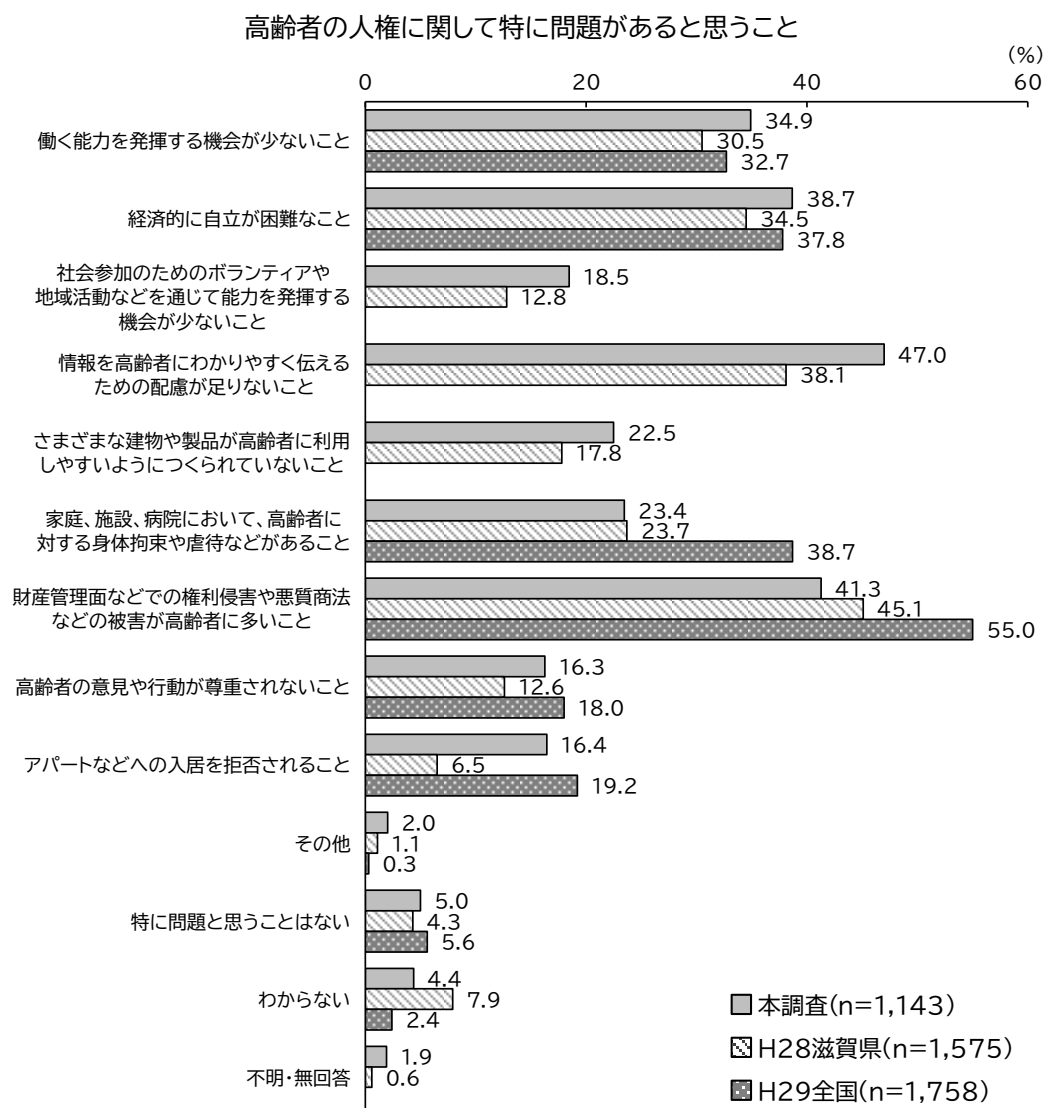
※ 「前回調査」では、「不明・無回答」は未集計

【滋賀県及び全国との比較】

「H28滋賀県」「H29全国」では、「財産管理面などでの権利侵害や悪質商法などの被害が高齢者に多いこと」が最も多くなっています。

「本調査」を「H28滋賀県」と比較すると、大きな差が見られる項目はありません。

「本調査」を「H29全国」と比較すると、「家庭、施設、病院において、高齢者に対する身体拘束や虐待などがあること」「財産管理面などでの権利侵害や悪質商法などの被害が高齢者に多いこと」が10ポイント以上少なくなっています。



- ※ 「社会参加のためのボランティアや地域活動などを通じて能力を発揮する機会が少ないこと」「情報を高齢者にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと」「さまざまな建物や製品が高齢者に利用しやすいようにつくられていないこと」は「本調査」「H28滋賀県」のみ
- ※ 「H28滋賀県」は3つまでに○、「家庭、施設、病院において、高齢者に対する身体拘束や虐待などがあること」は「病院や施設、家庭において劣悪な処遇や拘束・虐待などがあること」、「財産管理面などでの権利侵害や悪質商法などの被害が高齢者に多いこと」は「判断能力が十分でない高齢者に、財産管理面などでの権利侵害や悪質商法などの被害が多いこと」、「高齢者の意見や行動が尊重されないこと」は「高齢者の意見や行動を尊重しないこと」
- ※ 「H29全国」では、「家庭、施設、病院において、高齢者に対する身体拘束や虐待などがあること」は「病院等における劣悪な処遇や虐待」、「財産管理面などでの権利侵害や悪質商法などの被害が高齢者に多いこと」は「悪徳商法、特殊詐欺の被害が多いこと」、「特に問題と思うことはない」は「特にない」、「特に問題と思うことはない」は「特にない」、「不明・無回答」は未集計

【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」とともに「情報を高齢者にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと」が最も多くなっています。

年齢別にみると、全ての年代において「情報を高齢者にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと」が上位となっています。他の年代と比較すると、「18～29歳」「50～59歳」では、「経済的に自立が困難なこと」が多くなっています。

高齢者の人権に関して特に問題があると思うこと

(単位:%)

	少 働 く 能 力 を 発 揮 す る 機 会 が	経 済 的 に 自 立 が 困 難 な こ と	社 会 参 加 の た め の ボ ラ ン テ ィ ア や 地 域 活 動 な ど が 少 な い こ と	情 報 を 高 齢 者 に わ か り や す く 伝 え る た め の 配 慮 が 足 り な い こ と	高 齢 者 に 利 用 し や す い よ う に つ く ら れ て い な い こ と	さ ま ざ ま な 建 物 や 製 品 が う に 高 齢 者 に 利 用 し や す い よ う に つ く ら れ て い な い こ と	家 庭 施 設 、 病 院 に お い て 、 高 齢 者 に 対 す る 身 体 拘 束 や 虐 待 な ど が あ る こ と	多 い こ と 悪 質 商 法 な ど の 被 害 が 高 齢 者 に お い て 、 家 庭 施 設 、 病 院 に お い て 、 高 齢 者 に 対 す る 身 体 拘 束 や 虐 待 な ど が あ る こ と	財 産 管 理 面 な ど の 権 利 侵 害 や 悪 質 商 法 な ど の 被 害 が 高 齢 者 に お い て 、 家 庭 施 設 、 病 院 に お い て 、 高 齢 者 に 対 す る 身 体 拘 束 や 虐 待 な ど が あ る こ と	高 齢 者 の 意 見 や 行 動 が 尊 重 さ れ な い こ と	ア パ ー ト な ど へ の 入 居 を 拒 否 さ れ る こ と	そ の 他
本調査(n=1,143)	34.9	38.7	18.5	47.0	22.5	23.4	41.3	16.3	16.4	2.0		
女性(n=639)	37.2	41.2	18.3	50.2	24.7	26.3	42.6	18.6	17.8	2.0		
男性(n=457)	33.7	36.1	19.9	43.5	19.9	19.9	40.0	13.6	14.9	2.2		
回答しない(n=29)	13.8	31.0	6.9	41.4	20.7	27.6	37.9	13.8	17.2	0.0		
18～29歳(n=83)	26.5	49.4	14.5	45.8	26.5	28.9	42.2	10.8	13.3	2.4		
30～39歳(n=126)	31.0	34.9	11.9	40.5	22.2	32.5	38.1	15.9	15.1	2.4		
40～49歳(n=171)	38.6	39.8	21.6	45.6	18.1	21.6	48.0	9.9	26.3	1.2		
50～59歳(n=146)	42.5	50.0	19.2	47.3	21.2	28.1	38.4	16.4	28.8	2.7		
60～69歳(n=280)	36.4	40.7	20.0	47.9	26.1	22.9	42.1	16.4	12.1	1.8		
70～79歳(n=261)	32.2	30.7	19.2	47.9	21.1	19.9	41.4	22.6	11.1	1.9		
80歳以上(n=60)	33.3	26.7	20.0	63.3	25.0	13.3	33.3	16.7	11.7	3.3		

	こ と は 問 題 と 思 う	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
本調査(n=1,143)	5.0	4.4	1.9
女性(n=639)	3.8	4.4	1.6
男性(n=457)	6.1	4.4	1.5
回答しない(n=29)	10.3	3.4	3.4
18～29歳(n=83)	6.0	4.8	0.0
30～39歳(n=126)	4.8	7.9	1.6
40～49歳(n=171)	4.7	4.7	0.6
50～59歳(n=146)	0.7	6.2	0.7
60～69歳(n=280)	3.6	2.5	1.8
70～79歳(n=261)	6.9	3.8	3.4
80歳以上(n=60)	11.7	3.3	1.7

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

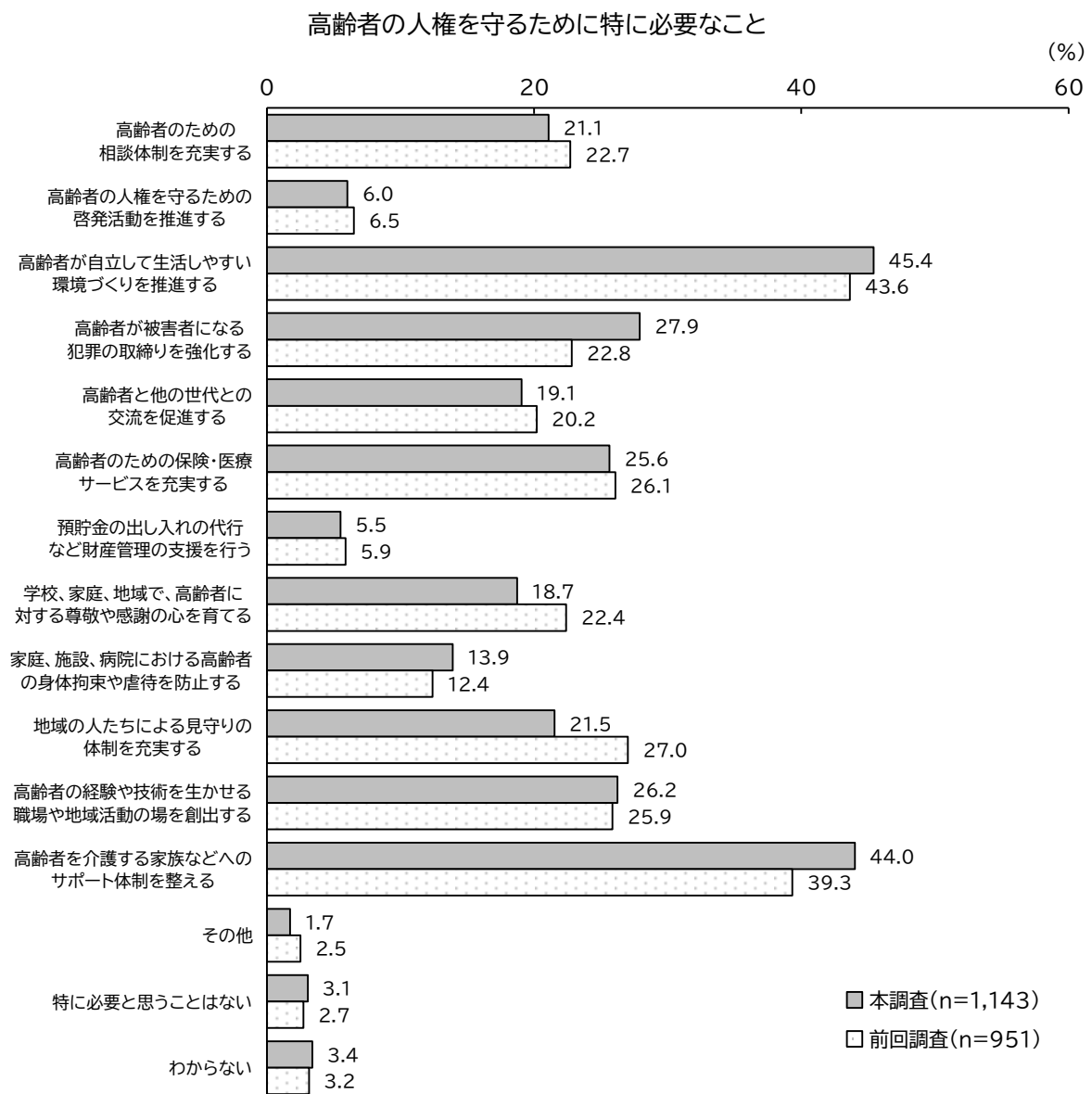
(2) 高齢者の人権を守るために特に必要なこと

問7 あなたは、高齢者の人権を守るためには特にどのようなことが必要だと思いますか。(3つまでに○)

【本調査の結果】

高齢者の人権を守るために特に必要なことについて、最も多いのは「高齢者が自立して生活しやすい環境づくりを推進する」で45.4%、次いで「高齢者を介護する家族などへのサポート体制を整える」が44.0%、「高齢者が被害者になる犯罪の取締りを強化する」が27.9%となっています。

「前回調査」と比較すると、大きく増減した項目はありません。



【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」では「高齢者を介護する家族などへのサポート体制を整える」が、「男性」では「高齢者が自立して生活しやすい環境づくりを推進する」が最も多くなっています。「高齢者を介護する家族などへのサポート体制を整える」は、「女性」が「男性」より10ポイント以上多くなっています。

年齢別にみると、全ての年代において「高齢者が自立して生活しやすい環境づくりを推進する」「高齢者を介護する家族などへのサポート体制を整える」が上位となっています。他の年代と比較すると、「80歳以上」では、「高齢者のための相談体制を充実する」が多くなっています。

高齢者の人権を守るために特に必要なこと

(単位:%)

	高齢者のための相談体制を充実する	高齢者の人権を推進するための啓発活動を推進する	高齢者が自立して生活しやすい環境づくりを推進する	高齢者が被害者になるのを防ぐ	高齢者との世代間の交流を促進する	高齢者のための保険・医療サービスを実施する	預貯金の出し入れの代行など財産管理の支援を行う	高齢者に対する敬意や感謝の心を育てる	学校、家庭、地域で、高齢者に対する虐待を防止する	家庭、施設、病院における高齢者の身体拘束や虐待を防止する	地域の人々による見守り体制を充実する
本調査(n=1,143)	21.1	6.0	45.4	27.9	19.1	25.6	5.5	18.7	13.9	21.5	
女性(n=639)	20.8	5.5	48.5	27.1	20.3	26.6	4.9	20.5	14.4	21.9	
男性(n=457)	22.5	7.0	43.1	29.5	18.4	25.2	6.3	17.1	13.3	21.9	
回答しない(n=29)	6.9	3.4	31.0	24.1	6.9	13.8	6.9	10.3	17.2	13.8	
18～29歳(n=83)	14.5	2.4	41.0	21.7	28.9	24.1	12.0	14.5	19.3	16.9	
30～39歳(n=126)	15.1	3.2	40.5	24.6	28.6	17.5	4.0	19.8	15.1	22.2	
40～49歳(n=171)	21.1	6.4	47.4	31.0	17.5	21.1	5.8	18.1	11.7	20.5	
50～59歳(n=146)	29.5	7.5	50.7	31.5	17.1	26.0	6.8	15.8	17.8	18.5	
60～69歳(n=280)	17.5	5.4	49.3	28.9	17.5	28.6	5.0	18.6	14.3	21.8	
70～79歳(n=261)	23.0	7.3	42.5	28.0	14.6	29.1	2.7	21.5	11.5	26.1	
80歳以上(n=60)	31.7	10.0	45.0	23.3	23.3	26.7	10.0	21.7	11.7	18.3	

	高齢者の経験や地域活動を創出する	高齢者を介護する家族などへのサポート体制を整える	その他	特に必要と思うことはない	わからない
本調査(n=1,143)	26.2	44.0	1.7	3.1	3.4
女性(n=639)	25.5	50.1	1.6	2.7	2.7
男性(n=457)	28.9	37.0	2.0	3.1	3.9
回答しない(n=29)	6.9	31.0	0.0	10.3	6.9
18～29歳(n=83)	24.1	44.6	4.8	7.2	2.4
30～39歳(n=126)	23.0	45.2	1.6	4.0	5.6
40～49歳(n=171)	38.0	49.7	1.2	3.5	5.3
50～59歳(n=146)	27.4	49.3	3.4	0.0	5.5
60～69歳(n=280)	28.6	38.6	0.4	1.8	1.8
70～79歳(n=261)	19.9	43.7	1.5	3.1	2.7
80歳以上(n=60)	18.3	41.7	3.3	5.0	1.7

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

6 障害のある人の人権について

(1) 障害のある人の人権に関して特に問題があると思うこと

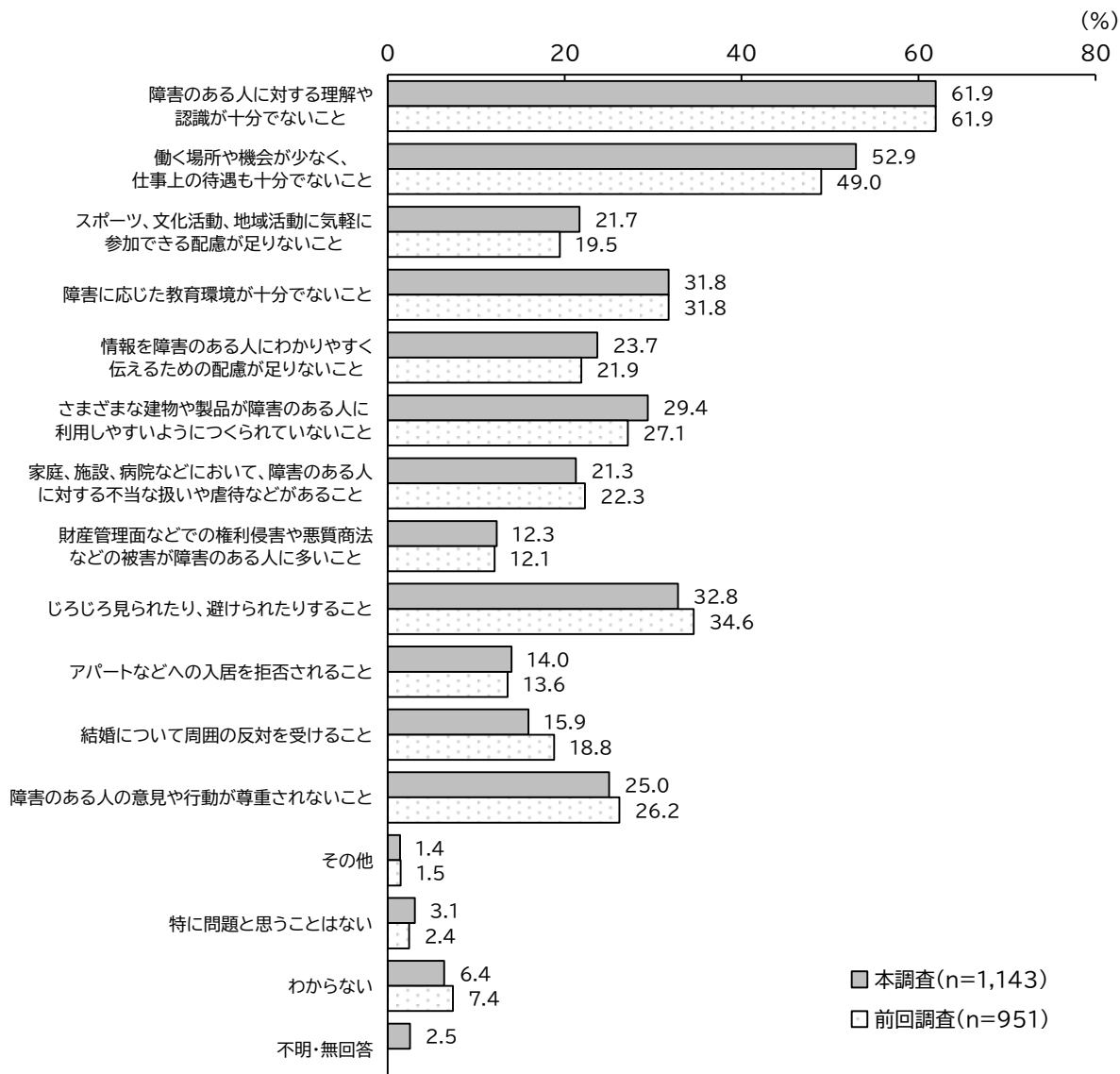
問8 障害のある人に関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

【本調査の結果及び前回調査との比較】

障害のある人の人権上特に問題があると思うことについて、最も多いのは「障害のある人に対する理解や認識が十分でないこと」で61.9%、次いで「働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇も十分でないこと」が52.9%、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」が32.8%となっています。

「前回調査」と比較すると、大きく増減した項目はありません。

障害のある人の人権に関して特に問題があると思うこと

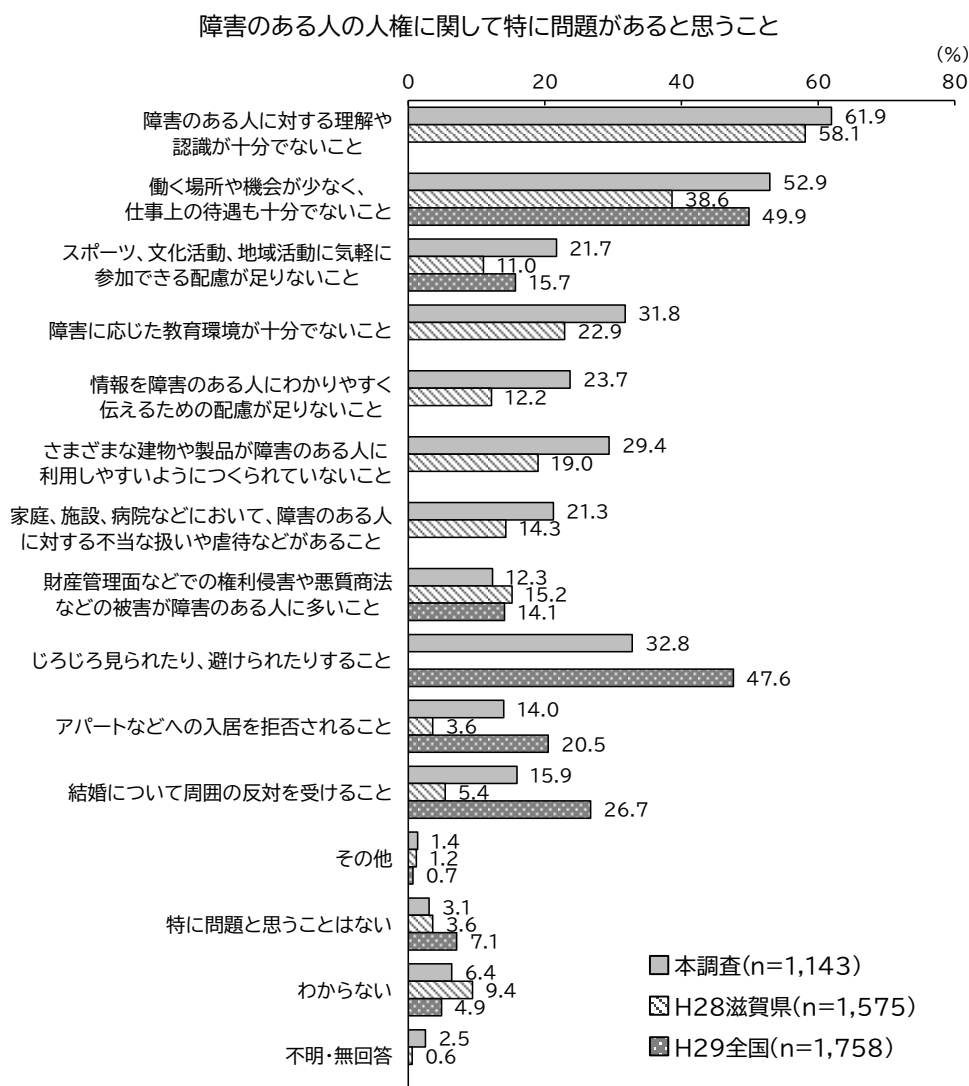


※ 「前回調査」では、「不明・無回答」は未集計

【滋賀県及び全国との比較】

「本調査」を「H28滋賀県」と比較すると、「障害のある人に対する理解や認識が十分でないこと」が最も多くなっており、「本調査」では61.9%、「H28滋賀県」では58.1%となっています。また、「働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇も十分でないこと」「スポーツ、文化活動、地域活動に気軽に参加できる配慮が足りないこと」「情報を障害のある人にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと」「さまざまな建物や製品が障害のある人に利用しやすいようにつくられていないこと」「アパートなどへの入居を拒否されること」「結婚について周囲の反対を受けること」が10ポイント以上多くなっています。

「本調査」を「H29全国」と比較すると、「じろじろ見られたり、避けられたりすること」「結婚について周囲の反対を受けること」が10ポイント以上少なくなっています。



- ※ 「障害のある人の意見や行動が尊重されないこと」は「本調査」のみにつき割愛
- ※ 「障害のある人に対する理解や認識が十分でないこと」「障害に応じた教育環境が十分でないこと」「情報を障害のある人にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと」「さまざまな建物や製品が障害のある人に利用しやすいようにつくられていないこと」「家庭、施設、病院などにおいて、障害のある人に対する不当な扱いや虐待などがあること」は「本調査」「H28滋賀県」のみ
- ※ 「じろじろ見られたり、避けられたりすること」は「本調査」「H29全国」のみ
- ※ 「H28滋賀県」は3つまでに○、「財産管理面などでの権利侵害や悪質商法などの被害が障害のある人に多いこと」は「判断能力が十分でない障害のある人に、財産管理面などでの権利侵害や悪質商法などの被害が多いこと」
- ※ 「H29全国」では、「働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇も十分でないこと」は「就職・職場で不利な扱いを受けること」、「スポーツ、文化活動、地域活動に気軽に参加できる配慮が足りないこと」は「スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと」、「財産管理面などでの権利侵害や悪質商法などの被害が障害のある人に多いこと」は「悪徳商法の被害が多いこと」、「結婚について周囲の反対を受けること」は「結婚問題で周囲の反対を受けること」、「特に問題とすることは無い」は「特になし」、「不明・無回答」は未集計

【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」とともに「障害のある人に対する理解や認識が十分でないこと」が最も多くなっています。

年齢別にみると、全ての年代において「障害のある人に対する理解や認識が十分でないこと」が最も多くなっています。他の年代と比較すると、「18～29歳」では、大半の項目が多くなっています。

障害のある人の人権に関して特に問題があると思うこと

(単位:%)

	障害のある人に対する理解や認識が十分でないこと	働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇も十分でないこと	スポーツ、文化活動、地域活動に気軽に参加できる配慮が足りないこと	障害に合った教育環境が十分でないこと	情報が障害のある人への配慮が足りなく伝えないこと	さまざまな建物や製品が利用しにくいこと	家庭、施設、病院などにおいて、障害のある人に対する不当な扱いや虐待などがあること	財産管理面などの権利侵害や悪質な被害が多いこと	避けられる見られたり、じろじろ見られたりすること	アパートなどへの入居を拒否されること
本調査(n=1,143)	61.9	52.9	21.7	31.8	23.7	29.4	21.3	12.3	32.8	14.0
女性(n=639)	64.2	52.6	22.4	33.0	24.3	32.4	22.8	12.8	34.1	13.8
男性(n=457)	61.1	55.4	22.5	31.3	23.9	26.0	19.7	11.8	31.9	14.7
回答しない(n=29)	51.7	41.4	3.4	20.7	24.1	24.1	24.1	13.8	24.1	13.8
18～29歳(n=83)	75.9	67.5	24.1	42.2	33.7	32.5	36.1	12.0	50.6	20.5
30～39歳(n=126)	67.5	51.6	23.0	36.5	23.0	28.6	23.8	11.9	38.9	14.3
40～49歳(n=171)	63.7	55.0	19.9	33.3	20.5	23.4	18.7	14.0	28.1	18.7
50～59歳(n=146)	62.3	55.5	24.7	30.8	32.2	34.2	27.4	16.4	39.0	20.5
60～69歳(n=280)	64.6	54.6	23.6	31.4	22.1	33.2	20.0	11.1	30.0	10.7
70～79歳(n=261)	54.8	49.8	19.9	27.6	21.8	29.9	17.2	10.0	29.9	10.7
80歳以上(n=60)	53.3	36.7	18.3	28.3	21.7	16.7	16.7	16.7	21.7	6.7

	結婚の反対を受けること	障害のある人の意見や行動が尊重されないこと	その他	特には問題ないと思う	わからない	不明・無回答
本調査(n=1,143)	15.9	25.0	1.4	3.1	6.4	2.5
女性(n=639)	16.4	26.1	0.8	2.8	6.9	2.8
男性(n=457)	15.8	24.3	2.4	3.5	4.8	1.1
回答しない(n=29)	6.9	20.7	0.0	3.4	17.2	0.0
18～29歳(n=83)	24.1	37.3	2.4	2.4	0.0	0.0
30～39歳(n=126)	19.8	29.4	1.6	1.6	6.3	2.4
40～49歳(n=171)	13.5	22.2	1.2	1.8	4.7	1.8
50～59歳(n=146)	17.8	26.0	2.1	2.1	6.2	0.7
60～69歳(n=280)	13.9	22.9	0.0	3.2	5.7	2.1
70～79歳(n=261)	15.3	23.0	1.9	5.4	8.4	4.2
80歳以上(n=60)	10.0	26.7	3.3	3.3	15.0	0.0

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

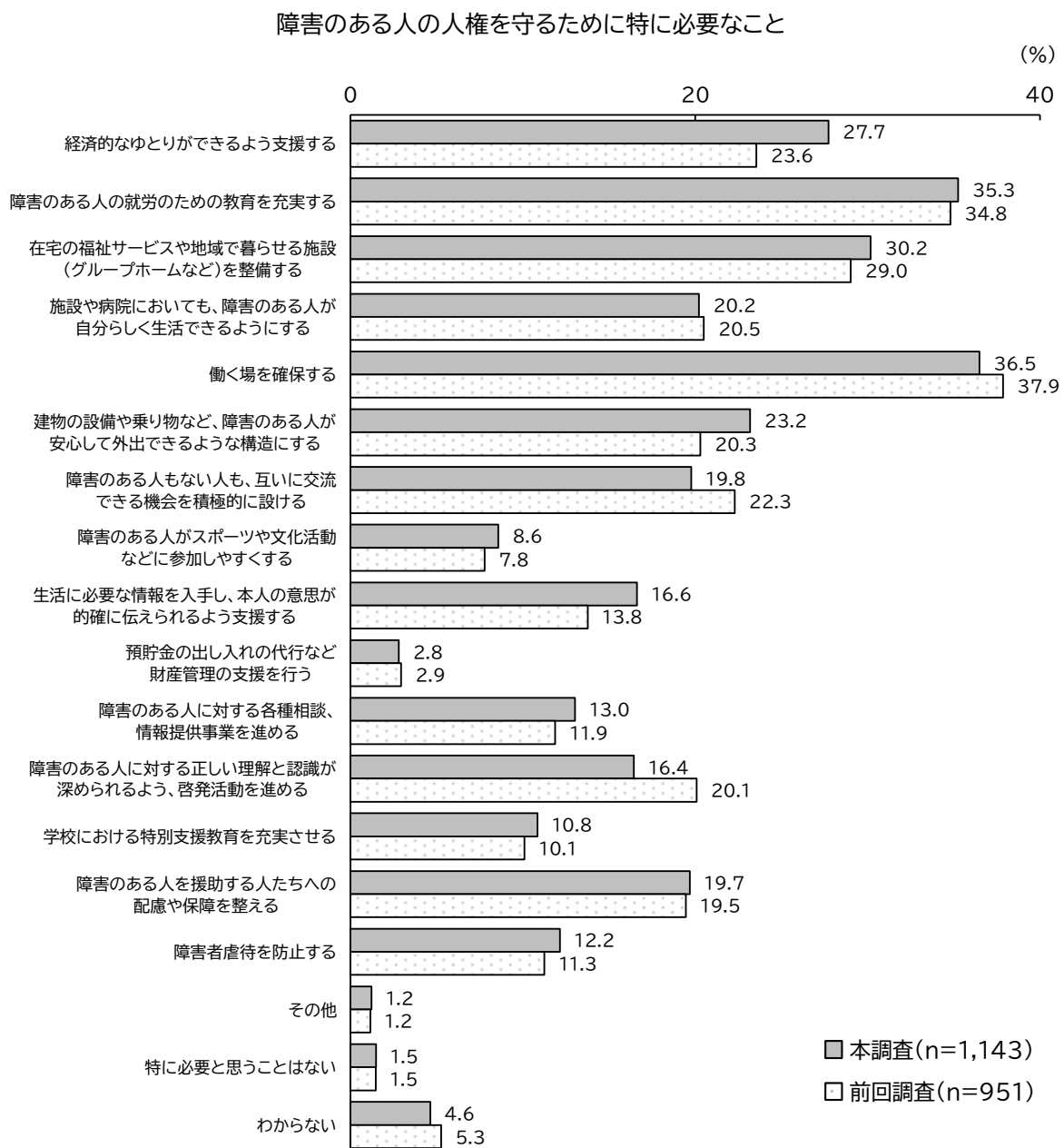
(2) 障害のある人の人権を守るために特に必要なこと

問9 あなたは、障害のある人の人権を守るためには特にどのようなことが必要だと思いますか。
(3つまでに○)

【本調査の結果】

障害のある人の人権を守るために特に必要なことについて、最も多いのは「働く場を確保する」で36.5%、次いで「障害のある人の就労のための教育を充実する」が35.3%、「在宅の福祉サービスや地域で暮らせる施設(グループホームなど)を整備する」が30.2%となっています。

「前回調査」と比較すると、大きく増減した項目はありません。



【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」とともに「働く場を確保する」が最も多くなっています。

年齢別にみると、「70～79歳」以下において「働く場を確保する」が上位となっており、「80歳以上」では、「経済的なゆとりができるよう支援する」が最も多くなっています。他の年代と比較すると、「18～29歳」では「在宅の福祉サービスや地域で暮らせる施設（グループホームなど）を整備する」が、「80歳以上」では「障害のある人の就労のための教育を充実する」「働く場を確保する」が少なくなっています。

障害のある人の人権を守るために特に必要なこと

(単位:%)

	経済的なゆとりができるよう支援する	障害のある人の就労のための教育を充実する	在宅の福祉サービスや地域で暮らせる施設（グループホームなど）を整備する	生活できる人自身らしく生活できるようにする	施設や病院においても、障害のある人が安心して生活できるようにする	働く場を確保する	外出できるような構造にする	建物の設備や乗り物など、障害のある人が安心して利用できる機会を積極的に設ける	障害のある人もない人も、互いに交流できる機会を	障害のある人がスポーツや文化活動などに参加しやすくする	障害のある人がスポーツや文化活動などに参加しやすくする	生活に必要な情報を入手し、伝えられるよう支援する	本人の意思が確かなるよう支援する	預貯金の出し入れの代行など財産管理の支援を行う
本調査(n=1,143)	27.7	35.3	30.2	20.2	36.5	23.2	19.8	8.6	16.6	2.8				
女性(n=639)	27.5	35.2	32.4	22.4	36.8	25.4	21.8	7.0	17.8	3.0				
男性(n=457)	28.4	36.5	28.2	17.5	37.4	20.1	17.7	10.9	15.8	2.4				
回答しない(n=29)	24.1	27.6	20.7	17.2	27.6	17.2	13.8	3.4	13.8	6.9				
18～29歳(n=83)	30.1	38.6	18.1	27.7	41.0	20.5	27.7	12.0	21.7	4.8				
30～39歳(n=126)	22.2	43.7	25.4	19.0	42.1	17.5	18.3	4.8	9.5	1.6				
40～49歳(n=171)	26.3	43.3	26.9	17.5	41.5	20.5	19.3	6.4	23.4	3.5				
50～59歳(n=146)	28.1	37.7	33.6	22.6	40.4	22.6	17.8	9.6	14.4	4.8				
60～69歳(n=280)	28.6	34.3	34.3	21.1	35.0	26.4	19.3	8.9	16.8	2.9				
70～79歳(n=261)	28.0	29.1	33.3	18.4	33.0	24.9	19.9	9.6	16.1	1.5				
80歳以上(n=60)	35.0	21.7	28.3	18.3	20.0	23.3	21.7	8.3	16.7	1.7				

	障害のある人に対する各種の啓発活動を進める	障害のある人に対する正しい理解と認識が深められるよう、啓発活動を進める	学校における特別支援教育を充実させる	障害のある人を援助する人たちの配慮や保障を整える	障害者虐待を防止する	その他	特に必要と思うことはない	わからない
本調査(n=1,143)	13.0	16.4	10.8	19.7	12.2	1.2	1.5	4.6
女性(n=639)	9.7	16.1	12.8	20.5	13.5	1.1	1.7	3.9
男性(n=457)	17.7	17.7	8.8	18.6	10.1	1.5	1.3	5.3
回答しない(n=29)	3.4	6.9	3.4	17.2	20.7	0.0	0.0	6.9
18～29歳(n=83)	14.5	22.9	21.7	20.5	16.9	2.4	2.4	1.2
30～39歳(n=126)	6.3	18.3	15.9	20.6	12.7	1.6	1.6	7.1
40～49歳(n=171)	12.3	17.0	14.0	23.4	11.7	2.3	1.2	5.3
50～59歳(n=146)	15.8	18.5	11.6	19.9	15.1	2.1	0.0	6.8
60～69歳(n=280)	16.1	13.2	7.5	17.5	8.9	0.4	1.4	2.9
70～79歳(n=261)	10.7	16.9	7.7	18.8	11.9	0.8	2.3	3.8
80歳以上(n=60)	13.3	11.7	5.0	18.3	16.7	0.0	1.7	8.3

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

7 日本に住む外国人の人権について

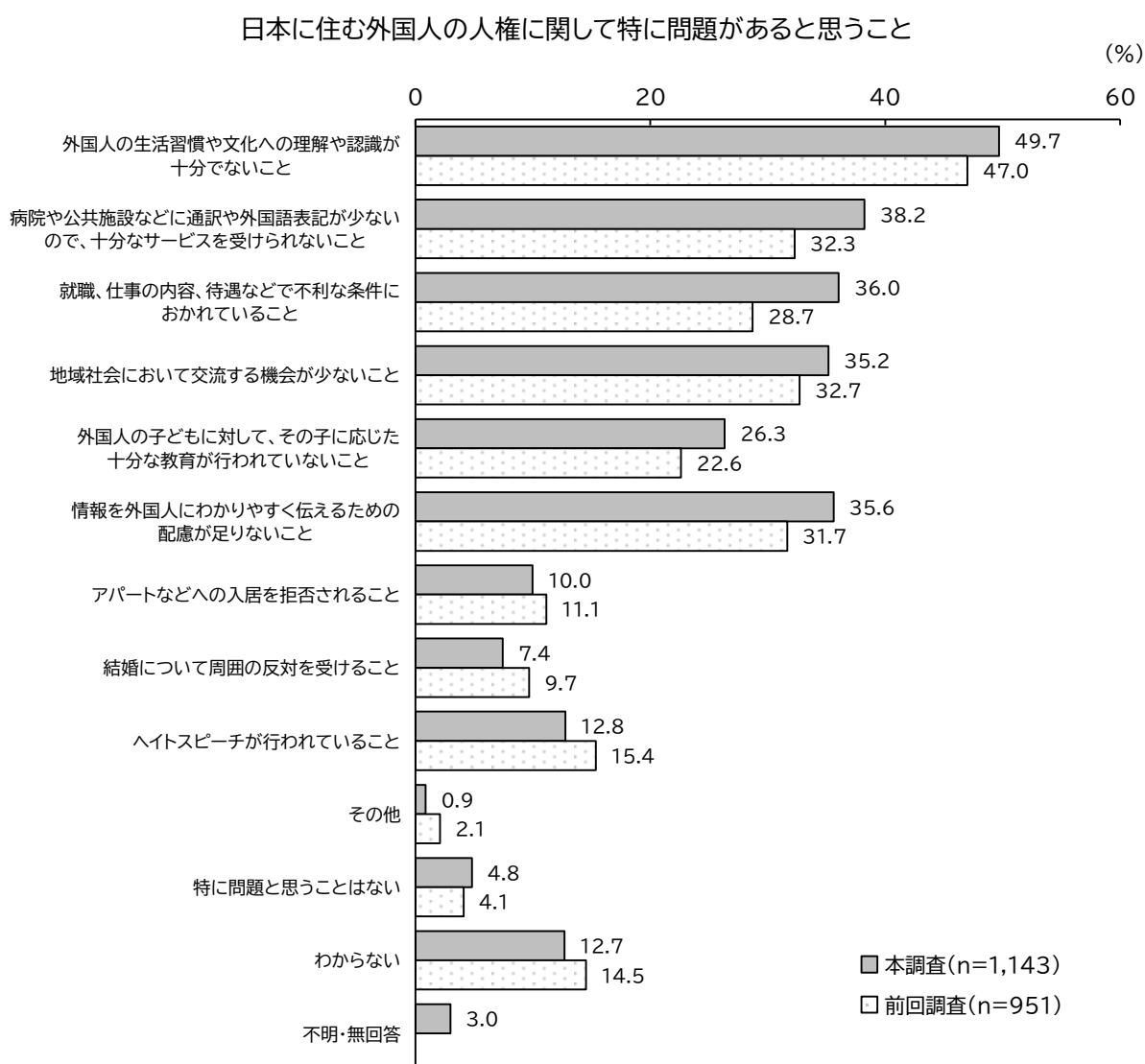
(1) 日本に住む外国人の人権に関して特に問題があると思うこと

問10 外国人に関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

【本調査の結果及び前回調査との比較】

外国人の人権上特に問題があると思うことについて、最も多いのは「外国人の生活習慣や文化への理解や認識が十分でないこと」で49.7%、次いで「病院や公共施設などに通訳や外国語表記が少ないので、十分なサービスを受けられないこと」が38.2%、「就職、仕事の内容、待遇などで不利な条件におかれていること」が36.0%となっています。

「前回調査」と比較すると、大きく増減した項目はありません。



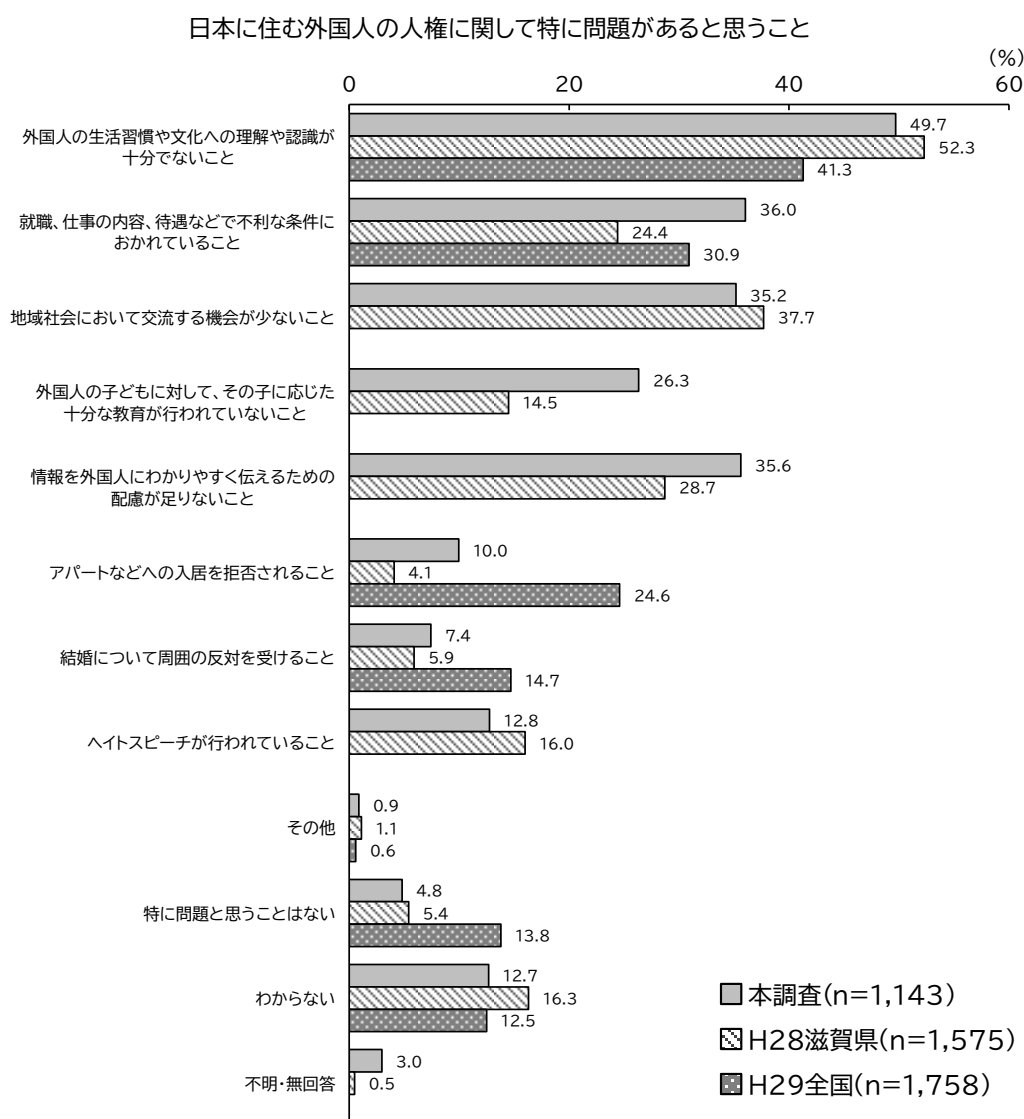
※ 「前回調査」では、「不明・無回答」は未集計

【滋賀県及び全国との比較】

「H28滋賀県」「H29全国」においても、「外国人の生活習慣や文化への理解や認識が十分でないこと」が最も多くなっています。

「本調査」を「H28滋賀県」と比較すると、「就職、仕事の内容、待遇などで不利な条件におかれていること」「外国人の子どもに対して、その子に応じた十分な教育が行われていないこと」が10ポイント以上多くなっています。

「本調査」を「H29全国」と比較すると、「アパートなどへの入居を拒否されること」が10ポイント以上少なくなっています。



- ※ 「病院や公共施設などに通訳や外国語表記が少ないので、十分なサービスを受けられないこと」は「本調査」のみにつき割愛
- ※ 「地域社会において交流する機会が少ないこと」「外国人の子どもに対して、その子に応じた十分な教育が行われていないこと」「情報を外国人にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと」「ヘイトスピーチが行われていること」は「本調査」「H28滋賀県」のみ
- ※ 「H28滋賀県」は3つまでに○
- ※ 「H29全国」では、「外国人の生活習慣や文化への理解や認識が十分でないこと」は「風習や習慣等の違いが受け入れられないこと」、「就職、仕事の内容、待遇などで不利な条件におかれていること」は「就職・職場で不利な扱いを受けること」、「結婚について周囲の反対を受けること」は「結婚問題で周囲の反対を受けること」、「特に問題と思うことはない」は「特になし」、「不明・無回答」は未集計

【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」とともに「外国人の生活習慣や文化への理解や認識が十分でないこと」が最も多くなっています。

年齢別にみると、全ての年代において「外国人の生活習慣や文化への理解や認識が十分でないこと」が最も多くなっています。「ヘイトスピーチが行われていること」は年齢が低くなるほど多く、「80歳以上」では、「地域社会において交流する機会が少ないこと」が多くなっています。

日本に住む外国人の人権に関して特に問題があると思うこと

(単位:%)

	外国人の生活習慣や文化への理解や認識が十分でないこと	病院や公共施設などに通訳や十分なサービスを受けられないこと	就職、仕事の内容、待遇などで不利な条件におかれていますこと	地域社会において交流する機会が少ないこと	外国人の子どもに対して、行われている十分な教育が	情報を外国人にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと	アパートなどへの入居を拒否されること	結婚について周囲の反対を受けること	ヘイトスピーチが行われていること	その他
本調査(n=1,143)	49.7	38.2	36.0	35.2	26.3	35.6	10.0	7.4	12.8	0.9
女性(n=639)	49.8	39.6	36.9	35.2	25.8	36.2	9.4	7.7	12.1	0.6
男性(n=457)	51.9	37.9	36.5	37.2	27.6	36.3	11.2	7.0	14.2	1.3
回答しない(n=29)	37.9	27.6	24.1	17.2	24.1	31.0	6.9	6.9	6.9	0.0
18～29歳(n=83)	49.4	47.0	42.2	32.5	38.6	48.2	19.3	12.0	22.9	3.6
30～39歳(n=126)	43.7	39.7	29.4	29.4	29.4	31.7	8.7	8.7	13.5	0.8
40～49歳(n=171)	55.0	41.5	40.9	29.8	23.4	28.7	11.7	6.4	15.2	0.6
50～59歳(n=146)	52.1	38.4	36.3	30.8	26.7	31.5	13.7	8.2	15.1	0.7
60～69歳(n=280)	52.9	42.5	38.2	36.4	28.6	40.7	6.4	3.9	10.7	0.7
70～79歳(n=261)	46.0	31.8	34.1	42.1	22.6	35.6	9.2	8.8	10.3	0.0
80歳以上(n=60)	53.3	25.0	30.0	46.7	16.7	38.3	6.7	8.3	5.0	3.3

	特には問題と思う	わからない	不明・無回答
本調査(n=1,143)	4.8	12.7	3.0
女性(n=639)	3.6	14.1	3.6
男性(n=457)	5.9	10.3	0.9
回答しない(n=29)	13.8	17.2	3.4
18～29歳(n=83)	4.8	3.6	0.0
30～39歳(n=126)	4.0	15.1	0.0
40～49歳(n=171)	2.9	11.7	0.6
50～59歳(n=146)	8.2	11.0	2.1
60～69歳(n=280)	4.3	10.4	2.5
70～79歳(n=261)	5.0	17.2	5.7
80歳以上(n=60)	5.0	18.3	5.0

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

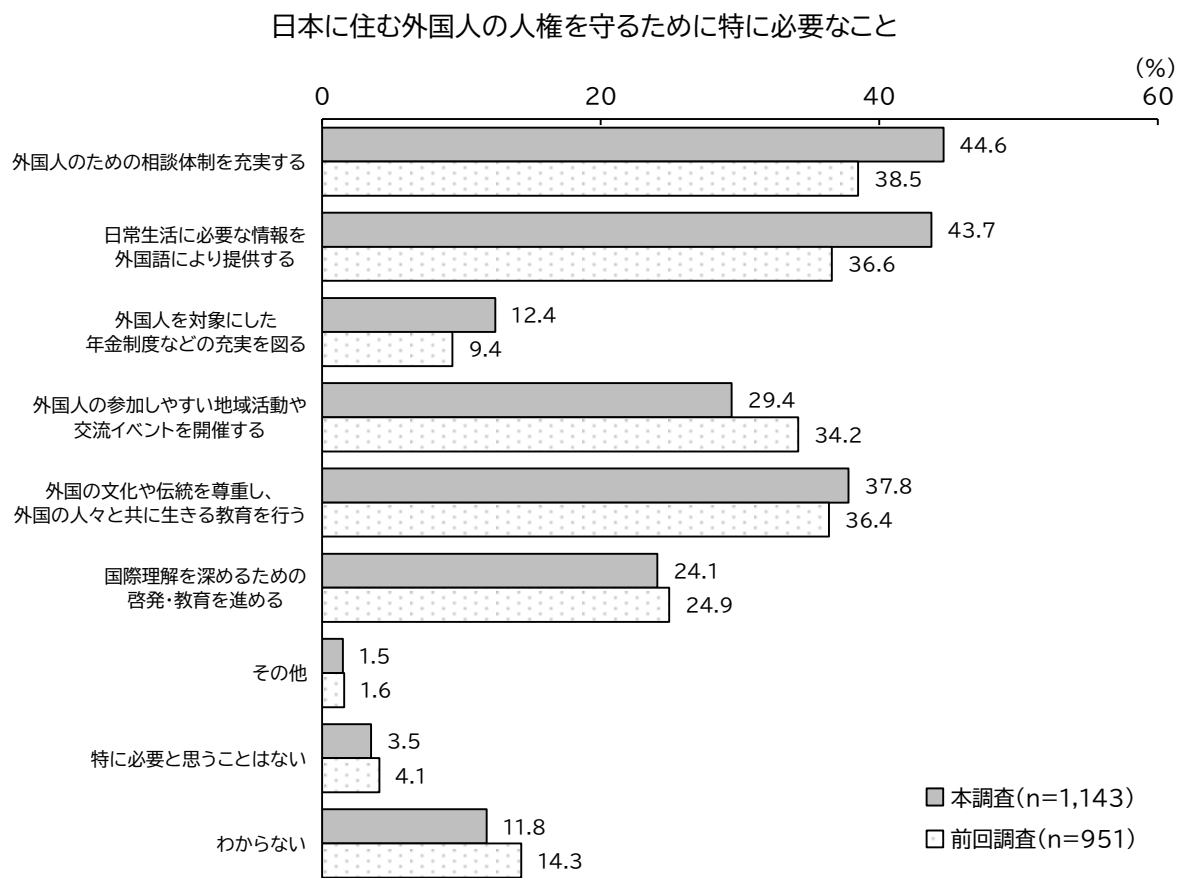
(2) 日本に住む外国人の人権を守るために特に必要なこと

問11 あなたは、外国人の人権を守るためには特にどのようなことが必要だと思いますか。(3つまでに○)

【本調査の結果】

外国人の人権を守るために特に必要なことについて、最も多いのは「外国人のための相談体制を充実する」で44.6%、次いで「日常生活に必要な情報を外国語により提供する」が43.7%、「外国の文化や伝統を尊重し、外国の人々と共に生きる教育を行う」が37.8%となっています。

「前回調査」と比較すると、大きく増減した項目はありません。



【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」では「日常生活に必要な情報を外国語により提供する」が、「男性」では「外国人のための相談体制を充実する」が最も多くなっています。

年齢別にみると、「50～59歳」「60～69歳」「80歳以上」では「外国人のための相談体制を充実する」が、他の年代は「日常生活に必要な情報を外国語により提供する」が最も多くなっています。他の年代と比較すると、「18～29歳」では「日常生活に必要な情報を外国語により提供する」「外国の文化や伝統を尊重し、外国の人々と共に生きる教育を行う」が多く、「80歳以上」では「日常生活に必要な情報を外国語により提供する」が少なくなっています。

日本に住む外国人の人権を守るために特に必要なこと

(単位:%)

	外国人のための相談体制を充実する	日常生活に必要な情報を外国語により提供する	外国人などの対象にした年金制度などの充実を図る	外国人の参加しやすい地域活動や交流イベントを開催する	外国の文化や伝統を尊重し、外国の人々と共に生きる教育を行う	国際理解を深めるための啓発・教育を進める	その他	特に必要と思うことはない	わからない
本調査(n=1,143)	44.6	43.7	12.4	29.4	37.8	24.1	1.5	3.5	11.8
女性(n=639)	42.7	48.2	11.4	28.0	37.9	24.9	1.4	2.3	11.9
男性(n=457)	48.8	39.6	14.2	32.6	39.2	24.1	1.8	4.8	10.3
回答しない(n=29)	34.5	31.0	6.9	20.7	27.6	13.8	0.0	6.9	24.1
18～29歳(n=83)	37.3	59.0	6.0	32.5	50.6	37.3	6.0	1.2	4.8
30～39歳(n=126)	37.3	41.3	11.9	27.8	34.9	27.8	0.8	5.6	13.5
40～49歳(n=171)	42.1	46.2	14.6	25.7	40.9	22.2	1.2	2.3	11.7
50～59歳(n=146)	48.6	44.5	9.6	23.3	42.5	18.5	2.1	4.8	11.6
60～69歳(n=280)	54.3	45.7	10.7	30.4	37.9	23.2	0.4	2.9	7.1
70～79歳(n=261)	39.1	41.0	16.9	33.3	33.3	24.1	1.5	2.7	16.9
80歳以上(n=60)	53.3	28.3	10.0	36.7	30.0	23.3	1.7	6.7	16.7

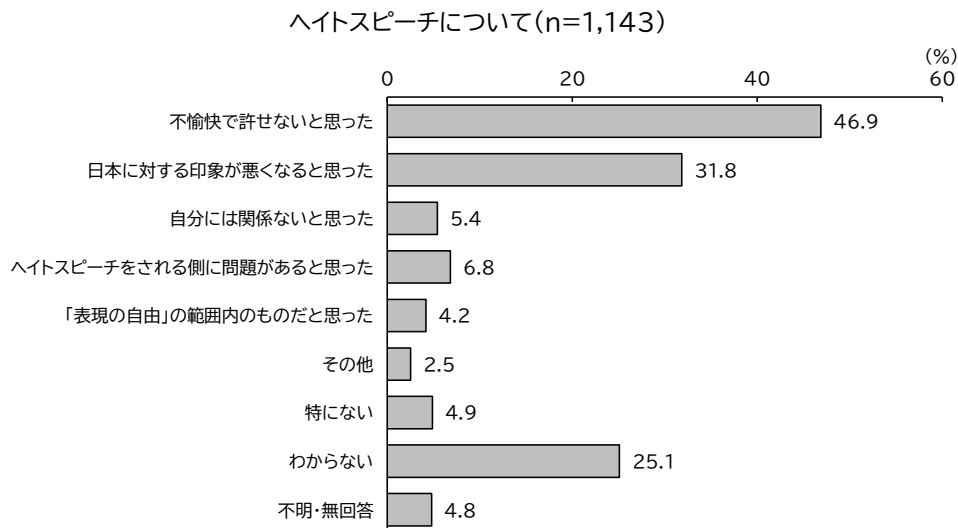
※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

(3) ハイトスピーチについて

問12 あなたは、ハイトスピーチについてどう思いますか。(あてはまるものすべてに○)

【本調査の結果】

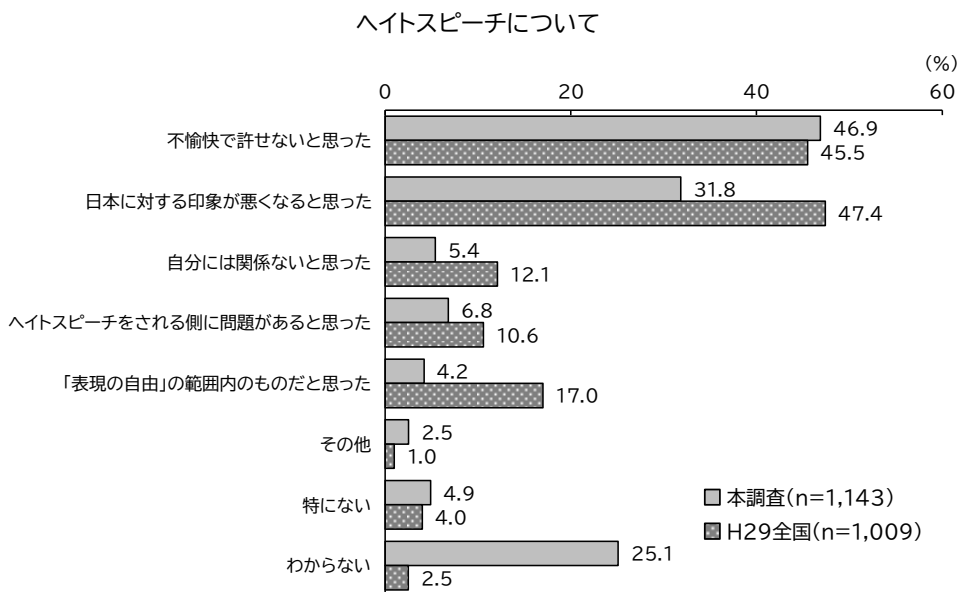
ハイトスピーチについてについて、最も多いのは「不愉快で許せないと思った」で46.9%、次いで「日本に対する印象が悪くなると思った」が31.8%、「わからない」が25.1%となっています。



【全国との比較】

「H29全国」では、「日本に対する印象が悪くなると思った」が最も多くなっています。

「本調査」を「H29全国」と比較すると、「わからない」が20ポイント以上多く、「日本に対する印象が悪くなると思った」「表現の自由の範囲内のものだと思った」が10ポイント以上少なくなっています。



※ 「H29全国」は、ハイトスピーチに関する資料を提示した上で、「あなたは、ハイトスピーチを伴うデモ、集会、街宣活動等を知っていますか」という設問に「知っている」と回答した回答者のみを対象とした設問

【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」とともに「不愉快で許せないと思った」が最も多くなっています。

年齢別にみると、「80歳以上」のみ「日本に対する印象が悪くなると思った」が、他の年代では「不愉快で許せないと思った」が最も多くなっています。

ヘイトスピーチについて

(単位:%)

	不愉快で許せないと思った	日本に対する印象が悪くなると思った	自分には関係ないと思った	側には問題があると思った	「表現の自由」の範囲内のものだと思った	その他	特にない	わからない	不明・無回答
本調査(n=1,143)	46.9	31.8	5.4	6.8	4.2	2.5	4.9	25.1	4.8
女性(n=639)	47.4	30.2	3.9	4.4	3.3	2.3	3.6	27.4	5.9
男性(n=457)	48.1	36.1	8.1	10.7	5.5	2.8	6.8	20.6	2.0
回答しない(n=29)	34.5	10.3	0.0	0.0	6.9	3.4	3.4	48.3	3.4
18～29歳(n=83)	48.2	27.7	4.8	4.8	3.6	3.6	3.6	27.7	0.0
30～39歳(n=126)	50.8	31.7	2.4	3.2	3.2	4.0	4.8	30.2	0.8
40～49歳(n=171)	48.0	25.1	5.8	4.7	3.5	4.7	5.3	24.6	3.5
50～59歳(n=146)	46.6	28.1	5.5	7.5	2.7	4.8	5.5	25.3	2.1
60～69歳(n=280)	52.1	34.3	4.3	7.1	5.0	0.7	3.9	21.4	4.6
70～79歳(n=261)	43.7	36.8	9.2	10.0	5.0	1.5	4.6	25.7	8.0
80歳以上(n=60)	31.7	36.7	1.7	6.7	5.0	0.0	11.7	28.3	8.3

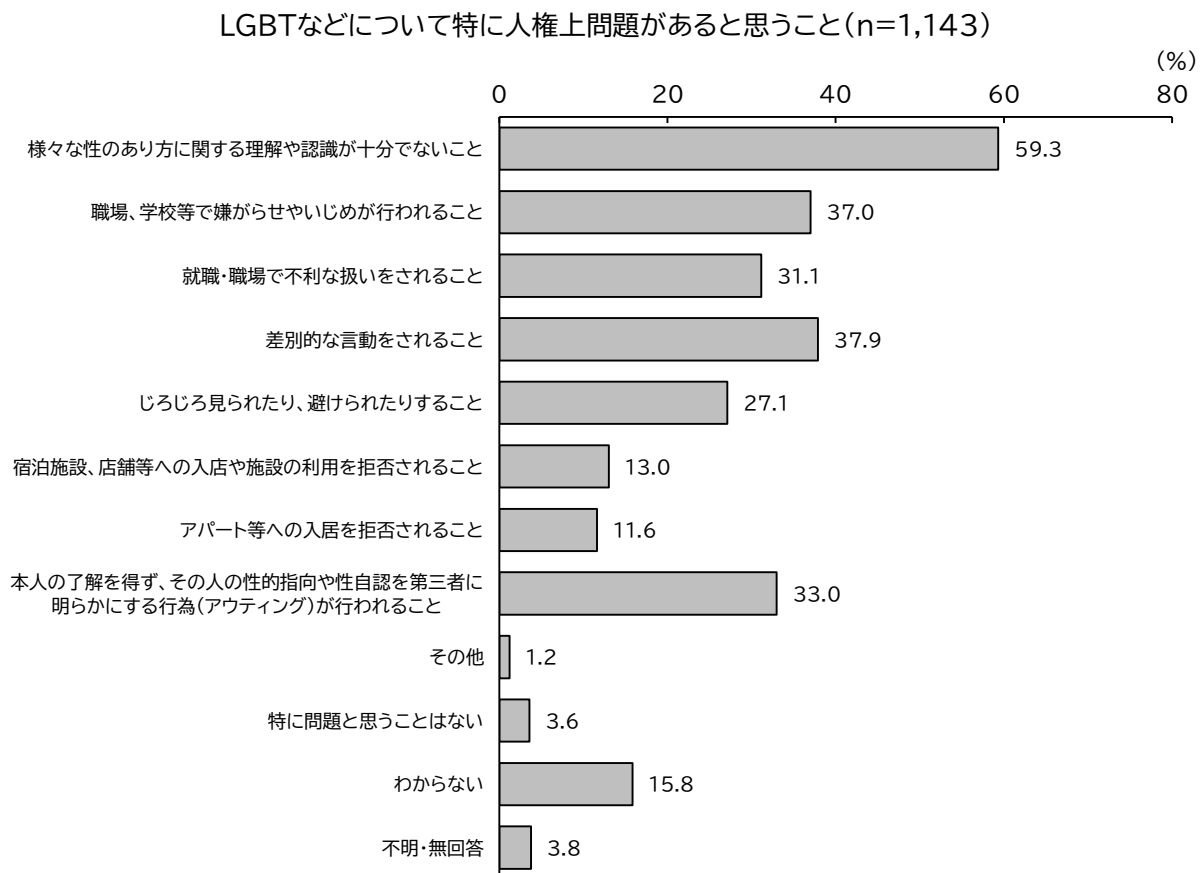
※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

8 性的指向及び性自認（性同一性）などについて

問13 LGBTなどに関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

【本調査の結果】

LGBTなどについて特に人権上問題があると思うことについて、最も多いのは「様々な性のあり方に関する理解や認識が十分でないこと」で59.3%、次いで「差別的な言動をされること」が37.9%、「職場、学校等で嫌がらせやいじめが行われること」が37.0%となっています。

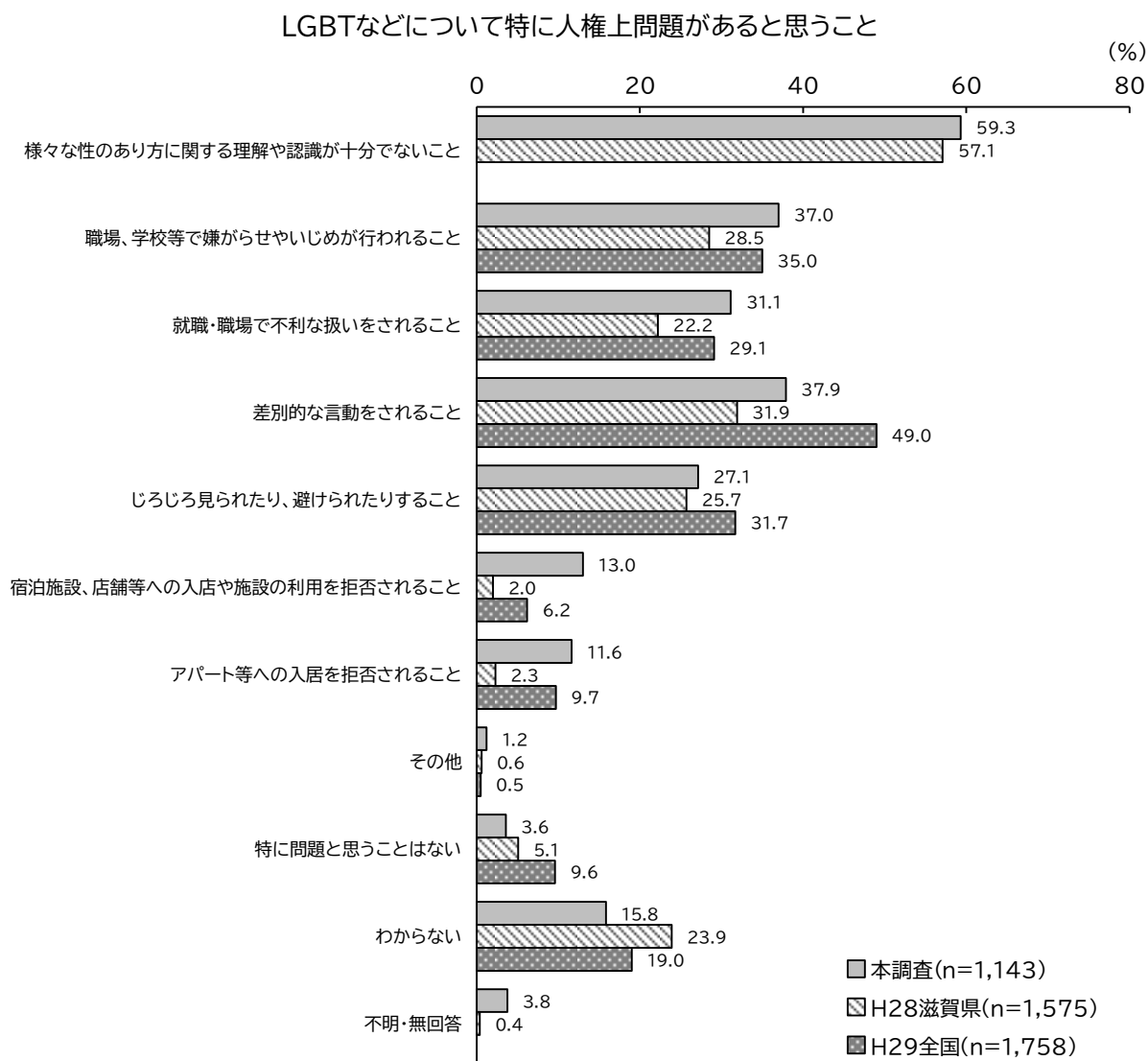


【滋賀県及び全国との比較】

「本調査」「H28滋賀県」において、「様々な性のあり方に関する理解や認識が十分でないこと」が最も多くなっています。

「本調査」を「H28滋賀県」と比較すると、「宿泊施設、店舗等への入店や施設の利用を拒否されること」が10ポイント以上多くなっています。

また、「本調査」を「H29全国」と比較すると、「差別的な言動をされること」が10ポイント以上少なくなっています。



- ※ 「本人の了解を得ず、その人の性的指向や性自認を第三者に明らかにする行為(アウティング)が行われること」は「本調査」のみにつき割愛
- ※ 「様々な性のあり方に関する理解や認識が十分でないこと」は「本調査」「H28滋賀県」のみ
- ※ 「H28滋賀県」は3つまでに○、「様々な性のあり方に関する理解や認識が十分でないこと」は「性同一性障害者・同性愛者等に関する理解や認識が十分でないこと」
- ※ 「H29全国」では、「職場、学校等で嫌がらせやいじめが行われること」は「職場、学校等で嫌がらせやいじめを受けること」、「就職・職場で不利な扱いをされること」は「就職・職場で不利な扱いを受けること」、「特に問題と思うことはない」は「特にない」、「不明・無回答」は未集計

【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」「回答しない」とともに「様々な性のあり方に関する理解や認識が十分でないこと」が最も多くなっています。

年齢別にみると、全ての年代において「様々な性のあり方に関する理解や認識が十分でないこと」が最も多くなっています。他の年代と比較すると、「18～29歳」「30～39歳」では「職場、学校等で嫌がらせやいじめが行われること」「差別的な言動をされること」が多くなっています。

LGBTなどについて特に人権上問題があると思うこと

(単位:%)

	様々な性のあり方に関する理解や認識が十分でないこと	職場、学校等で嫌がらせやいじめが行われること	就職・職場で不利な扱いをされること	差別的な言動をされること	じろじろ見られたり、避けられたりする	宿泊施設、店舗等への入店や施設の利用を拒否されること	アパート等への入居を拒否されること	本人の了解を得ず、その人の性的指向（アウティング）が行われること	その他
本調査(n=1,143)	59.3	37.0	31.1	37.9	27.1	13.0	11.6	33.0	1.2
女性(n=639)	62.9	40.1	35.1	39.6	30.2	13.3	12.5	36.5	0.9
男性(n=457)	56.7	33.0	26.7	37.0	23.9	13.1	10.5	28.4	1.3
回答しない(n=29)	55.2	41.4	31.0	34.5	24.1	13.8	13.8	37.9	6.9
18～29歳(n=83)	75.9	57.8	37.3	66.3	43.4	20.5	14.5	51.8	3.6
30～39歳(n=126)	70.6	46.8	39.7	50.8	34.1	18.3	15.1	38.1	0.0
40～49歳(n=171)	62.6	43.3	37.4	40.9	21.6	13.5	15.2	40.9	2.3
50～59歳(n=146)	61.6	35.6	32.2	35.6	30.1	15.1	12.3	37.7	1.4
60～69歳(n=280)	58.6	35.4	29.6	32.9	26.1	10.4	10.0	27.9	0.0
70～79歳(n=261)	53.3	27.2	26.1	30.3	24.9	10.3	9.6	26.1	1.1
80歳以上(n=60)	40.0	26.7	18.3	31.7	18.3	11.7	8.3	20.0	3.3

	特に問題と 思う	わからない	不明・ 無回答
本調査(n=1,143)	3.6	15.8	3.8
女性(n=639)	2.0	14.1	3.8
男性(n=457)	5.7	17.9	2.0
回答しない(n=29)	3.4	20.7	3.4
18～29歳(n=83)	1.2	4.8	0.0
30～39歳(n=126)	2.4	8.7	0.8
40～49歳(n=171)	2.3	12.9	1.8
50～59歳(n=146)	4.8	13.7	1.4
60～69歳(n=280)	3.9	16.1	3.2
70～79歳(n=261)	3.4	22.6	6.1
80歳以上(n=60)	8.3	30.0	6.7

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

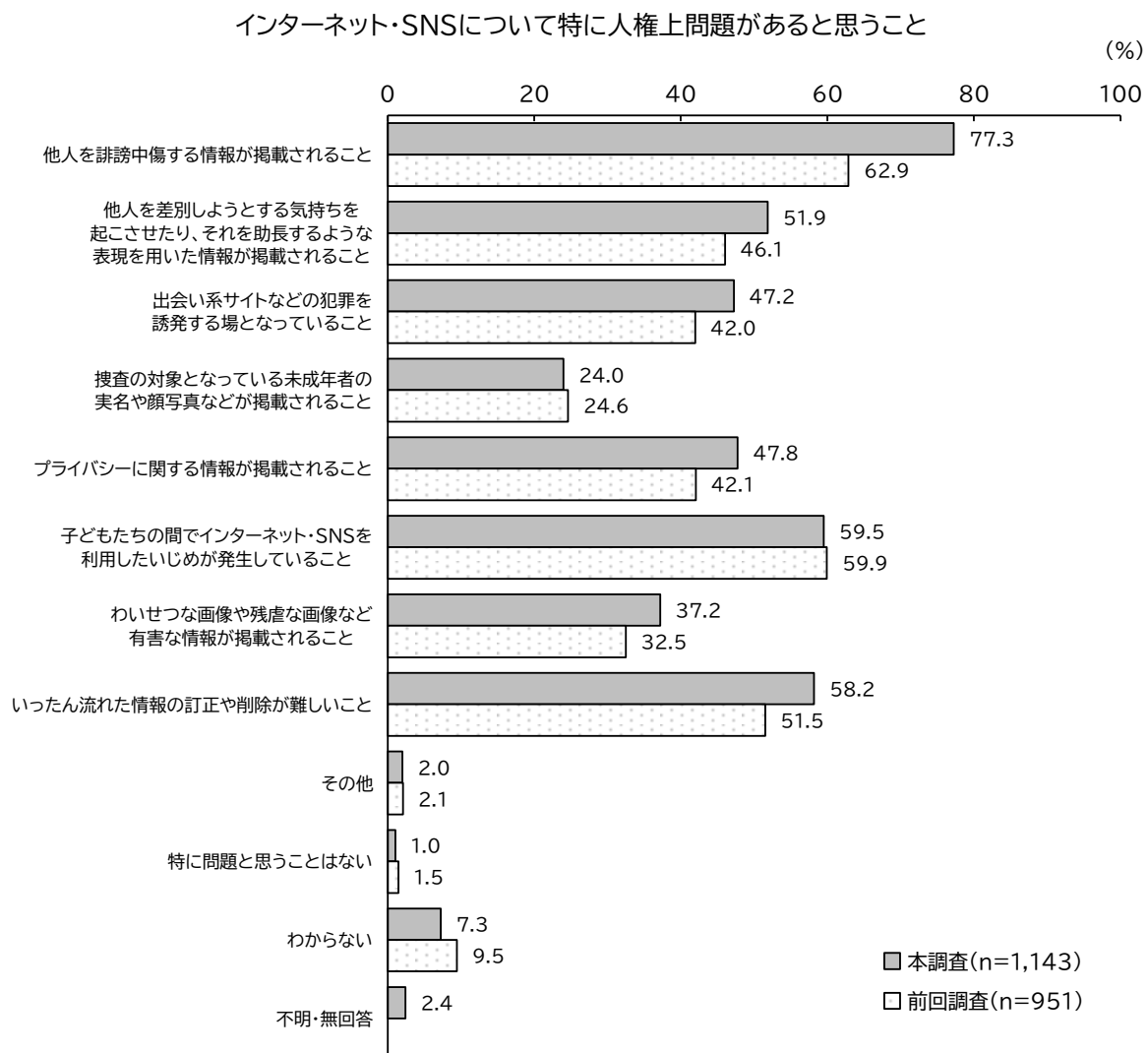
9 インターネット上の人権について

問14 インターネット・SNSに関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

【本調査の結果及び前回調査との比較】

インターネット・SNSについて特に人権上問題があると思うことについて、最も多いのは「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」で77.3%、次いで「子どもたちの間でインターネット・SNSを利用したいじめが発生していること」が59.5%、「いったん流れた情報の訂正や削除が難しいこと」が58.2%となっています。

「前回調査」と比較すると、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が10ポイント以上増えています。



※ 「前回調査」では、「不明・無回答」は未集計

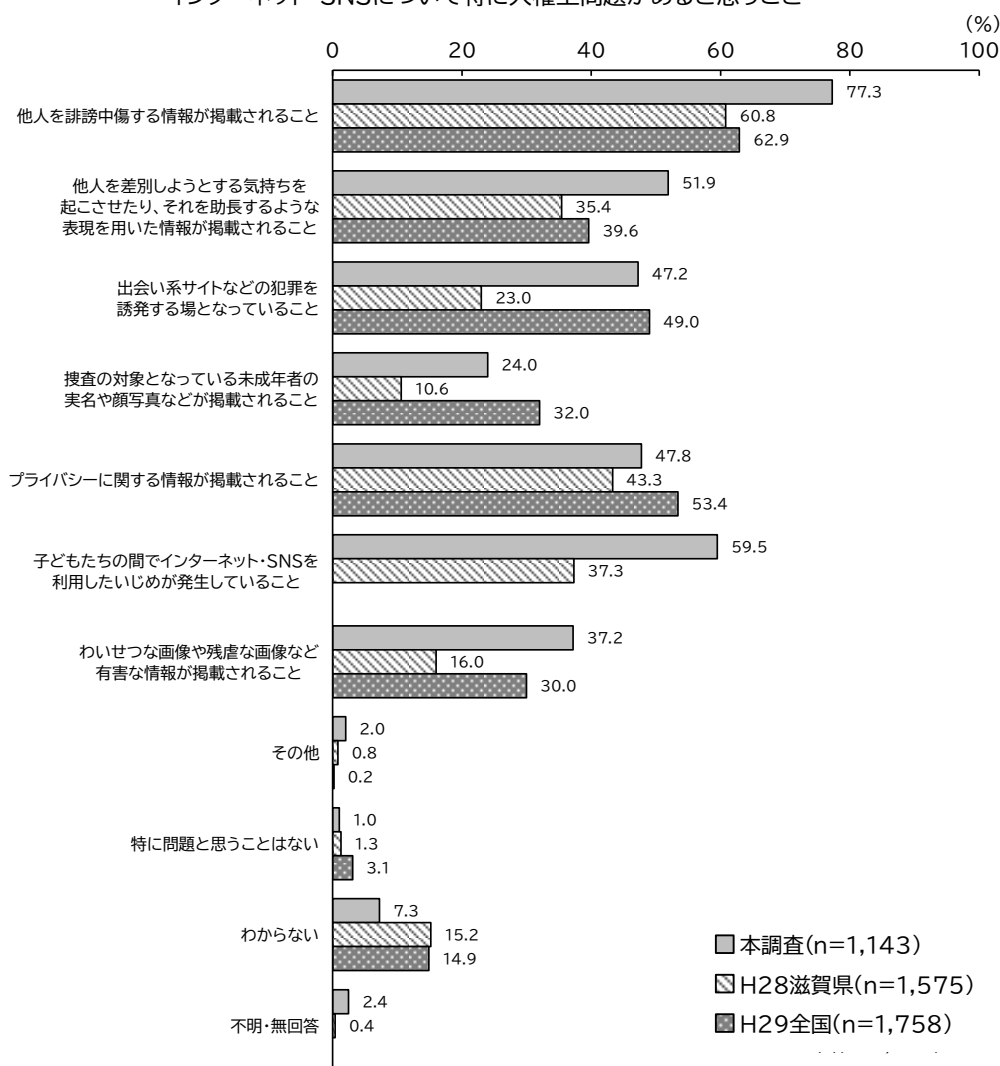
【滋賀県及び全国との比較】

「H28滋賀県」「H29全国」においても、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が最も多くなっています。

「本調査」を「H28滋賀県」と比較すると、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」「他人を差別しようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような表現を用いた情報が掲載されること」「出会い系サイトなどの犯罪を誘発する場となっていること」「捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真などが掲載されること」「子どもたちの間でインターネット・SNSを利用したいじめが発生していること」「わいせつな画像や残虐な画像など有害な情報が掲載されること」が10ポイント以上多くなっています。

「本調査」を「H29全国」と比較すると、「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」「他人を差別しようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような表現を用いた情報が掲載されること」が10ポイント以上多くなっています。

インターネット・SNSについて特に人権上問題があると思うこと



※ 「いったん流れた情報の訂正や削除が難しいこと」は「本調査」のみにつき割愛

※ 「子どもたちの間でインターネット・SNSを利用したいじめが発生していること」は「本調査」「H28滋賀県」のみ

※ 「H28滋賀県」は3つまでに○、「子どもたちの間でインターネット・SNSを利用したいじめが発生していること」は「子どもたちの間でインターネットを利用したいじめが発生していること」

※ 「H29全国」では、「他人を差別しようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような表現を用いた情報が掲載されること」は「他人に差別をしようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような情報が掲載されること」、「出会い系サイトなどの犯罪を誘発する場となっていること」は「ラインやツイッターなどによる交流が犯罪を誘発する場となっていること」、「わいせつな画像や残虐な画像など有害な情報が掲載されること」は「ネットポルノが存在していること」、「特に問題と思うことはない」は「特になし」、「不明・無回答」は未集計

【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」とともに「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が最も多くなっています。「捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真などが掲載されること」「子どもたちの間でインターネット・SNSを利用したいじめが発生していること」「わいせつな画像や残虐な画像など有害な情報が掲載されること」「いったん流れた情報の訂正や削除が難しいこと」は、「女性」が「男性」より10ポイント以上多くなっています。

年齢別にみると、全ての年代において「他人を誹謗中傷する情報が掲載されること」が最も多くなっており、多くの年代で80%以上となっています。他の年代と比較すると、49歳以下において、「子どもたちの間でインターネット・SNSを利用したいじめが発生していること」が多くなっています。

インターネット・SNSについて特に人権上問題があると思うこと

(単位:%)

	他人を誹謗中傷する情報が掲載されること	他人を差別したり、それを助長する気持ちは表現させたい情報掲載されること	出会い系サイトなどの犯罪を誘発する場となつていくこと	捜査の対象となつていく未成年者の実名や顔写真などが掲載されること	プライバシーに関する情報が掲載されること	子どもたちの間でインターネット・SNSを利用したいじめが発生していること	わいせつな画像や残虐な画像など有害な情報が掲載されること	難しいこと	その他
本調査(n=1,143)	77.3	51.9	47.2	24.0	47.8	59.5	37.2	58.2	2.0
女性(n=639)	78.4	52.9	50.7	28.2	51.2	65.1	42.3	62.8	1.4
男性(n=457)	77.9	51.2	44.0	18.2	43.1	53.6	31.3	52.5	3.1
回答しない(n=29)	69.0	51.7	37.9	31.0	51.7	51.7	34.5	58.6	0.0
18～29歳(n=83)	89.2	45.8	39.8	24.1	54.2	72.3	32.5	63.9	3.6
30～39歳(n=126)	80.2	63.5	40.5	29.4	52.4	73.0	40.5	67.5	1.6
40～49歳(n=171)	83.0	57.9	42.7	26.9	54.4	70.8	44.4	70.2	2.3
50～59歳(n=146)	84.9	55.5	44.5	30.8	52.7	60.3	34.2	62.3	3.4
60～69歳(n=280)	81.1	53.6	51.1	19.3	42.9	57.9	38.6	55.0	0.7
70～79歳(n=261)	65.5	44.8	54.0	22.2	44.4	48.3	35.6	52.1	1.5
80歳以上(n=60)	61.7	36.7	50.0	20.0	35.0	45.0	30.0	30.0	5.0

	特に問題と思う	わからない	不明・無回答
本調査(n=1,143)	1.0	7.3	2.4
女性(n=639)	0.6	6.6	2.8
男性(n=457)	1.5	7.7	0.7
回答しない(n=29)	0.0	17.2	0.0
18～29歳(n=83)	1.2	1.2	0.0
30～39歳(n=126)	0.0	3.2	0.8
40～49歳(n=171)	0.6	2.9	1.8
50～59歳(n=146)	2.1	4.1	0.0
60～69歳(n=280)	1.4	6.1	1.8
70～79歳(n=261)	1.1	14.6	4.6
80歳以上(n=60)	0.0	20.0	1.7

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

10 さまざまな人権について

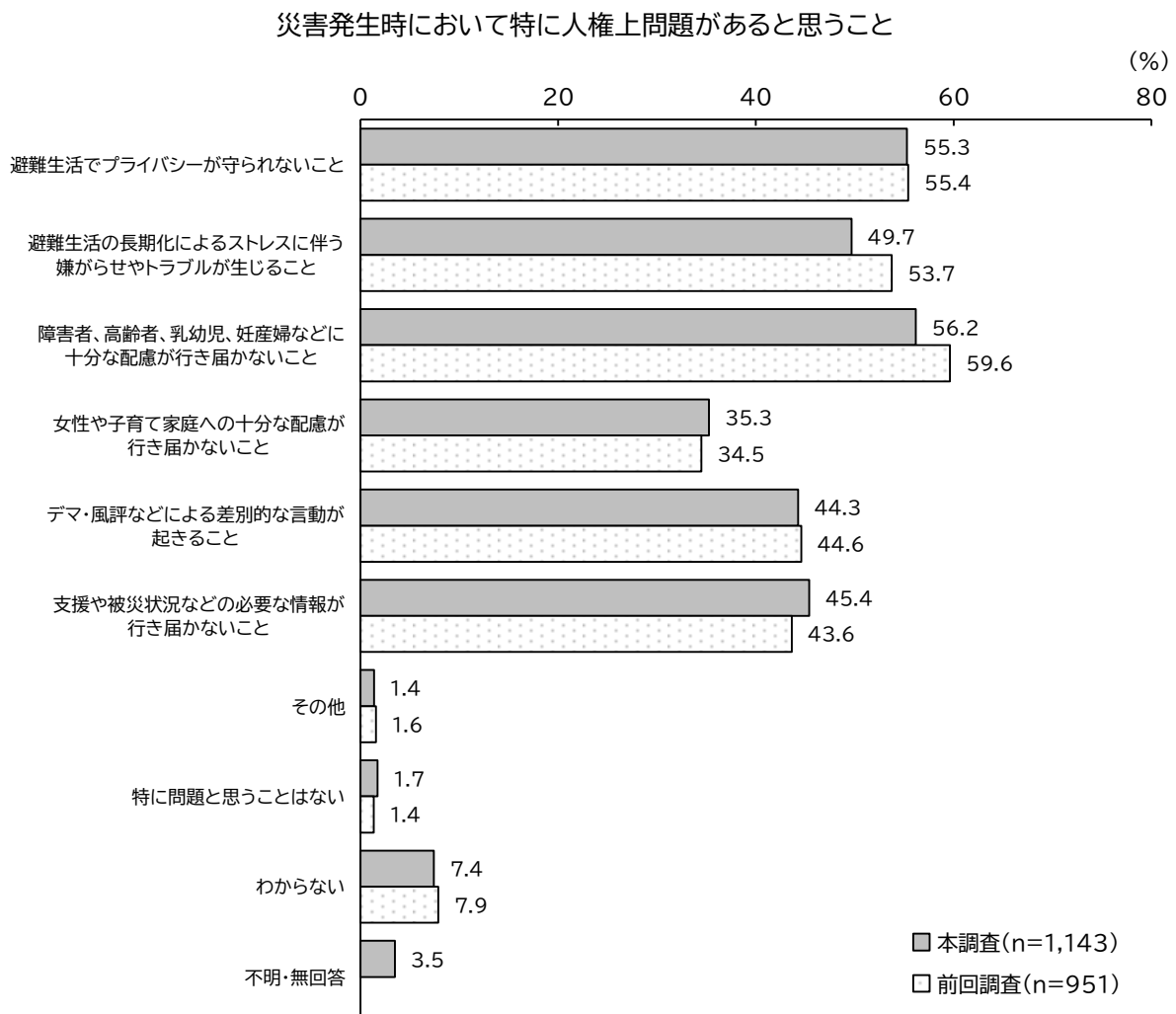
(1) 災害発生時において特に人権上問題があると思うこと

問15 災害発生時において、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

【本調査の結果及び前回調査との比較】

災害発生時において特に人権上問題があると思うことについて、最も多いのは「障害者、高齢者、乳幼児、妊産婦などに十分な配慮が行き届かないこと」で56.2%、次いで「避難生活でプライバシーが守られないこと」が55.3%、「避難生活の長期化によるストレスに伴う嫌がらせやトラブルが生じること」が49.7%となっています。

「前回調査」と比較すると、大きく増減した項目はありません。



※ 「前回調査」では、「不明・無回答」は未集計

【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」とともに「障害者、高齢者、乳幼児、妊産婦などに十分な配慮が行き届かないこと」が最も多くなっています。

年齢別にみると、「18～29歳」では「デマ・風評などによる差別的な言動が起きること」が、「30～39歳」「60～69歳」「70～79歳」では「障害者、高齢者、乳幼児、妊産婦などに十分な配慮が行き届かないこと」が、「40～49歳」「50～59歳」「80歳以上」では「避難生活でプライバシーが守られないこと」が最も多くなっています。

災害発生時において特に人権上問題があると思うこと

(単位:%)

	避難生活でプライバシーが守られないこと	避難生活の長期化に伴う嫌がらせやトラブルが生じること	障害者、高齢者、乳幼児、妊産婦などに十分な配慮が行き届かないこと	女性や子育て家庭への十分な配慮が行き届かないこと	差別的な言動が起きること	デマ・風評などによる差別的な言動が起きること	必要な情報が行き届かないこと	支援や被災状況などの必要な情報が行き届かないこと	その他	特に問題と思うことはない	わからない	不明・無回答
本調査(n=1,143)	55.3	49.7	56.2	35.3	44.3	45.4	1.4	1.7	7.4	3.5		
女性(n=639)	58.2	48.7	58.4	36.3	44.1	49.8	1.4	1.4	6.4	3.8		
男性(n=457)	52.1	52.1	54.7	34.4	45.5	40.9	1.5	2.0	9.0	1.3		
回答しない(n=29)	62.1	48.3	55.2	44.8	44.8	34.5	0.0	3.4	6.9	6.9		
18～29歳(n=83)	45.8	50.6	48.2	41.0	56.6	48.2	1.2	2.4	3.6	1.2		
30～39歳(n=126)	54.0	55.6	59.5	55.6	52.4	45.2	1.6	0.0	3.2	0.0		
40～49歳(n=171)	60.2	53.2	58.5	42.1	50.3	47.4	1.8	0.6	5.8	1.8		
50～59歳(n=146)	63.7	56.8	59.6	35.6	44.5	50.0	1.4	1.4	6.8	0.7		
60～69歳(n=280)	56.1	48.6	61.1	30.4	42.9	44.6	1.1	1.8	7.1	2.1		
70～79歳(n=261)	53.3	43.7	53.6	28.4	37.9	43.7	1.1	3.4	11.5	7.3		
80歳以上(n=60)	50.0	43.3	43.3	23.3	30.0	41.7	3.3	1.7	13.3	5.0		

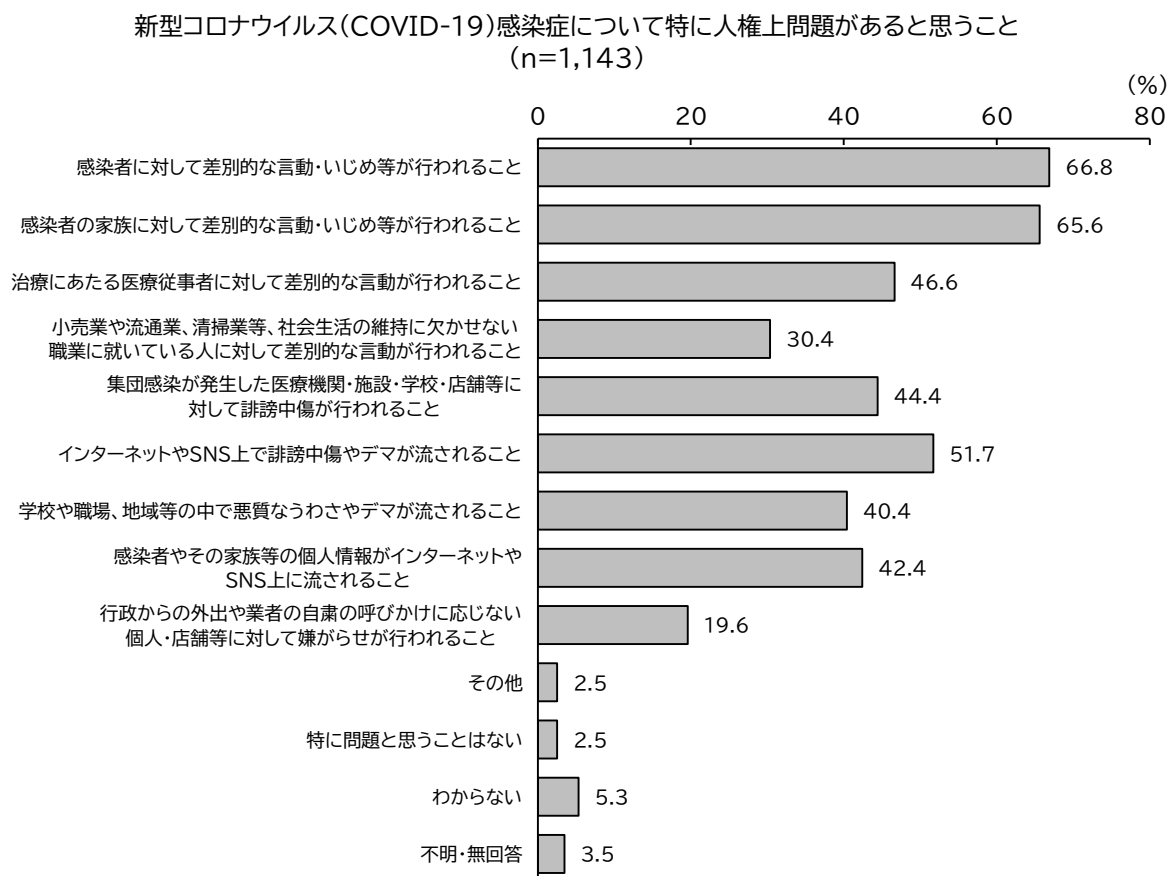
※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

(2) 新型コロナウイルス(COVID-19)感染症について特に人権上問題があると思うこと

問16 新型コロナウイルス(COVID-19)感染症の流行によって様々な問題が生じています。
この感染症に関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

【本調査の結果】

新型コロナウイルス(COVID-19)感染症について特に問題があると思うことについて、最も多いのは「感染者に対して差別的な言動・いじめ等が行われること」で66.8%、次いで「感染者の家族に対して差別的な言動・いじめ等が行われること」が65.6%、「インターネットやSNS上で誹謗中傷やデマが流されること」が51.7%となっています。



【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」とともに「感染者に対して差別的な言動・いじめ等が行われること」が最も多くなっています。

年齢別にみると、全ての年代において「感染者に対して差別的な言動・いじめ等が行われること」「感染者の家族に対して差別的な言動・いじめ等が行われること」が上位となっています。また、「80歳以上」を除く全ての年代で、「インターネットやSNS上で誹謗中傷やデマが流されること」も上位となっています。

新型コロナウイルス(COVID-19)感染症について特に人権上問題があると思うこと

(単位:%)

	感染者に対して差別的な言動・いじめ等が行われること	感染者の家族に対して差別的な言動・いじめ等が行われること	治療にあたる医療従事者に対して差別的な言動が行われること	維持に欠かせない職業に就いている人に対して差別的な言動が行われること	小売業や流通業、清掃業等、社会生活に維持に欠かせない職業に就いている人に対して差別的な言動が行われること	学校・店舗等に対して誹謗中傷が行われること	集団感染が発生した医療機関・施設・学校・店舗等に対して誹謗中傷が行われること	インターネットやSNS上で誹謗中傷やデマが流されること	学校や職場、地域等の中で悪質なうわさやデマが流されること	感染者やその家族等の個人情報がかくこと	インターネットやSNS上に流されること	感染者やその家族等の個人情報がかくこと	行政からの外出や業者の自粛の呼びかけに不応じ個人・店舗等に対して嫌がらせが行われること	その他
本調査(n=1,143)	66.8	65.6	46.6	30.4	44.4	51.7	40.4	42.4	19.6	2.5	5.3	3.5	2.5	3.5
女性(n=639)	69.5	68.5	49.0	31.5	46.2	53.5	42.7	46.2	19.4	2.3	5.3	3.8	2.0	3.8
男性(n=457)	64.8	63.7	43.5	28.7	42.7	50.8	38.7	37.9	20.6	2.8	5.3	1.8	2.8	1.8
回答しない(n=29)	62.1	51.7	55.2	37.9	55.2	37.9	34.5	48.3	17.2	3.4	6.9	3.4	6.9	3.4
18～29歳(n=83)	73.5	60.2	45.8	33.7	45.8	57.8	37.3	48.2	26.5	2.4	1.2	1.2	1.2	1.2
30～39歳(n=126)	75.4	76.2	49.2	32.5	46.8	57.9	45.2	52.4	21.4	3.2	0.8	0.0	0.8	0.0
40～49歳(n=171)	72.5	69.0	53.8	34.5	52.6	58.5	47.4	46.8	27.5	4.1	3.5	1.2	3.5	1.2
50～59歳(n=146)	70.5	64.4	52.7	37.0	45.9	57.5	41.8	48.6	20.5	2.1	2.1	0.7	2.1	0.7
60～69歳(n=280)	70.7	67.1	48.2	26.1	44.6	50.7	36.4	38.9	17.1	1.4	4.3	1.8	4.3	1.8
70～79歳(n=261)	55.9	62.1	39.8	25.7	39.1	44.4	40.2	37.2	14.9	2.3	1.9	8.4	1.9	8.4
80歳以上(n=60)	50.0	58.3	33.3	35.0	41.7	36.7	36.7	30.0	16.7	5.0	1.7	5.0	1.7	5.0

	特には問題と思う	わからない	不明・無回答
本調査(n=1,143)	2.5	5.3	3.5
女性(n=639)	2.0	5.0	3.8
男性(n=457)	2.8	5.9	1.8
回答しない(n=29)	6.9	3.4	3.4
18～29歳(n=83)	1.2	2.4	1.2
30～39歳(n=126)	0.8	5.6	0.0
40～49歳(n=171)	3.5	2.9	1.2
50～59歳(n=146)	2.1	7.5	0.7
60～69歳(n=280)	4.3	3.6	1.8
70～79歳(n=261)	1.9	7.3	8.4
80歳以上(n=60)	1.7	11.7	5.0

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

11 同和問題について

(1) 差別意識は解消しつつあると思うか

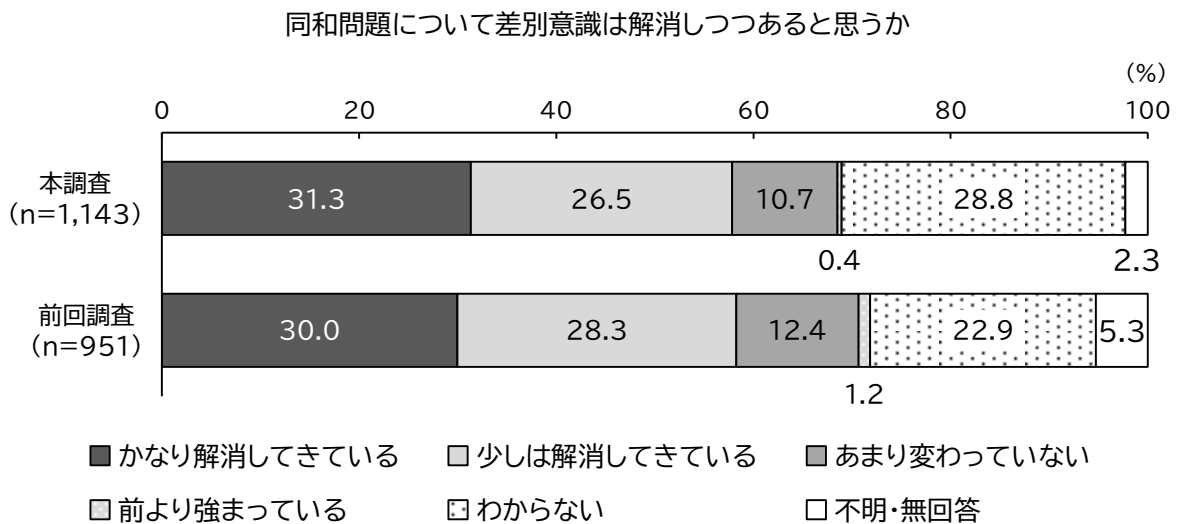
問17 あなたは、同和問題について差別意識は解消しつつあると思われますか。(1つに○)

【本調査の結果及び前回調査との比較】

同和問題について差別意識は解消しつつあると思うかについて、最も多いのは「かなり解消してきている」で31.3%、「少しは解消してきている」が26.5%となっており、両方を合わせた57.8%が同和問題について差別意識は解消しつつあると回答しています。

「前回調査」と比較すると、解消しつつあるという回答はほぼ増減していません(「前回調査」では58.3%)。

また、「わからない」は28.8%となっており、「前回調査」と比較すると、5.9ポイント多くなっています。



【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」は「わからない」が最も多く、「男性」は「かなり解消してきている」が最も多くなっています。「かなり解消してきている」は、「男性」が「女性」より10ポイント以上多くなっています。

年齢別にみると、49歳以下では「わからない」が、「50～59歳」では「少しは解消してきている」が、「60～69歳」以上では「かなり解消してきている」が最も多くなっています。「かなり解消してきている」は、年齢が高くなるほど多く、「わからない」は、年齢が低くなるほど多くなる傾向にあります。

同和問題について差別意識は解消しつつあると思うか

(単位：%)

	解かなり 消して きている	解少し 消して きている	変あ わまり ついて いない	強前 まより つて いる	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
本調査(n=1,143)	31.3	26.5	10.7	0.4	28.8	2.3
女性(n=639)	27.4	28.6	11.3	0.2	30.4	2.2
男性(n=457)	38.5	24.3	10.5	0.9	24.7	1.1
回答しない(n=29)	10.3	27.6	6.9	0.0	55.2	0.0
18～29歳(n=83)	9.6	14.5	12.0	0.0	63.9	0.0
30～39歳(n=126)	10.3	20.6	12.7	1.6	54.8	0.0
40～49歳(n=171)	18.1	28.1	16.4	0.6	36.3	0.6
50～59歳(n=146)	28.1	36.3	9.6	0.0	25.3	0.7
60～69歳(n=280)	39.3	28.9	11.4	0.7	17.5	2.1
70～79歳(n=261)	42.9	25.7	7.7	0.0	19.5	4.2
80歳以上(n=60)	65.0	23.3	3.3	0.0	6.7	1.7

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

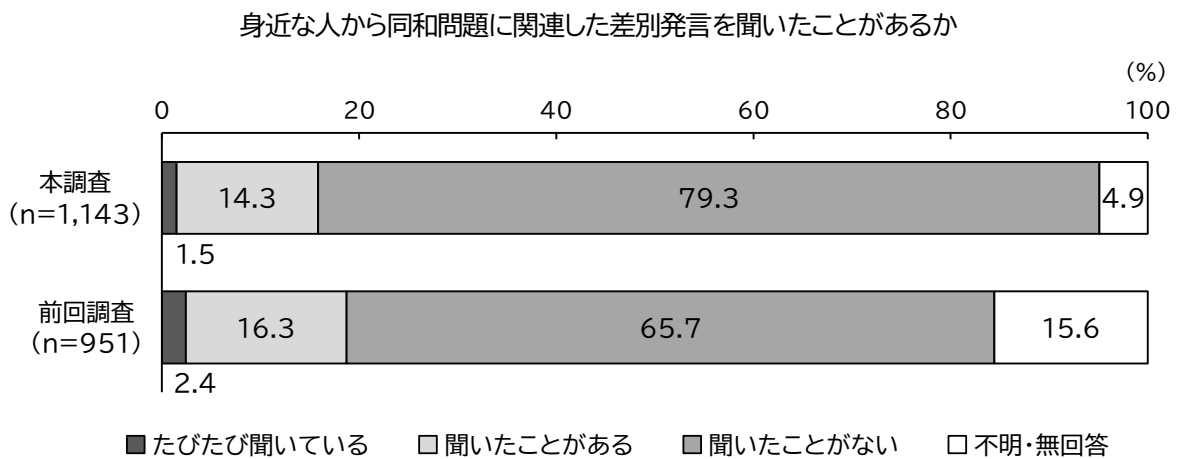
(2) 身近な人から同和問題に関連した差別発言を聞いたことがあるか

問18 あなたは、過去5年以内に職場や地域の身近な人から同和問題に関連した差別発言を聞いたことがありますか。(1つに○)

【本調査の結果及び前回調査との比較】

過去5年以内に身近な人から同和問題に関連した差別発言を聞いたことがあるかについて、最も多いのは「聞いたことがない」で79.3%、次いで「聞いたことがある」が14.3%、「たびたび聞いている」が1.5%となっています。「たびたび聞いている」と「聞いたことがある」を合わせると、15.8%が過去5年以内に身近な人から同和問題に関連した差別発言を聞いたと回答しています。

「前回調査」と比較すると、聞いたという回答はやや減っており(「前回調査」では18.7%)、「聞いたことがない」が10ポイント以上増えています。



【性別・年齢別】

性別で見ると、「女性」「男性」とともに「聞いたことがない」が最も多くなっています。

年齢別にみると、全ての年代において「聞いたことがない」が最も多くなっています。「聞いたことがない」は、年齢が高くなるほど少なくなる傾向にあります。

身近な人から同和問題に関連した差別発言を聞いたことがあるか
(単位:%)

	た び た び 聞 い て い る	聞 い た こ と が あ る	聞 い た こ と が な い	不 明 ・ 無 回 答
本調査(n=1,143)	1.5	14.3	79.3	4.9
女性(n=639)	1.6	14.4	79.7	4.4
男性(n=457)	1.5	14.9	79.9	3.7
回答しない(n=29)	0.0	13.8	75.9	10.3
18～29歳(n=83)	1.2	16.9	80.7	1.2
30～39歳(n=126)	1.6	10.3	84.1	4.0
40～49歳(n=171)	2.3	12.9	83.6	1.2
50～59歳(n=146)	2.7	13.0	82.9	1.4
60～69歳(n=280)	0.4	18.9	77.9	2.9
70～79歳(n=261)	1.9	13.0	75.5	9.6
80歳以上(n=60)	0.0	15.0	75.0	10.0

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位2位までの項目

(3) 同和問題に関連した差別発言を聞いたときの対応

問18で「1 たびたび聞いている」「2 聞いたことがある」と答えた方だけにおたずねします。

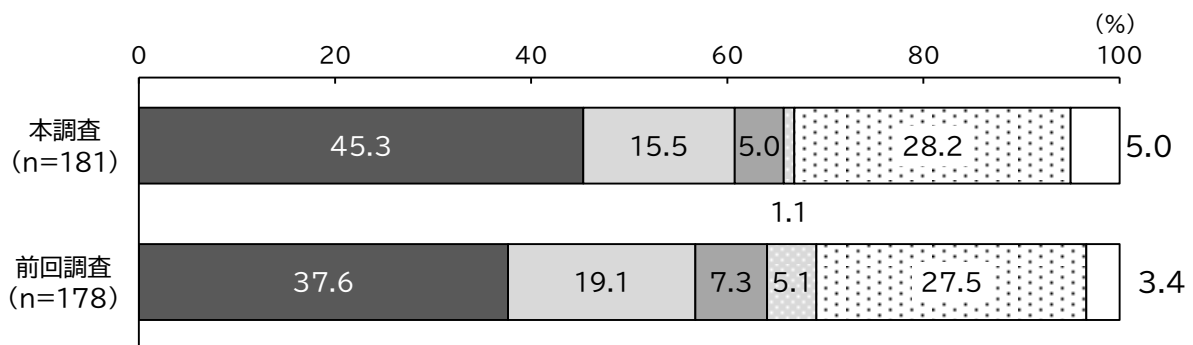
問19 そのときあなたはどうされましたか。(1つに○)

【本調査の結果及び前回調査との比較】

同和問題に関連した差別発言を聞いたときの対応について、最も多いのは「何もしないでそのままにしておいた」で45.3%、次いで「どうしていいのかわからなかった」が28.2%、「差別のまちがいについて指摘し、注意した」が15.5%となっています。

「差別のまちがいについて指摘し、注意した」「差別のまちがいについて注意し、その人と話し合った」「同和問題のことをよく知っている人を交えて、話し合った(行政の人権問題の窓口へ相談するなども含む)」を合わせると、21.6%が「何らかの対応をした」と回答しています。また、「何らかの対応をした」という回答は「前回調査」が31.5%であり、10ポイント近く減っています。

同和問題に関連した差別発言を聞いたときの対応



- 何もしないでそのままにしておいた
- 差別のまちがいについて指摘し、注意した
- 差別のまちがいについて注意し、その人と話し合った
- 同和問題のことをよく知っている人を交えて、話し合った(行政の人権問題の窓口へ相談するなども含む)
- どうしていいのかわからなかった
- 不明・無回答

【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」は「どうしていいのかわからなかった」が最も多く、男性は「何もしないでそのままにしておいた」が最も多くなっています。「何もしないでそのままにしておいた」は、「男性」が「女性」より20ポイント以上多く、「どうしていいのかわからなかった」は、「女性」が「男性」より20ポイント以上多くなっています。

年齢別にみると、「30～39歳」以下では「どうしていいのかわからなかった」が最も多く、「40～49歳」以上では「何もしないでそのままにしておいた」が最も多くなっています。

「差別のまちがいについて指摘し、注意した」「差別のまちがいについて注意し、その人と話し合った」「同和問題のことをよく知っている人を交えて、話し合った(行政の人権問題の窓口へ相談するなど含む)」を合わせた「何らかの対応をした」という回答をみると、「18～29歳」「50～59歳」で多く、「40～49歳」で少なくなっています。

同和問題に関連した差別発言を聞いたときの対応

(単位:%)

	何もしないでそのままにしておいた	差別のまちがいについて指摘し、注意した	差別のまちがいについて注意し、その人と話し合った	同和問題のことをよく知っている人を交えて、話し合った(行政の人権問題の窓口へ相談するなど含む)	どうしていいのかわからなかった	不明・無回答
本調査(n=181)	45.3	15.5	5.0	1.1	28.2	5.0
女性(n=102)	35.3	15.7	5.9	1.0	40.2	2.0
男性(n=75)	60.0	16.0	4.0	1.3	12.0	6.7
回答しない(n=4)	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	50.0
18～29歳(n=15)	6.7	20.0	13.3	0.0	60.0	0.0
30～39歳(n=15)	13.3	20.0	0.0	0.0	53.3	13.3
40～49歳(n=26)	46.2	3.8	7.7	0.0	42.3	0.0
50～59歳(n=23)	47.8	26.1	8.7	0.0	13.0	4.3
60～69歳(n=54)	55.6	20.4	3.7	0.0	14.8	5.6
70～79歳(n=39)	56.4	7.7	2.6	2.6	25.6	5.1
80歳以上(n=9)	44.4	11.1	0.0	11.1	22.2	11.1

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

(4) 同和問題を解決するための取組や対応について

すべての方におたずねします。

問20 あなたは、同和問題を解決するための取組や対応に関して、次のA～Dのような考え方についてどのように思いますか。(A～Dのそれぞれについて1つに○)

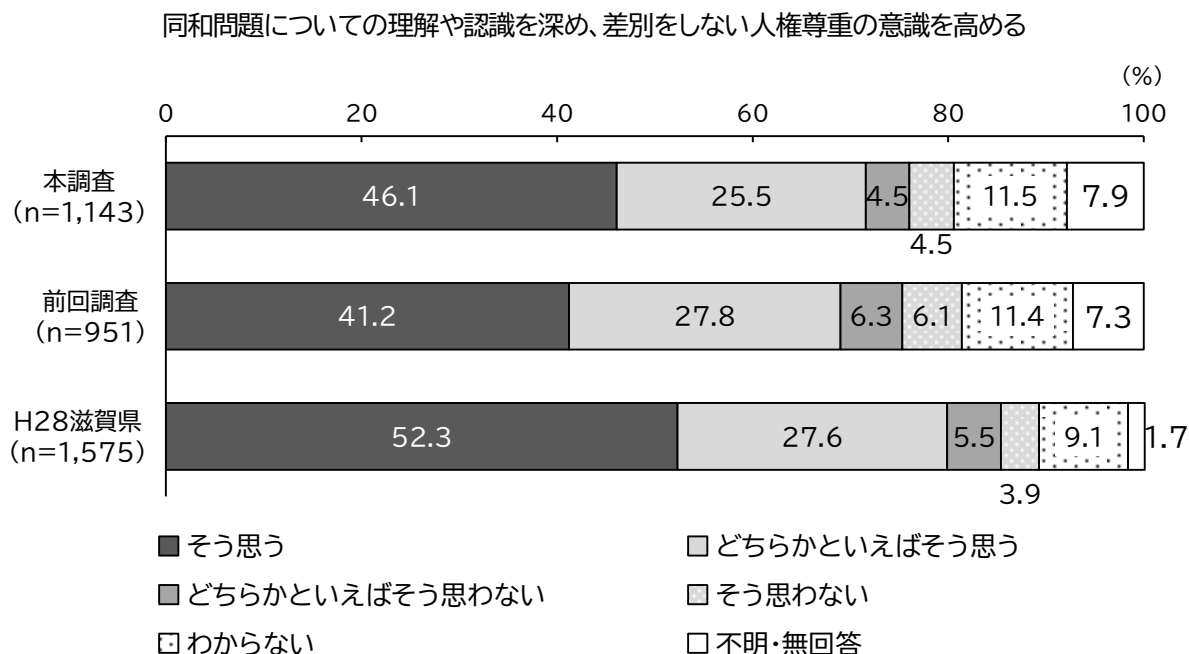
A 同和問題についての理解や認識を深め、差別をしない人権尊重の意識を高める

【本調査の結果及び前回調査・滋賀県との比較】

「同和問題についての理解や認識を深め、差別をしない人権尊重の意識を高める」について、最も多いのは「そう思う」で46.1%、次いで「どちらかといえばそう思う」が25.5%、「わからない」が11.5%となっています。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、71.6%が、同和問題についての理解や認識を深め、差別をしない人権尊重の意識を高めるという考えに肯定的です。

「前回調査」と比較すると、肯定的な回答はやや増えています(「前回調査」では69.0%)。

「H28滋賀県」においても、「そう思う」が最も多くなっています。



※ 「H28滋賀県」は、「同和問題について正しい理解と認識を深め、一人一人が差別をしない人権尊重の意識を高めることが必要」について

【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」ともに「そう思う」が最も多くなっています。

年齢別にみると、全ての年代において「そう思う」が最も多くなっています。「そう思う」と「どちらかといえ
ばそう思う」を合わせた、同和問題についての理解や認識を深め、差別をしない人権尊重の意識を高める
という考えに肯定的な回答については、年代による大きな差は見られません。

同和問題についての理解や認識を深め、差別をしない人権尊重の意識を高める
(単位:%)

	そう 思う	そ ど ち ら か と い え ば	そ ど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
本調査(n=1,143)	46.1	25.5	4.5	4.5	11.5	7.9
女性(n=639)	48.5	25.2	4.2	3.4	11.1	7.5
男性(n=457)	45.1	25.8	5.0	6.1	12.3	5.7
回答しない(n=29)	24.1	34.5	3.4	3.4	17.2	17.2
18～29歳(n=83)	45.8	28.9	3.6	1.2	19.3	1.2
30～39歳(n=126)	41.3	27.0	6.3	5.6	18.3	1.6
40～49歳(n=171)	39.8	32.7	4.7	7.0	12.3	3.5
50～59歳(n=146)	43.8	26.7	7.5	6.8	14.4	0.7
60～69歳(n=280)	49.3	25.4	5.7	4.6	7.5	7.5
70～79歳(n=261)	50.6	20.3	1.9	3.1	9.2	14.9
80歳以上(n=60)	53.3	20.0	0.0	0.0	8.3	18.3

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

すべての方におたずねします。

問20 あなたは、同和問題を解決するための取組や対応に関して、次のA～Dのような考え方についてどのように思いますか。(A～Dのそれぞれについて1つに○)

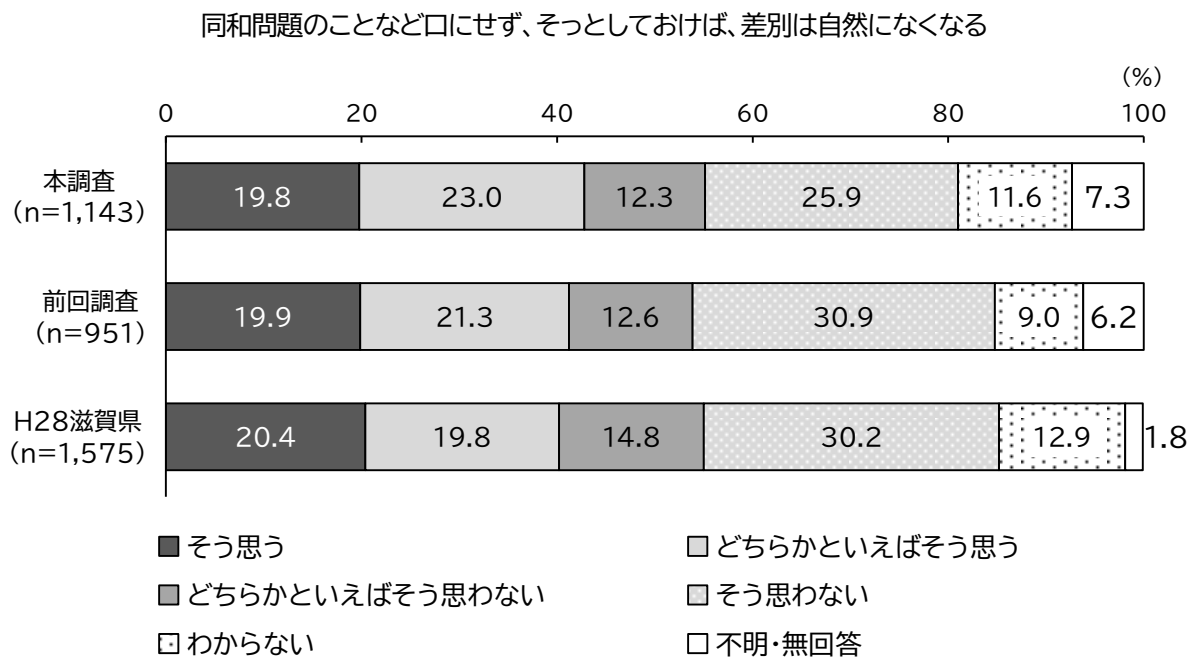
B 同和問題のことなど口にせず、そっとしておけば、差別は自然になくなる

【本調査の結果及び前回調査・滋賀県との比較】

「同和問題のことなど口にせず、そっとしておけば、差別は自然になくなる」について、最も多いのは「そう思わない」で25.9%、次いで「どちらかといえばそう思う」が23.0%、「そう思う」が19.8%となっています。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、42.8%が、同和問題のことなど口にせず、そっとしておけば、差別は自然になくなるという考えです。

「前回調査」と比較すると、肯定的な回答はほぼ増減していませんが(「前回調査」では41.2%)、「そう思わない」が5ポイント少なくなっています。

「H28滋賀県」においても、「そう思わない」が最も多くなっています。



【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」は「どちらかといえばそう思う」が最も多く、「男性」は「そう思わない」が最も多くなっています。

年齢別にみると、49歳以下と「60～69歳」では「そう思わない」が最も多く、「50～59歳」では「どちらかといえばそう思う」と「そう思わない」が同数で最も多く、「70～79歳」では「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」が同数で最も多く、「80歳以上」では「どちらかといえばそう思う」が最も多くなっています。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた、同和問題のことなど口にはせず、そっとしておけば、差別は自然になくなるという考えについては、年代が高くなるほど多くなる傾向にあります。

同和問題のことなど口にはせず、そっとしておけば、差別は自然になくなる

(単位:%)

	そう 思う	そ ど ち ら か と い え ば	そ ど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
本調査(n=1,143)	19.8	23.0	12.3	25.9	11.6	7.3
女性(n=639)	18.0	25.0	12.7	24.7	12.2	7.4
男性(n=457)	21.7	21.4	11.8	29.3	10.7	5.0
回答しない(n=29)	27.6	13.8	17.2	10.3	17.2	13.8
18～29歳(n=83)	19.3	14.5	18.1	30.1	16.9	1.2
30～39歳(n=126)	19.8	18.3	18.3	26.2	15.9	1.6
40～49歳(n=171)	20.5	22.2	18.7	24.0	11.1	3.5
50～59歳(n=146)	17.1	26.7	15.1	26.7	13.7	0.7
60～69歳(n=280)	16.4	25.7	9.3	31.8	9.3	7.5
70～79歳(n=261)	23.0	23.0	8.0	22.6	10.7	12.6
80歳以上(n=60)	26.7	28.3	3.3	15.0	6.7	20.0

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

すべての方におたずねします。

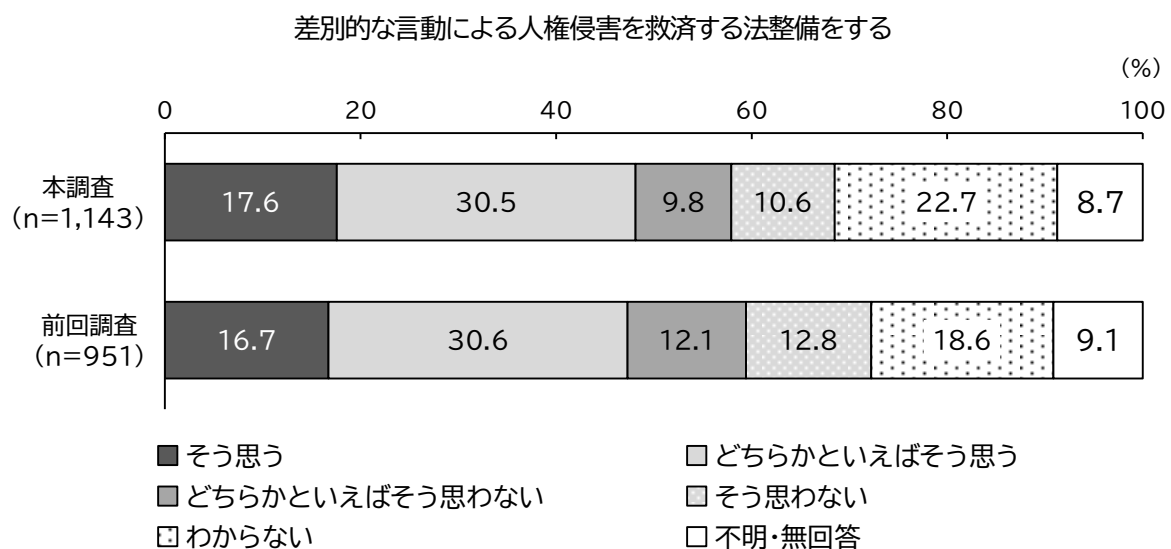
問20 あなたは、同和問題を解決するための取組や対応に関して、次のA～Dのような考え方についてどのように思いますか。(A～Dのそれぞれについて1つに○)

C 差別的な言動による人権侵害を救済する法整備をする

【本調査の結果及び前回調査との比較】

「差別的な言動による人権侵害を救済する法整備をする」について、最も多いのは「どちらかといえばそう思う」で30.5%、次いで「わからない」が22.7%、「そう思う」が17.6%となっています。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、48.1%が、差別的な言動による人権侵害を救済する法整備をするという考えに肯定的です。

「前回調査」と比較すると、肯定的な回答はほぼ増減していません(「前回調査」では47.3%)。



※ 「H28滋賀県」は比較対象となる設問なし

【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」とともに「どちらかといえばそう思う」が最も多くなっています。

年齢別にみると、「50～59歳」では「わからない」が最も多く、それ以外の年代では「どちらかといえばそう思う」が最も多くなっています。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた、差別的な言動による人権侵害を救済する法整備をするという考えに肯定的な回答については、年齢が低くなるほど多くなる傾向にあります。

差別的な言動による人権侵害を救済する法整備をする

(単位：%)

	そう 思う	そ ど ち ら か と い え ば	そ ど ち ら わ か な い い え ば	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
本調査(n=1,143)	17.6	30.5	9.8	10.6	22.7	8.7
女性(n=639)	15.5	31.9	8.9	8.6	26.1	8.9
男性(n=457)	20.6	30.6	11.4	12.9	18.4	6.1
回答しない(n=29)	17.2	17.2	6.9	13.8	27.6	17.2
18～29歳(n=83)	21.7	38.6	6.0	12.0	20.5	1.2
30～39歳(n=126)	20.6	35.7	11.1	9.5	22.2	0.8
40～49歳(n=171)	18.7	36.8	10.5	10.5	19.9	3.5
50～59歳(n=146)	22.6	24.7	11.0	12.3	28.8	0.7
60～69歳(n=280)	13.9	30.4	11.1	11.8	23.9	8.9
70～79歳(n=261)	15.7	28.4	8.8	8.0	22.2	16.9
80歳以上(n=60)	16.7	23.3	6.7	10.0	20.0	23.3

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

すべての方におたずねします。

問20 あなたは、同和問題を解決するための取組や対応に関して、次のA～Dのような考え方についてどのように思いますか。(A～Dのそれぞれについて1つに○)

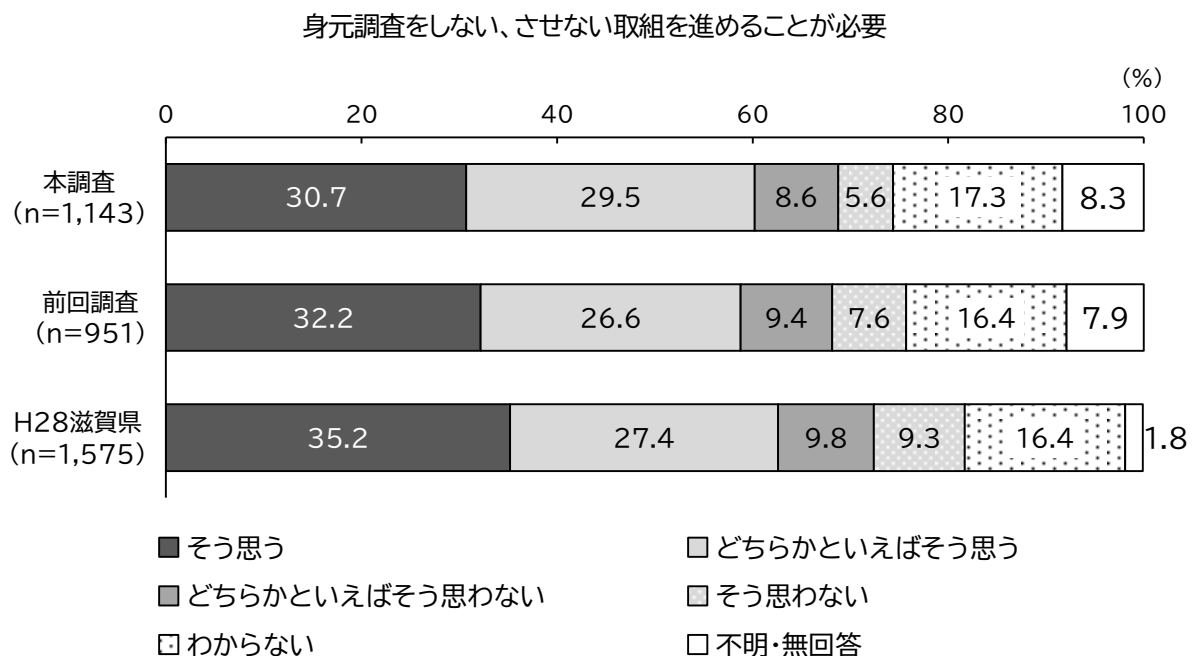
D 身元調査をしない、させない取組を進めることが必要

【本調査の結果及び前回調査・滋賀県との比較】

「身元調査をしない、させない取組を進めることが必要」について、最も多いのは「そう思う」で30.7%、次いで「どちらかといえばそう思う」が29.5%、「わからない」が17.3%となっています。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、60.2%が、身元調査をしない、させない取組を進めることが必要という考えに肯定的です。

「前回調査」と比較すると、肯定的な回答はほぼ増減していません(「前回調査」では58.8%)。

「H28滋賀県」においても、「そう思う」が最も多くなっています。



【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」は「どちらかといえばそう思う」が最も多く、「男性」は「そう思う」が最も多くなっています。

年齢別にみると、30歳から59歳では「どちらかといえばそう思う」が最も多く、それ以外の年代では「そう思う」が最も多くなっています。

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた、身元調査をしない、させない取組を進めることが必要という考えに肯定的な回答については、全ての年代において多くなっています。

身元調査をしない、させない取組を進めることが必要

(単位：%)

	そう 思う	そ ど ち ら か と い え ば	そ ど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
本調査(n=1,143)	30.7	29.5	8.6	5.6	17.3	8.3
女性(n=639)	30.2	30.8	7.5	3.9	19.4	8.1
男性(n=457)	32.4	28.9	10.1	8.1	14.4	6.1
回答しない(n=29)	20.7	24.1	13.8	3.4	24.1	13.8
18～29歳(n=83)	30.1	25.3	12.0	7.2	24.1	1.2
30～39歳(n=126)	22.2	34.9	10.3	7.1	23.8	1.6
40～49歳(n=171)	26.3	40.4	7.0	4.1	19.9	2.3
50～59歳(n=146)	30.8	31.5	11.0	6.2	19.9	0.7
60～69歳(n=280)	35.4	28.6	9.3	6.4	11.4	8.9
70～79歳(n=261)	34.5	23.4	6.5	4.6	16.1	14.9
80歳以上(n=60)	26.7	25.0	5.0	3.3	16.7	23.3

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

12 人権問題とその対策について

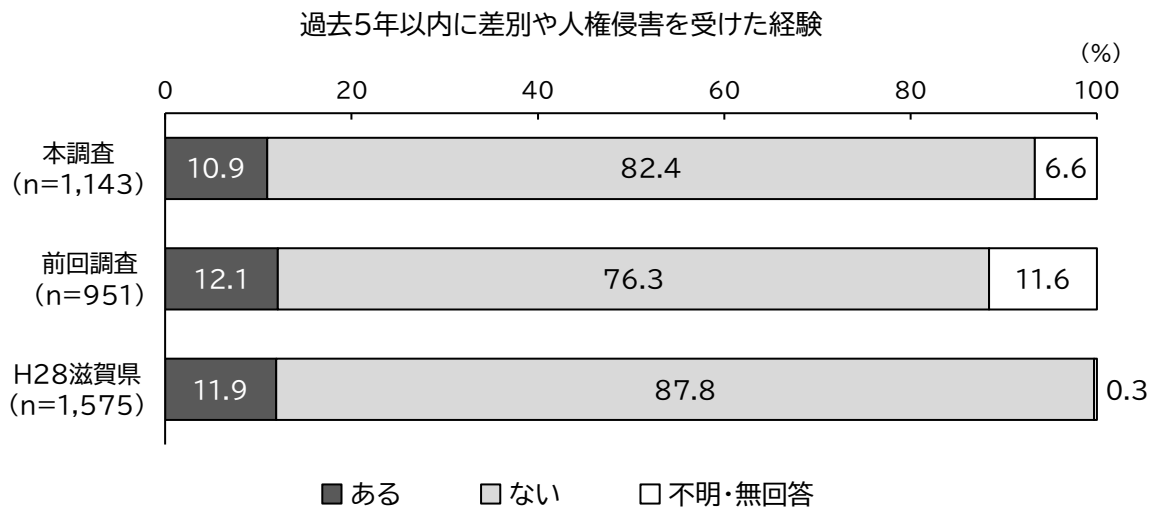
(1) 差別や人権侵害を受けた経験

問21 あなたは、過去5年以内に、差別や人権侵害を受けたことがありますか。(1つに○)

【本調査の結果及び前回調査・滋賀県との比較】

過去5年以内に差別や人権侵害を受けた経験について、「ある」が10.9%、「ない」が82.4%となっています。

「前回調査」と比較すると、「ない」が5ポイント以上増えています。



【性別・年齢別】

性別にみると、「男性」「女性」とともに「ない」の方が多くなっています。「女性」は「男性」より、「ある」がやや多くなっています。

年齢別にみると、全ての年代において「ない」の方が多くなっています。年齢が低くなるほど「ある」が多くなる傾向にあります。

過去5年以内に差別や人権侵害を受けた経験
(単位:%)

	ある	ない	無不 回 明 答 ・
本調査(n=1,143)	10.9	82.4	6.6
女性(n=639)	12.8	81.1	6.1
男性(n=457)	8.3	86.2	5.5
回答しない(n=29)	13.8	79.3	6.9
18~29歳(n=83)	20.5	77.1	2.4
30~39歳(n=126)	20.6	75.4	4.0
40~49歳(n=171)	14.6	79.5	5.8
50~59歳(n=146)	17.1	79.5	3.4
60~69歳(n=280)	6.4	88.6	5.0
70~79歳(n=261)	5.4	85.4	9.2
80歳以上(n=60)	0.0	88.3	11.7

※ 灰色、太字の部分は、各属性の1位の項目

(2) 人権が侵害された内容と相談先

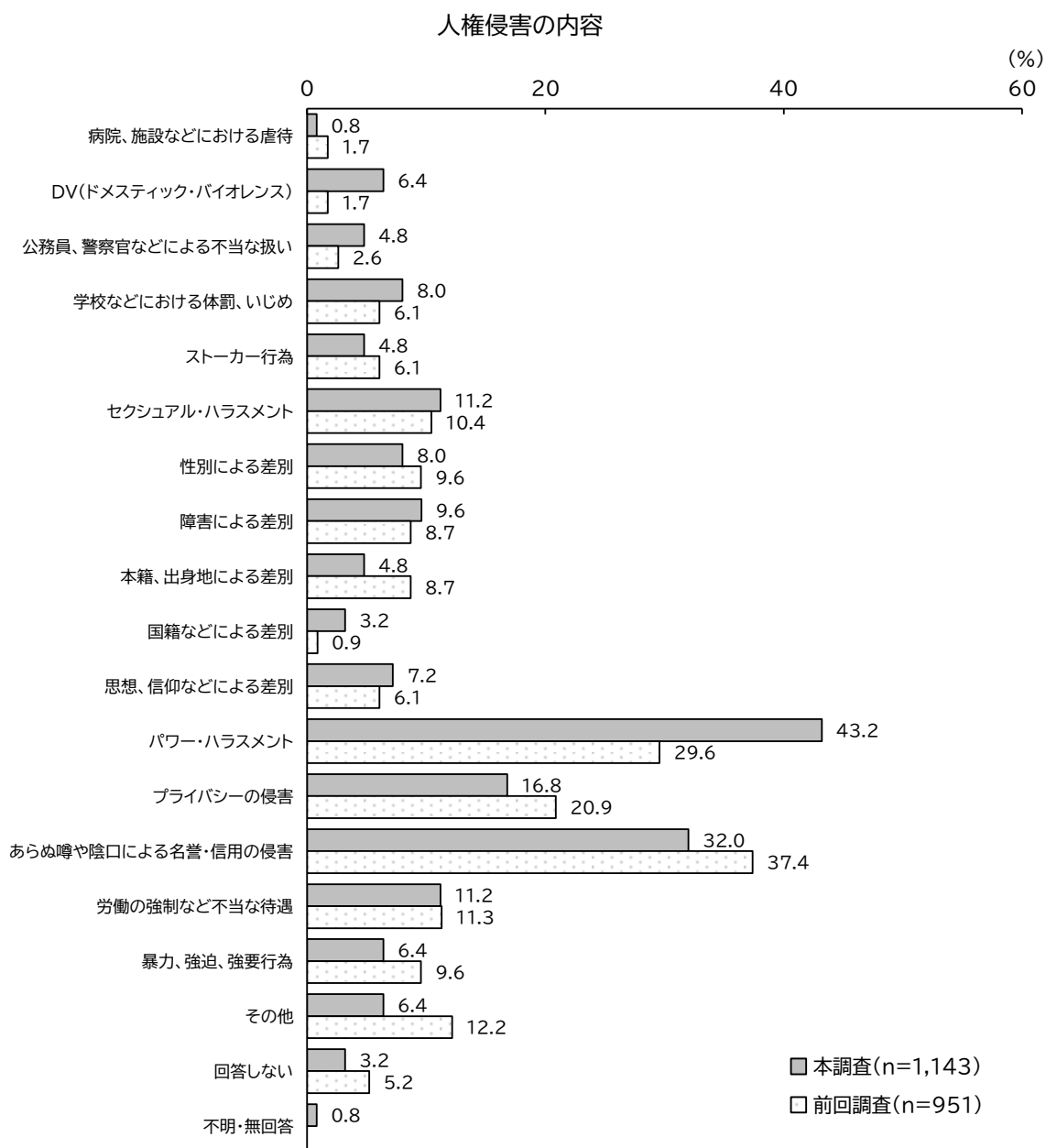
問21で「1 ある」と答えた方だけにおたずねします。
 問22 差し支えなければ、人権が侵害された内容とその際の相談先について下記の中から、お答えください。(あてはまるものすべてに○)

◎ 人権侵害の内容

【本調査の結果及び前回調査との比較】

人権侵害の内容について、最も多いのは「パワー・ハラスメント」で43.2%、次いで「あらぬ噂や陰口による名誉・信用の侵害」が32.0%、「プライバシーの侵害」が16.8%となっています。

「前回調査」と比較すると、「パワー・ハラスメント」が10ポイント以上増えています。



※ 「前回調査」では、「不明・無回答」は未集計

【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」は「あらぬ噂や陰口による名誉・信用の侵害」が最も多く、「男性」は「パワー・ハラスメント」が最も多くなっています。「セクシュアル・ハラスメント」「プライバシーの侵害」「あらぬ噂や陰口による名誉・信用の侵害」は、「女性」が「男性」より10ポイント以上多くなっています。「障害による差別」「パワー・ハラスメント」「労働の強制など不当な待遇」「暴力、強迫、強要行為」は、「男性」が「女性」より10ポイント以上多くなっています。

年齢別にみると、「50～59歳」以下では「パワー・ハラスメント」が、「60～69歳」以上では「あらぬ噂や陰口による名誉・信用の侵害」が最も多くなっています。他の年代と比較すると、「30～39歳」では「パワー・ハラスメント」が多く、「プライバシーの侵害」が少なくなっています。「60～69歳」以上では「パワー・ハラスメント」が少なくなっています。「70～79歳」では「プライバシーの侵害」が多くなっています。

人権侵害の内容

(単位:%)

	虐待、施設などにおける	DV(ドメスティック・バイオレンス)	公務員、警察官などによる不当な扱い	学校などにおける体罰、いじめ	ストーカー行為	セクシュアル・ハラスメント	性別による差別	障害による差別	本籍、出身地による差別	国籍などによる差別
本調査(n=125)	0.8	6.4	4.8	8.0	4.8	11.2	8.0	9.6	4.8	3.2
女性(n=82)	0.0	8.5	3.7	7.3	4.9	14.6	9.8	3.7	2.4	3.7
男性(n=38)	2.6	2.6	7.9	7.9	2.6	2.6	5.3	23.7	10.5	2.6
回答しない(n=4)	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
18～29歳(n=17)	0.0	0.0	0.0	11.8	11.8	11.8	17.6	5.9	0.0	0.0
30～39歳(n=26)	0.0	7.7	0.0	7.7	7.7	15.4	7.7	3.8	0.0	3.8
40～49歳(n=25)	0.0	8.0	4.0	4.0	4.0	16.0	4.0	0.0	12.0	4.0
50～59歳(n=25)	0.0	4.0	12.0	8.0	0.0	4.0	0.0	16.0	8.0	0.0
60～69歳(n=18)	0.0	11.1	0.0	5.6	0.0	11.1	11.1	16.7	0.0	0.0
70～79歳(n=14)	7.1	7.1	14.3	14.3	7.1	7.1	14.3	21.4	7.1	14.3
80歳以上(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	差別思想、信仰などによる	パワー・ハラスメント	プライバシーの侵害	あらぬ噂や陰口による名誉・信用の侵害	労働の強制など不当な待遇	暴力、強迫、強要行為	その他	回答しない	不明・無回答
本調査(n=125)	7.2	43.2	16.8	32.0	11.2	6.4	6.4	3.2	0.8
女性(n=82)	4.9	32.9	20.7	37.8	4.9	2.4	8.5	3.7	0.0
男性(n=38)	13.2	68.4	10.5	21.1	26.3	15.8	2.6	0.0	0.0
回答しない(n=4)	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
18～29歳(n=17)	11.8	47.1	17.6	41.2	23.5	5.9	5.9	0.0	0.0
30～39歳(n=26)	0.0	57.7	19.2	15.4	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0
40～49歳(n=25)	0.0	48.0	16.0	24.0	8.0	8.0	8.0	8.0	0.0
50～59歳(n=25)	4.0	52.0	4.0	32.0	20.0	16.0	8.0	8.0	0.0
60～69歳(n=18)	22.2	16.7	22.2	38.9	11.1	0.0	5.6	0.0	5.6
70～79歳(n=14)	14.3	21.4	28.6	57.1	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0
80歳以上(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

問21で「1 ある」と答えた方だけにおたずねします。

問22 差し支えなければ、人権が侵害された内容とその際の相談先について下記の中から、お答えください。(あてはまるものすべてに○)

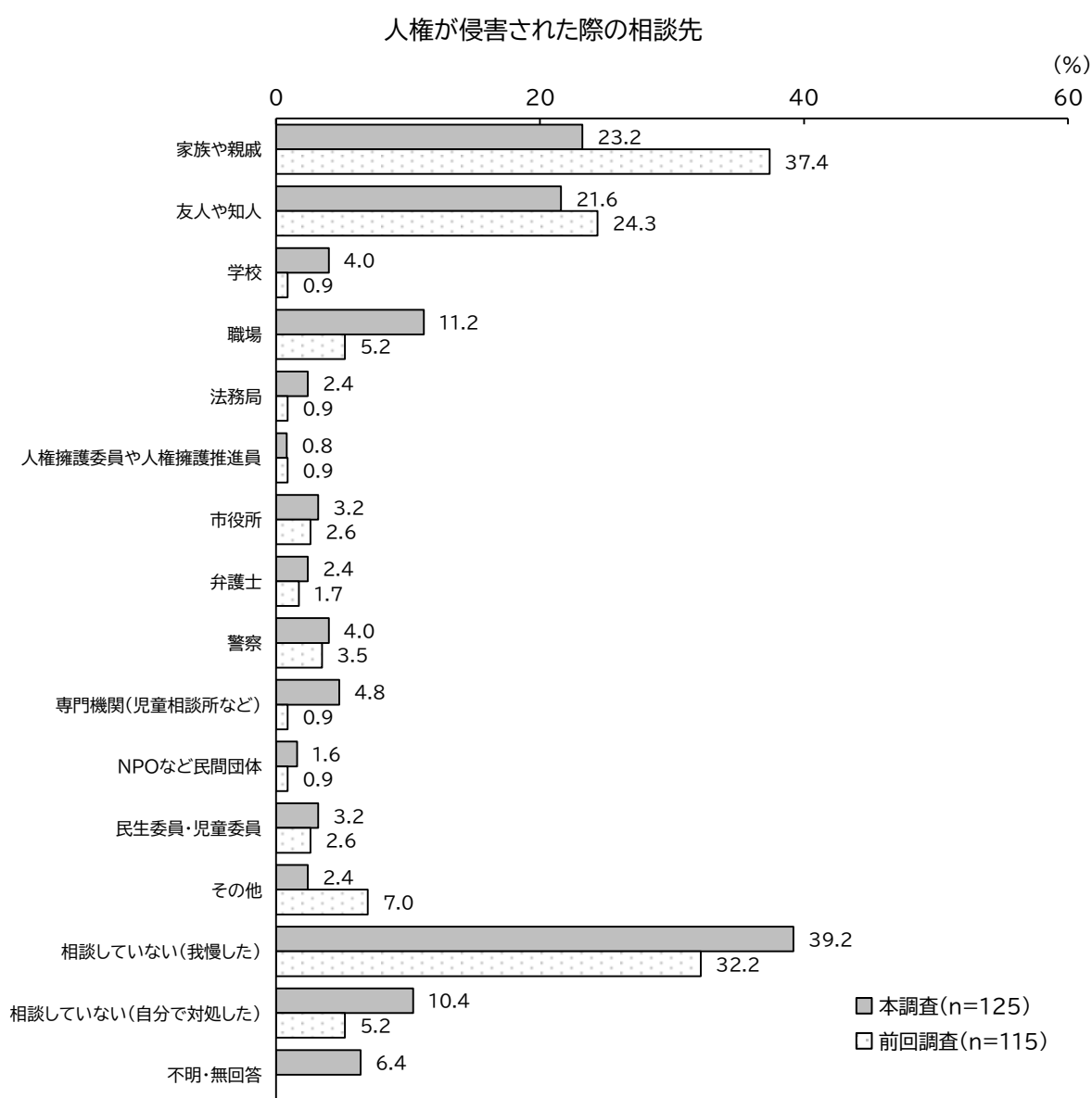
◎ 人権が侵害された際の相談先

【本調査の結果及び前回調査との比較】

人権が侵害された際の相談先は、「家族や親戚」が23.2%、「友人や知人」が21.6%となっています。

「前回調査」と比較すると、「家族や親戚」が10ポイント以上減っています。

また、「相談していない(我慢した)」が39.2%、「相談していない(自分で対処した)」が10.4%となっています。



※ 「前回調査」では、「不明・無回答」は未集計

【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」とともに「相談していない(我慢した)」が最も多くなっています。「家族や親戚」は、「女性」が「男性」より10ポイント以上多くなっています。「民生委員・児童委員」は、「男性」が「女性」より10ポイント以上多くなっています。

年齢別にみると、全ての年代において「相談していない(我慢した)」が上位となっています。他の年代と比較すると、「50～59歳」では「家族や親戚」「友人や知人」が少なくなっています。

人権が侵害された際の相談先

(単位：%)

	家族や親戚	友人や知人	学校	職場	法務局	人権擁護推進員や	市役所	弁護士	警察	専門機関(児童相談所など)
本調査(n=125)	23.2	21.6	4.0	11.2	2.4	0.8	3.2	2.4	4.0	4.8
女性(n=82)	26.8	22.0	2.4	11.0	1.2	0.0	2.4	0.0	2.4	4.9
男性(n=38)	13.2	18.4	5.3	13.2	5.3	2.6	5.3	7.9	5.3	5.3
回答しない(n=4)	50.0	50.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
18～29歳(n=17)	29.4	23.5	5.9	5.9	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	11.8
30～39歳(n=26)	26.9	26.9	11.5	19.2	0.0	0.0	0.0	0.0	11.5	3.8
40～49歳(n=25)	36.0	28.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
50～59歳(n=25)	4.0	8.0	0.0	8.0	4.0	0.0	4.0	4.0	0.0	4.0
60～69歳(n=18)	27.8	27.8	0.0	5.6	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0
70～79歳(n=14)	14.3	14.3	7.1	0.0	7.1	7.1	14.3	14.3	14.3	7.1
80歳以上(n=0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

	NPOなど民間団体	民生委員・児童委員	その他	(相談していない(我慢した))	(相談して対処しない)	不明・無回答
本調査(n=125)	1.6	3.2	2.4	39.2	10.4	6.4
女性(n=82)	1.2	0.0	2.4	40.2	9.8	4.9
男性(n=38)	2.6	10.5	2.6	36.8	10.5	10.5
回答しない(n=4)	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
18～29歳(n=17)	0.0	0.0	5.9	29.4	17.6	0.0
30～39歳(n=26)	0.0	0.0	0.0	30.8	0.0	7.7
40～49歳(n=25)	4.0	0.0	8.0	32.0	8.0	4.0
50～59歳(n=25)	0.0	4.0	0.0	60.0	12.0	4.0
60～69歳(n=18)	0.0	5.6	0.0	50.0	5.6	5.6
70～79歳(n=14)	7.1	14.3	0.0	28.6	28.6	21.4
80歳以上(n=0)	-	-	-	-	-	-

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

13 人権尊重について

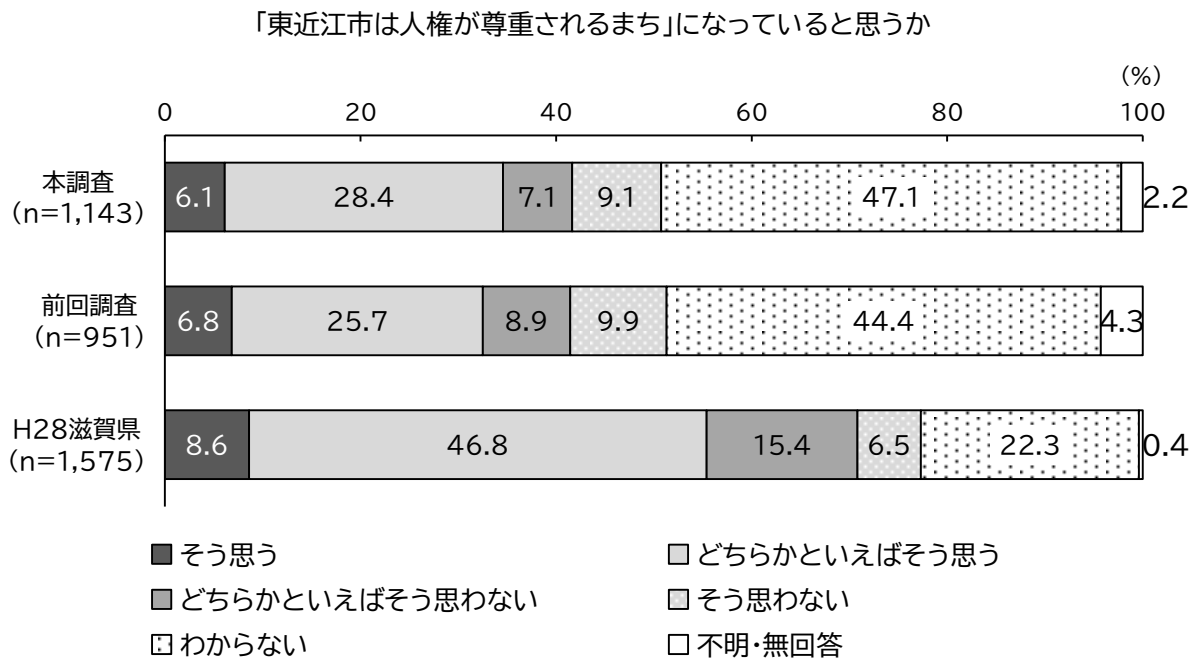
(1) 「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思うか

問23 あなたは、「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思いますか。(1つに○)

【本調査の結果及び前回調査・滋賀県との比較】

「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思うかについて、最も多いのは「わからない」で47.1%、次いで「どちらかといえばそう思う」が28.4%、「そう思わない」が9.1%となっています。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、34.5%が、「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思うと回答しています。

「前回調査」と比較すると、なっていると思うという回答はやや多くなっています(「前回調査」では32.5%)。



※ 「H28滋賀県」は、「今の滋賀県は「人権が尊重される社会」になっていると思いますか」について

【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」とともに「わからない」が最も多くなっています。

年齢別にみると、全ての年代において「わからない」が最も多くなっています。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた、「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思うという回答をみると、年齢が高くなるほど多くなる傾向にあります。

「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思うか

(単位:%)

	そう 思う	そ ど ち ら か と い え ば	そ ど ち ら か と い え ば	そ う 思 わ な い	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
本調査(n=1,143)	6.1	28.4	7.1	9.1	47.1	2.2
女性(n=639)	3.9	30.0	6.1	9.1	49.6	1.3
男性(n=457)	9.6	28.0	8.5	9.2	44.2	0.4
回答しない(n=29)	3.4	17.2	10.3	10.3	55.2	3.4
18～29歳(n=83)	1.2	22.9	2.4	9.6	63.9	0.0
30～39歳(n=126)	1.6	15.1	7.9	14.3	61.1	0.0
40～49歳(n=171)	4.1	28.1	7.0	12.9	47.4	0.6
50～59歳(n=146)	2.7	26.7	6.8	11.6	52.1	0.0
60～69歳(n=280)	5.7	32.5	6.8	7.5	46.1	1.4
70～79歳(n=261)	10.3	35.2	9.6	5.7	36.8	2.3
80歳以上(n=60)	21.7	28.3	5.0	5.0	38.3	1.7

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

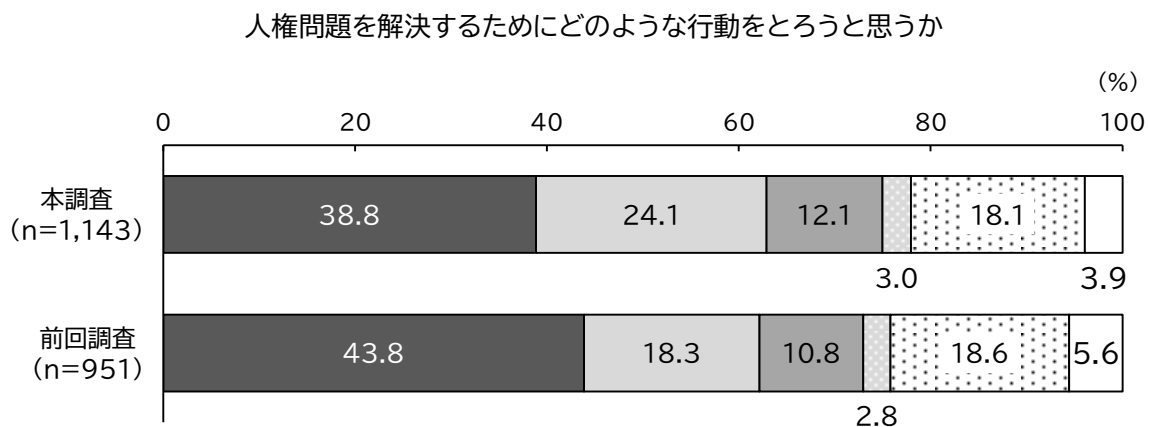
(2) 人権問題を解決するためにどのような行動をとろうと思うか

問24 あなたは、人権問題を解決するために、どのような行動をとろうと思いますか。(1つに○)

【本調査の結果及び前回調査との比較】

人権問題を解決するためにどのような行動をとろうと思うかについて、最も多いのは「自分も市民の一人として問題の解決を目指し努力したい」で38.8%、次いで「自分ではむずかしいと思うが、誰かしかるべき人が解決しなければならない」が24.1%、「わからない」が18.1%となっています。「自分も市民の一人として問題の解決を目指し努力したい」と「自分ではむずかしいと思うが、誰かしかるべき人が解決しなければならない」を合わせると、62.9%が、人権問題を解決するためには何らかの行動が必要であると回答しています。

「前回調査」と比較すると、何らかの行動が必要であるという回答はほぼ増減していません(「前回調査」では62.1%)。



- 自分も市民の一人として問題の解決を目指し努力したい
- ▣ 自分ではむずかしいと思うが、誰かしかるべき人が解決しなければならない
- ▤ 自分ではどうしようもない問題なのでなりゆきに任せる
- 人権問題はないので、対処する必要はない
- わからない
- 不明・無回答

【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」とともに「自分も市民の一人として問題の解決を目指し努力したい」が最も多くなっています。

年齢別にみると、全ての年代において「自分も市民の一人として問題の解決を目指し努力したい」が最も多くなっています。「自分も市民の一人として問題の解決を目指し努力したい」と「自分ではむずかしいと思うが、誰かしかるべき人が解決しなければならない」を合わせた、人権問題を解決するためには何らかの行動が必要であるという回答をみると、年齢が低くなるほど多くなる傾向にあります。

人権問題を解決するためにどのような行動をとろうと思うか

(単位：%)

	自分も市民の一人として問題の解決を目指したい	自分ではむずかしいと思うが、誰かしかるべき人が解決しなければならない	自分ではどうしようもないので、任せたい	人権問題はないので、対処する必要はない	わからない	不明・無回答
本調査(n=1,143)	38.8	24.1	12.1	3.0	18.1	3.9
女性(n=639)	38.5	25.5	11.4	2.7	18.3	3.6
男性(n=457)	41.1	22.8	12.5	3.5	18.6	1.5
回答しない(n=29)	27.6	27.6	27.6	3.4	10.3	3.4
18～29歳(n=83)	42.2	33.7	9.6	2.4	12.0	0.0
30～39歳(n=126)	42.1	28.6	11.1	0.0	16.7	1.6
40～49歳(n=171)	40.9	22.2	10.5	2.3	23.4	0.6
50～59歳(n=146)	45.2	19.9	14.4	0.7	17.8	2.1
60～69歳(n=280)	42.5	22.5	12.1	2.1	18.9	1.8
70～79歳(n=261)	31.0	26.1	13.4	6.1	16.5	6.9
80歳以上(n=60)	31.7	20.0	11.7	8.3	23.3	5.0

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

14 人権問題の啓発活動について

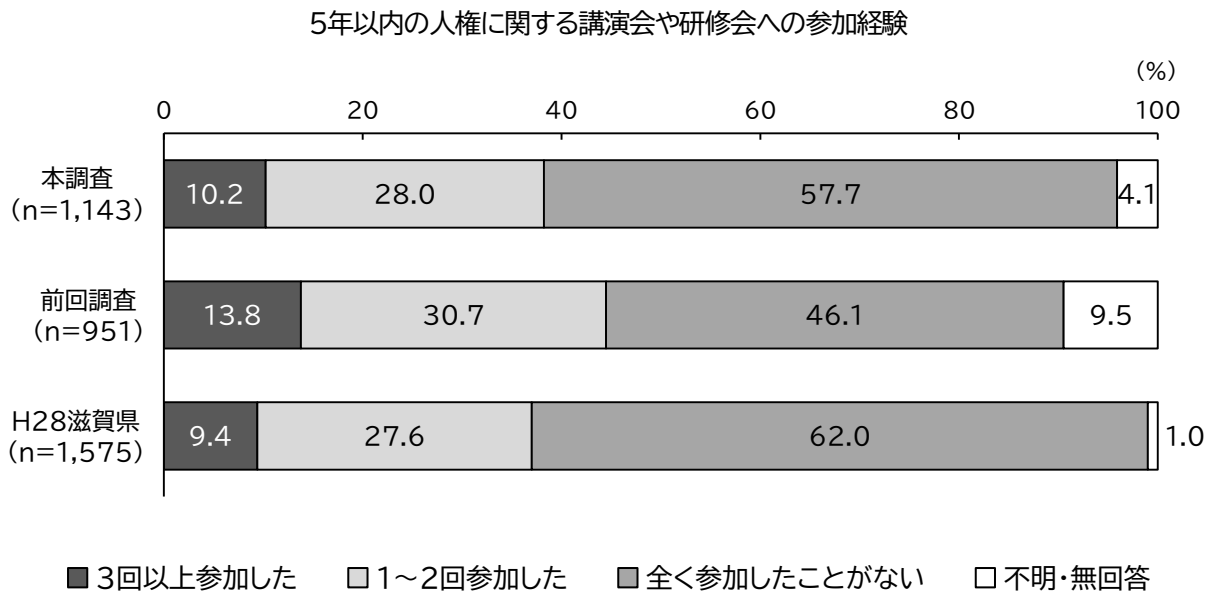
(1) 人権に関する講演会や研修会への参加経験

問25 あなたは、最近(5年以内)に、人権に関する講演会や研修会に参加されたことがありますか。
(1つに○)

【本調査の結果及び前回調査・滋賀県との比較】

5年以内の人権に関する講演会や研修会への参加経験について、最も多いのは「全く参加したことがない」で57.7%、次いで「1～2回参加した」が28.0%、「3回以上参加した」が10.2%となっています。「3回以上参加した」と「1～2回参加した」を合わせると、38.2%が、5年以内の人権に関する講演会や研修会に参加したことがあると回答しています。

「前回調査」と比較すると、参加したことがあるという回答は5ポイント以上少なくなっており(「前回調査」では44.5%)、「全く参加したことがない」が10ポイント以上増えています。



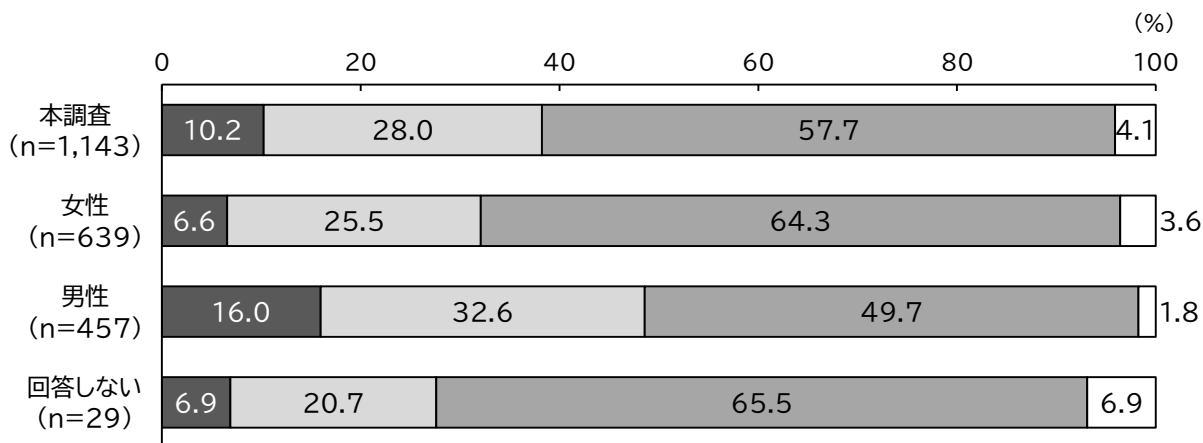
※ 「H28滋賀県」は、「過去3年ぐらい」の参加経験について

【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」とともに「全く参加したことがない」が最も多くなっています。「全く参加したことがない」は、「女性」が「男性」より10ポイント以上多くなっています。

年齢別にみると、全ての年代において「全く参加したことがない」が最も多くなっています。「3回以上参加した」と「1～2回参加した」を合わせた、5年以内の人権に関する講演会や研修会に参加したことがあるという回答をみると、「60～69歳」で多く、「30～39歳」で少なくなっています。

5年以内の人権に関する講演会や研修会への参加経験



■ 3回以上参加した □ 1～2回参加した ▨ 全く参加したことがない □ 不明・無回答

5年以内の人権に関する講演会や研修会への参加経験

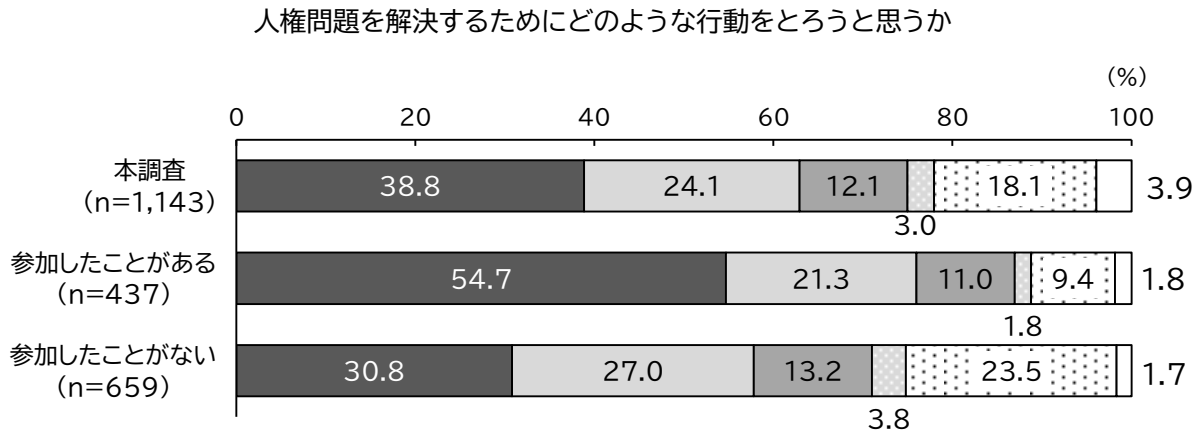
(単位:%)

	参3 加回 し以 た上	参1 加し し2 た回	こ全 とく が参 加し た	不 明 ・ 無 回 答
本調査(n=1,143)	10.2	28.0	57.7	4.1
18～29歳(n=83)	7.2	24.1	67.5	1.2
30～39歳(n=126)	10.3	13.5	73.8	2.4
40～49歳(n=171)	8.2	25.7	63.2	2.9
50～59歳(n=146)	12.3	23.3	63.0	1.4
60～69歳(n=280)	13.6	36.4	47.9	2.1
70～79歳(n=261)	9.6	33.7	51.7	5.0
80歳以上(n=60)	5.0	25.0	63.3	6.7

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位2位までの項目

【人権問題を解決するためにどのような行動をとろうと思うか(問24)との関係】

5年以内の人権に関する講演会や研修会への参加経験について、「3回以上参加した」と「1～2回参加した」を合わせた「参加したことがある」と「参加したことがない(全く参加したことがない)」のグループに分け、問24「人権問題を解決するためにどのような行動をとろうと思うか」の回答をみると、「参加したことがある」「参加したことがない」とともに「自分も市民の一人として問題の解決を目指し努力したい」が最も多くなっていますが、「参加したことがある」が「参加したことがない」より20ポイント以上多くなっています。



- 自分も市民の一人として問題の解決を目指し努力したい
- 自分ではむずかしいと思うが、誰かしかるべき人が解決しなければならない
- 自分ではどうしようもない問題なのでなりゆきに任せる
- 人権問題はないので、対処する必要はない
- わからない
- 不明・無回答

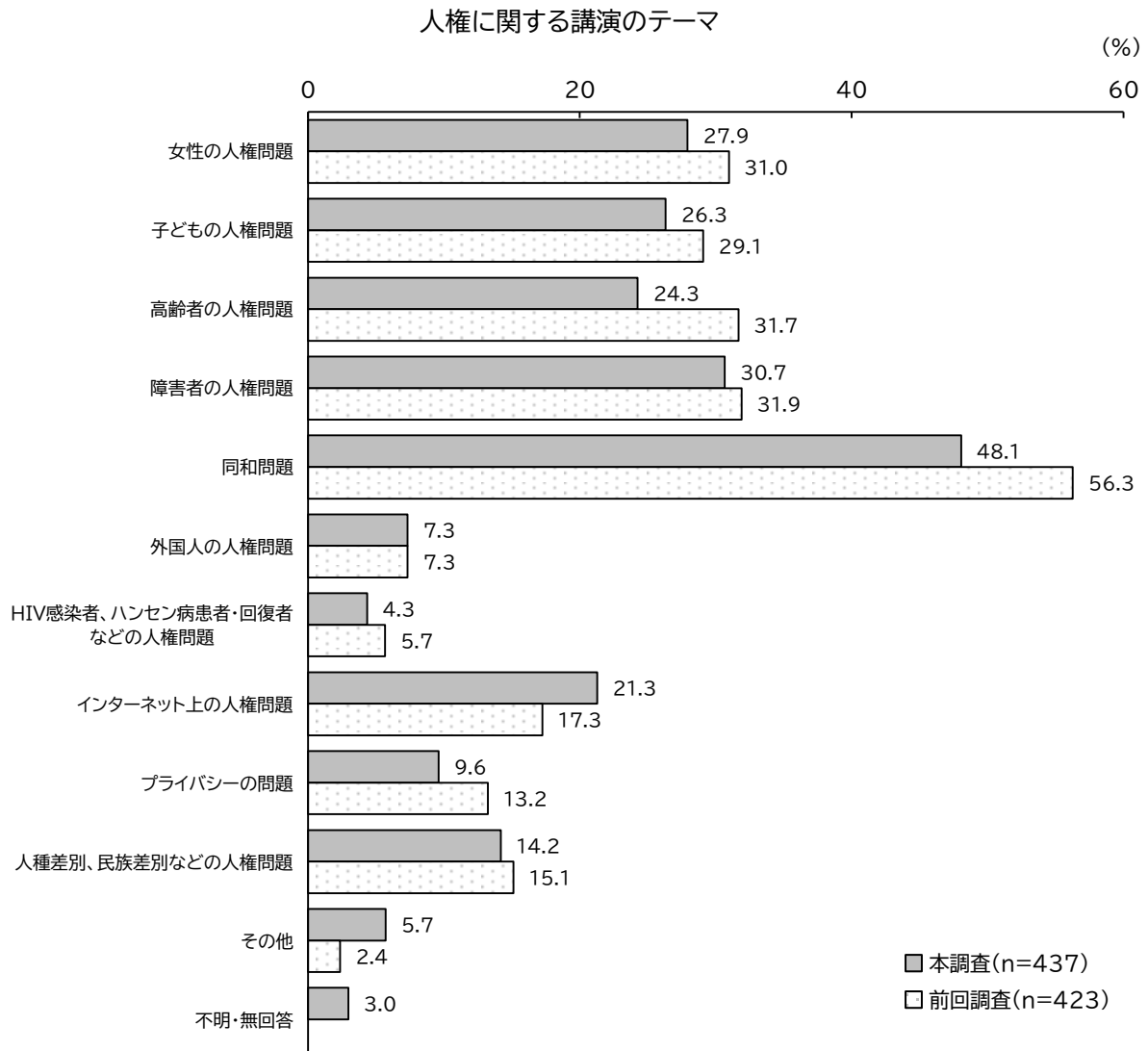
(2) 人権に関する講演のテーマ

問25で「1 3回以上参加した」「2 1~2回参加した」と答えた方だけにおたずねします。

問26 これまでにどのようなテーマの講演を聞かれたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

【本調査の結果及び前回調査との比較】

人権に関する講演のテーマについて、最も多いのは「同和問題」で48.1%、次いで「障害者の人権問題」が30.7%、「女性の人権問題」が27.9%となっています。



※「前回調査」では、「不明・無回答」は未集計

【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」とともに「同和問題」が最も多くなっています。

年齢別にみると、「40～49歳」では「子どもの人権問題」が最も多く、「50～59歳」では「高齢者の人権問題」と「同和問題」が同数で最も多く、それ以外の年代では「同和問題」が最も多くなっています。「高齢者の人権問題」は、年齢が高くなるほど多くなる傾向に、「女性の人権問題」「外国人の人権問題」「インターネット上の人権問題」「プライバシーの問題」は、年齢が低くなるほど多くなる傾向にあります。

人権に関する講演のテーマ

(単位:%)

	女性の人権問題	子どもの人権問題	高齢者の人権問題	障害者の人権問題	同和問題	外国人の人権問題	HIV感染者、 病患者・回復者などの 人権問題	インターネット上の 人権問題	プライバシーの問題
本調査(n=437)	27.9	26.3	24.3	30.7	48.1	7.3	4.3	21.3	9.6
女性(n=205)	28.3	25.9	23.9	25.9	44.4	6.8	3.9	22.0	6.3
男性(n=222)	28.4	27.0	25.2	35.1	51.4	8.1	5.0	19.4	11.7
回答しない(n=8)	12.5	25.0	12.5	37.5	50.0	0.0	0.0	62.5	37.5
18～29歳(n=26)	30.8	15.4	0.0	26.9	46.2	15.4	7.7	42.3	19.2
30～39歳(n=30)	33.3	40.0	10.0	43.3	53.3	16.7	3.3	30.0	20.0
40～49歳(n=58)	31.0	41.4	20.7	27.6	25.9	3.4	5.2	36.2	10.3
50～59歳(n=52)	34.6	21.2	36.5	28.8	36.5	5.8	7.7	28.8	5.8
60～69歳(n=140)	25.0	26.4	23.6	30.0	47.1	7.9	3.6	17.9	10.0
70～79歳(n=113)	25.7	17.7	28.3	29.2	62.8	6.2	3.5	10.6	7.1
80歳以上(n=18)	22.2	38.9	38.9	44.4	61.1	0.0	0.0	0.0	0.0

	人種差別、 民族差別 などの人権問題	その他	不明・ 無回答
本調査(n=437)	14.2	5.7	3.0
女性(n=205)	13.7	4.4	3.4
男性(n=222)	14.9	7.2	2.3
回答しない(n=8)	12.5	0.0	0.0
18～29歳(n=26)	23.1	15.4	0.0
30～39歳(n=30)	16.7	6.7	0.0
40～49歳(n=58)	5.2	10.3	1.7
50～59歳(n=52)	9.6	9.6	1.9
60～69歳(n=140)	10.7	2.1	5.0
70～79歳(n=113)	20.4	4.4	3.5
80歳以上(n=18)	27.8	0.0	0.0

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

(3) 人権問題について理解を深めるため特に役立つもの

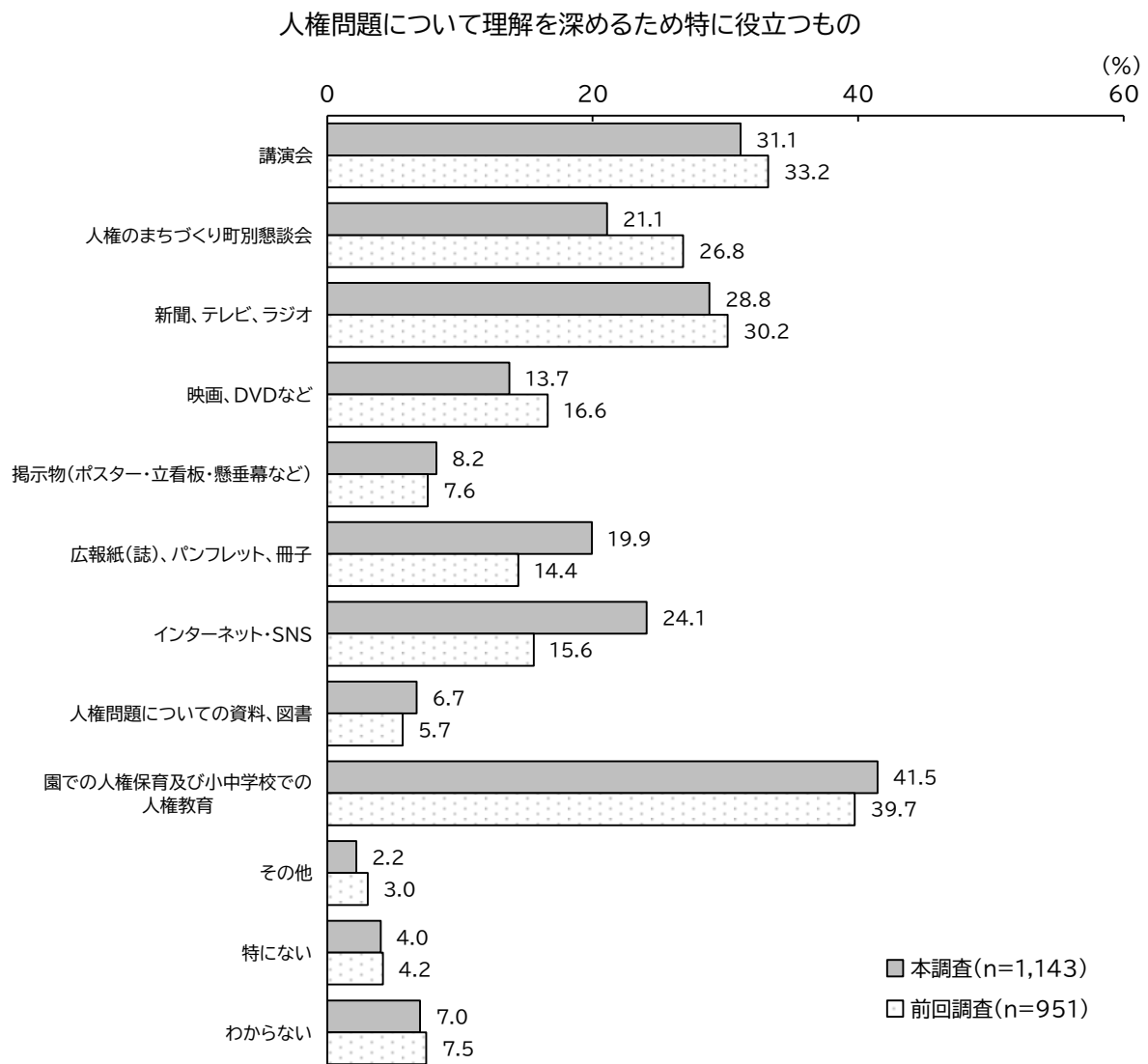
すべての方におたずねします。

問27 あなたは人権問題についての理解を深めるにあたって、どのようなものが特に役立つとお考えでしょうか。(3つまでに○)

【本調査の結果】

人権問題について理解を深めるため特に役立つものについて、最も多いのは「園での人権保育及び小中学校での人権教育」で41.5%、次いで「講演会」が31.1%、「新聞、テレビ、ラジオ」が28.8%となっています。

「前回調査」と比較すると、大きく増減した項目はありません。



【性別・年齢別】

性別にみると、「女性」「男性」とともに「園での人権保育及び小中学校での人権教育」が最も多くなっています。「新聞、テレビ、ラジオ」は、「女性」が「男性」より10ポイント以上多くなっています。「人権のまちづくり町別懇談会」は、「男性」が「女性」より10ポイント以上多くなっています。

年齢別にみると、「18～29歳」では「インターネット・SNS」が、「70～79歳」では「講演会」が、「80歳以上」では「新聞、テレビ、ラジオ」が、それ以外の年代では「園での人権保育及び小中学校での人権教育」が最も多くなっています。「人権のまちづくり町別懇談会」「広報紙(誌)、パンフレット、冊子」は、年齢が高くなるほど多くなる傾向に、「映画、DVDなど」「インターネット・SNS」「園での人権保育及び小中学校での人権教育」は、年齢が低くなるほど多くなる傾向にあります。

人権問題について理解を深めるため特に役立つもの

(単位:%)

	講演会	人権のまちづくり町別懇談会	新聞、テレビ、ラジオ	映画、DVDなど	立看板・懸垂幕など・掲示物(ポスター)	広報紙(誌)、パンフレット、冊子	SNS	インターネット	資料、図書	園での人権保育及び小中学校での人権教育
本調査(n=1,143)	31.1	21.1	28.8	13.7	8.2	19.9	24.1	6.7	41.5	
女性(n=639)	29.7	17.5	33.6	14.6	9.2	22.7	25.8	5.8	46.0	
男性(n=457)	34.4	27.6	23.0	13.3	7.2	17.5	22.8	8.1	37.4	
回答しない(n=29)	31.0	10.3	27.6	10.3	6.9	10.3	20.7	10.3	31.0	
18～29歳(n=83)	27.7	2.4	31.3	26.5	14.5	9.6	69.9	4.8	56.6	
30～39歳(n=126)	24.6	11.9	31.7	15.1	10.3	18.3	46.0	8.7	60.3	
40～49歳(n=171)	26.9	8.2	30.4	13.5	9.4	16.4	34.5	5.8	49.7	
50～59歳(n=146)	24.7	17.8	29.5	15.1	8.9	19.2	26.0	5.5	34.9	
60～69歳(n=280)	34.3	26.8	25.7	14.6	7.5	21.1	13.9	6.8	42.5	
70～79歳(n=261)	39.8	34.5	28.4	11.5	6.5	24.9	6.1	8.4	31.8	
80歳以上(n=60)	33.3	31.7	36.7	0.0	3.3	28.3	10.0	5.0	20.0	

	その他	特にない	わからない
本調査(n=1,143)	2.2	4.0	7.0
女性(n=639)	1.4	3.9	6.7
男性(n=457)	3.5	4.2	6.8
回答しない(n=29)	0.0	6.9	13.8
18～29歳(n=83)	0.0	2.4	2.4
30～39歳(n=126)	2.4	2.4	4.0
40～49歳(n=171)	5.3	2.9	7.6
50～59歳(n=146)	3.4	6.2	9.6
60～69歳(n=280)	0.4	3.6	8.6
70～79歳(n=261)	1.9	5.0	6.1
80歳以上(n=60)	3.3	6.7	8.3

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位3位までの項目

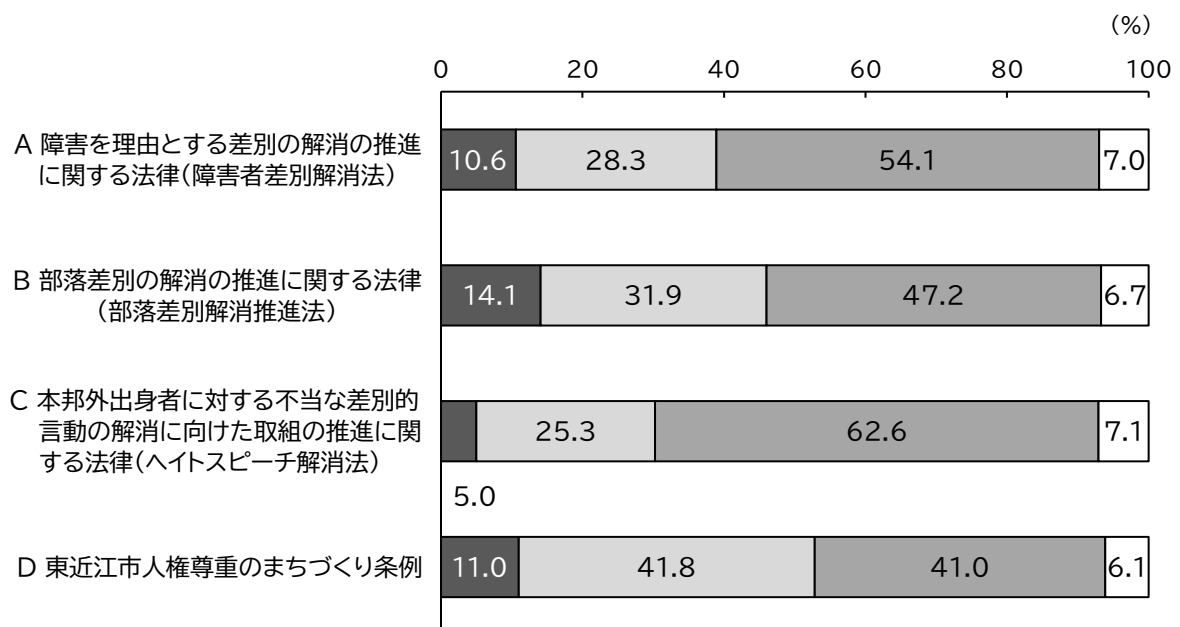
(4) 人権に関わる法律や条例の認知度

問28 あなたは、次のAからDの人権に関わる法律や条例についてご存知ですか。
(A～Dのそれぞれについて1つに○)

【本調査の結果】

人権に関わる法律や条例について、「知っている」と「名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」を合わせた認知度が最も高いのは「東近江市人権尊重のまちづくり条例」で52.8%、次いで「部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)」が46.0%、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」が38.9%、「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律(ヘイトスピーチ解消法)」が30.3%となっています。

人権に関わる法律や条例の認知度(n=1,143)



- 知っている
- 名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない
- 知らない
- 不明・無回答

【性別・年齢別】

「東近江市人権尊重のまちづくり条例」では、「女性」は「名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が最も多く、「男性」は「知らない」が最も多くなっています。他の法律では全て、「女性」「男性」ともに「知らない」が最も多くなっています。

年齢別にみると、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」の「80歳以上」と、「東近江市人権尊重のまちづくり条例」の「60～69歳以上」では「名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」が最も多く、それ以外の年代では「知らない」が最も多くなっています。「部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)」「本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律(ヘイトスピーチ解消法)」では、全ての年代において「知らない」が最も多くなっています。「知っている」と「名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない」を合わせた認知度をみると、いずれの法律、条例も、年齢が高くなるほど多くなる傾向にあります。

A 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律
(障害者差別解消法)

(単位:%)

	知っている	名前が聞いたことがあるが、内容までは知らない	知らない	不明・無回答
本調査(n=1,143)	10.6	28.3	54.1	7.0
女性(n=639)	9.1	27.7	57.0	6.3
男性(n=457)	13.1	30.4	51.9	4.6
回答しない(n=29)	10.3	27.6	48.3	13.8
18～29歳(n=83)	19.3	24.1	56.6	0.0
30～39歳(n=126)	6.3	25.4	66.7	1.6
40～49歳(n=171)	11.7	25.1	61.4	1.8
50～59歳(n=146)	15.8	25.3	56.8	2.1
60～69歳(n=280)	10.7	27.1	56.4	5.7
70～79歳(n=261)	6.9	34.9	45.2	13.0
80歳以上(n=60)	10.0	41.7	33.3	15.0

B 部落差別の解消の推進に関する法律
(部落差別解消推進法)

(単位:%)

	知っている	名前が聞いたことがあるが、内容までは知らない	知らない	不明・無回答
本調査(n=1,143)	14.1	31.9	47.2	6.7
女性(n=639)	10.3	32.9	50.4	6.4
男性(n=457)	19.7	32.8	43.5	3.9
回答しない(n=29)	13.8	17.2	55.2	13.8
18～29歳(n=83)	14.5	30.1	55.4	0.0
30～39歳(n=126)	6.3	31.0	60.3	2.4
40～49歳(n=171)	7.6	26.9	63.7	1.8
50～59歳(n=146)	18.5	31.5	47.9	2.1
60～69歳(n=280)	16.1	35.4	43.9	4.6
70～79歳(n=261)	18.0	34.5	35.2	12.3
80歳以上(n=60)	13.3	33.3	35.0	18.3

C 本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律(ヘイトスピーチ解消法)

(単位:%)

	知っている	名前が聞いたことがあるが、内容までは知らない	知らない	不明・無回答
本調査(n=1,143)	5.0	25.3	62.6	7.1
女性(n=639)	3.4	23.0	67.0	6.6
男性(n=457)	7.7	29.5	58.4	4.4
回答しない(n=29)	0.0	24.1	62.1	13.8
18～29歳(n=83)	4.8	24.1	71.1	0.0
30～39歳(n=126)	2.4	19.8	75.4	2.4
40～49歳(n=171)	4.7	22.2	71.3	1.8
50～59歳(n=146)	12.3	26.0	59.6	2.1
60～69歳(n=280)	3.2	30.0	61.8	5.0
70～79歳(n=261)	4.2	27.6	54.8	13.4
80歳以上(n=60)	6.7	20.0	56.7	16.7

D 東近江市人権尊重のまちづくり条例

(単位:%)

	知っている	名前が聞いたことがあるが、内容までは知らない	知らない	不明・無回答
本調査(n=1,143)	11.0	41.8	41.0	6.1
女性(n=639)	10.5	44.0	39.6	5.9
男性(n=457)	12.9	41.1	42.5	3.5
回答しない(n=29)	0.0	27.6	69.0	3.4
18～29歳(n=83)	2.4	28.9	68.7	0.0
30～39歳(n=126)	1.6	38.1	58.7	1.6
40～49歳(n=171)	7.6	39.8	51.5	1.2
50～59歳(n=146)	12.3	40.4	44.5	2.7
60～69歳(n=280)	13.2	47.5	33.9	5.4
70～79歳(n=261)	16.9	46.0	26.8	10.3
80歳以上(n=60)	16.7	41.7	30.0	11.7

※ 灰色、太字の部分は、各属性の上位2位までの項目

15 自由意見

問33 人権に関して御意見や御感想がございましたら自由にお書きください。

延べ197件の回答がありました。以下のとおりに分類しました。

- 人権が尊重される市・社会になってほしい..... 27件
- 人権に関する啓発活動が重要である..... 21件
- 学校での人権教育が重要である..... 16件
- 部落差別(同和問題)の解決が必要である..... 16件
- いじめなど、子どもの人権を守ることが重要である..... 14件
- パワハラやマタハラなど、職場での人権を守ることが重要である..... 12件
- 女性の人権を守ることが重要である..... 11件
- アンケートの設問が難しく、回答が大変だった..... 11件
- 市の取組に期待する..... 8件
- コロナウイルス感染症に対する差別や偏見を無くすことが必要である..... 7件
- SNSなど、インターネットによる人権侵害を無くすことが必要である..... 6件
- 障害を理由とする差別や偏見を無くすことが必要である..... 6件
- 人権問題の解決は困難である..... 4件
- アンケート調査結果の活用が重要である..... 4件
- 人種差別など、外国人の人権を守ることが重要である..... 3件
- 人権問題についての情報提供が重要である..... 3件
- 人権問題に関する相談機関が重要である..... 3件
- 高齢者が差別することが多い..... 3件
- これから人権問題に気をつけていきたい..... 3件
- 人権問題について考える機会がない..... 2件
- 人権問題を無理に取り上げる必要はない..... 2件
- 法律や条例の整備が重要である..... 2件
- その他..... 13件

東近江市 人権問題に関する市民意識調査

御協力をお願い

市民の皆さまには、日頃から市政に対し御理解と御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

東近江市では、市民の皆さまの人権が尊重され、その個性や能力が最大限に発揮できる社会を目指し、「東近江市人権施策基本計画」に基づき、人権尊重のさまざまな施策の推進に努めております。

つきましては、これからの効果的な施策や計画づくりに活用するため、市民意識調査を実施いたします。

皆さまには、御多忙のこととは存じますが調査の趣旨を御理解いただき、御協力いただきますようお願い申し上げます。

令和3年9月 東近江市

調査票の記入に当たって

- この調査は、東近江市にお住まいの18歳以上の皆さまから無作為に抽出した3,000人の方を対象として行います。回答いただきました内容は、統計的な分析にのみ使用するものであり、それ以外の目的には使用しません。
- 記入に当たっては、封筒の宛名の御本人がお答えください。（御本人による記入が困難な場合は、身近な方が聞き取り、代筆をお願いします。）
- 記入は黒のボールペン、又は濃い鉛筆をお願いします。
- 回答は、設問ごとに用意してある選択肢の中から、あなたの考えにあてはまる番号に○印を付けてください。
- 設問ごとに「1つに○」「3つまでに○」「あてはまるものすべてに○」などの指定がありますので、御注意ください。
- 記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、令和3年10月15日（金）までに御返送ください。（切手は不要です。）

お問合せ先

東近江市 市民環境部 人権・男女共同参画課

IP電話	050-5801-5620
電話	0748-24-5620
FAX	0748-24-0217
Eメール	jinken@city.higashiomi.lg.jp



お手数をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

滋賀県人権啓発キャラクター ジンケンダー

東近江市 人権問題に関する市民意識調査

【調査票】

関心のある人権課題、取組が必要な人権課題についておたずねします

問1 次の人権課題で、あなたが関心のあるものは何ですか。また、東近江市として、特に取組が必要な人権課題は何であると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

	関心があるものに○印を	特に取組が必要なものに○印を
A 女性の人権	1	1
B 子どもの人権	2	2
C 高齢者の人権	3	3
D 障害を理由とする偏見や差別	4	4
E 部落差別（同和問題）	5	5
F アイヌの人々に対する偏見や差別	6	6
G 外国人の人権	7	7
H 感染症に関連する偏見や差別（新型コロナウイルス感染症、エイズ、肝炎等）	8	8
I ハンセン病患者・元患者・その家族に対する偏見や差別	9	9
J 刑を終えて出所した人に対する偏見や差別	10	10
K 犯罪被害者とその家族の人権	11	11
L インターネットによる人権侵害	12	12
M 北朝鮮当局による人権侵害問題	13	13
N ホームレスに対する偏見や差別	14	14
O 性的指向及び性自認（性同一性）を理由とする偏見や差別	15	15
P 人身取引	16	16
Q 東日本大震災に起因する偏見や差別	17	17
R 職場での人権（パワー・ハラスメント※ ¹ など）	18	18
S ヘイトスピーチ※ ²	19	19
T その他（具体的に：)	20	20
U 特にない	21	21

※1 パワー・ハラスメント…職責上の立場を利用した嫌がらせのことで、職権などの権力や地位を背景にし、本来の業務を超えて、人格と尊厳を傷つける行為。

※2 ヘイトスピーチ……人種、国籍、思想など特定の属性を有する集団をおとしめ、差別や暴力行為などをおおる言動。

女性の人権についておたずねします

問2 女性に関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 家庭において、「男は仕事、女は家事・育児」などの男女の固定的な役割分担意識があること
- 2 職場において、採用あるいは昇進などで男女の待遇に違いがあること
- 3 社会において、家事・育児や介護などを男女が共同して担う社会の仕組みが十分に整備されていないこと
- 4 女性は男性に比べて、議員、会社の役員・管理職、自治会長など、決定権を持つ立場につくことが少ないこと
- 5 商品の広告などで、内容に関係なく女性の水着姿、裸体などを使用していること
- 6 職場や地域社会においてセクシュアル・ハラスメント^{※1}やパワー・ハラスメントがあること
- 7 職場において、マタニティ・ハラスメント^{※2}があること
- 8 夫や恋人などから暴力・暴言、危害の恐怖を感じる強迫や行動制限を受けること
- 9 売買春、ストーカー行為^{※3}
- 10 その他(具体的に: _____)
- 11 特に問題と思うことはない
- 12 わからない

※1 セクシュアル・ハラスメント…性的嫌がらせ。特に職場などで、異性の相手に不快な思いをさせる言動。

※2 マタニティ・ハラスメント…働く女性が妊娠・出産に当たって、職場で受ける精神的・肉体的な嫌がらせや妊娠・出産、育児休業などを理由とした解雇、不利益な異動、減給、降格などの不利益な取扱い。

※3 ストーカー行為…特定の相手に対し、つきまといや待ち伏せ、無言電話、連続電話などの行為を繰り返すこと。

問3 あなたは、女性の人権を守るためには特にどのようなことが必要だと思いますか。
(3つまでに○)

- 1 女性のための相談体制を充実する
- 2 女性の人権を守るための啓発活動を推進する
- 3 女性が生涯働くことができる環境を整備する
- 4 職場で、採用や賃金、昇進での格差や、性別による仕事の役割分担などを改めるよう事業所を指導する
- 5 女性が自ら能力を発揮できるような学習や実践の機会を増やす
- 6 女性が被害者となる犯罪の取締りを強化する
- 7 学校で男女共同参画についての教育や性教育を充実する
- 8 性の商品化を行わないようマスコミなどに働きかける
- 9 その他(具体的に: _____)
- 10 特に必要と思うことはない
- 11 わからない

子どもの人権についておたずねします

問4 子どもに関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 仲間はずれ、無視、悪口、暴力などのいじめがあること
- 2 いじめをしている人や、いじめられている人を見て見ぬふりをすること
- 3 親(保護者)が子どもに暴力をふるったり育児放棄などの虐待をすること
- 4 学校や就職先の選択などについて、大人が子どもの意見を無視すること
- 5 教師による体罰や言葉の暴力があること
- 6 成績や学歴だけで子どもを判断すること
- 7 暴力や性など、子どもにとって有害な情報が氾濫していること
- 8 親(保護者)が子どものプライバシーを尊重しないこと
- 9 家庭の経済的事情により、子どもの教育環境に格差が生じていること
- 10 その他(具体的に: _____)
- 11 特に問題と思うことはない
- 12 わからない

問5 あなたは、子どもの人権を守るためには特にどのようなことが必要だと思いますか。
(3つまでに○)

- 1 子どものための相談体制を充実する
- 2 子どもの人権を守るための啓発活動を推進する
- 3 子どもの権利条約^{※1}の普及・啓発を図る
- 4 いじめの未然防止に努める
- 5 成績を重視する社会の風潮を改める
- 6 大人に、子どもが独立した人格であることを教育する
- 7 大人の人間性、資質を高める
- 8 子どもが安心してくつろげる家庭をつくる
- 9 子どもに、他人に対する思いやりの心を育む教育を行う
- 10 子どもの個性を尊重する
- 11 子育てについての情報提供や電話相談などの支援策を充実する
- 12 家庭、学校、地域の結びつきを強め、地域で子どもを育てる
- 13 虐待や性犯罪など子どもが被害者になる犯罪の取締りを強める
- 14 その他(具体的に: _____)
- 15 特に必要と思うことはない
- 16 わからない

※1 子どもの権利条約…18歳未満の子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約。

高齢者の人権についておたずねします

問6 高齢者に関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 働く能力を発揮する機会が少ないこと
- 2 経済的に自立が困難なこと
- 3 社会参加のためのボランティアや地域活動などを通じて能力を発揮する機会が少ないこと
- 4 情報を高齢者にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと
- 5 さまざまな建物や製品が高齢者に利用しやすいようにつくられていないこと
- 6 家庭、施設、病院において、高齢者に対する身体拘束や虐待などがあること
- 7 財産管理面などでの権利侵害や悪質商法などの被害が高齢者に多いこと
- 8 高齢者の意見や行動が尊重されないこと
- 9 アパートなどへの入居を拒否されること
- 10 その他(具体的に: _____)
- 11 特に問題と思うことはない
- 12 わからない

問7 あなたは、高齢者の人権を守るためには特にどのようなことが必要だと思いますか。
(3つまでに○)

- 1 高齢者のための相談体制を充実する
- 2 高齢者の人権を守るための啓発活動を推進する
- 3 高齢者が自立して生活しやすい環境づくりを推進する
- 4 高齢者が被害者になる犯罪の取締りを強化する
- 5 高齢者と他の世代との交流を促進する
- 6 高齢者のための保険・医療サービスを充実する
- 7 預貯金の出し入れの代行など財産管理の支援を行う
- 8 学校、家庭、地域で、高齢者に対する尊敬や感謝の心を育てる
- 9 家庭、施設、病院における高齢者の身体拘束や虐待を防止する
- 10 地域の人たちによる見守りの体制を充実する
- 11 高齢者の経験や技術を生かせる職場や地域活動の場を創出する
- 12 高齢者を介護する家族などへのサポート体制を整える
- 13 その他(具体的に: _____)
- 14 特に必要と思うことはない
- 15 わからない

障害のある人の人権についておたずねします

問8 障害のある人に関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか
(あてはまるものすべてに○)

- 1 障害のある人に対する理解や認識が十分でないこと
- 2 働く場所や機会が少なく、仕事上の待遇も十分でないこと
- 3 スポーツ、文化活動、地域活動に気軽に参加できる配慮が足りないこと
- 4 障害に応じた教育環境が十分でないこと
- 5 情報を障害のある人にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと
- 6 さまざまな建物や製品が障害のある人に利用しやすいようにつくられていないこと
- 7 家庭、施設、病院などにおいて、障害のある人に対する不当な扱いや虐待などがあること
- 8 財産管理面などでの権利侵害や悪質商法などの被害が障害のある人に多いこと
- 9 じろじろ見られたり、避けられたりすること
- 10 アパートなどへの入居を拒否されること
- 11 結婚について周囲の反対を受けること
- 12 障害のある人の意見や行動が尊重されないこと
- 13 その他（具体的に： _____)
- 14 特に問題と思うことはない
- 15 わからない

問9 あなたは、障害のある人の人権を守るためには特にどのようなことが必要だと思いますか。
(3つまでに○)

- 1 経済的なゆとりができるよう支援する
- 2 障害のある人の就労のための教育を充実する
- 3 在宅の福祉サービスや地域で暮らせる施設（グループホーム^{※1}など）を整備する
- 4 施設や病院においても、障害のある人が自分らしく生活できるようにする
- 5 働く場を確保する
- 6 建物の設備や乗り物など、障害のある人が安心して外出できるような構造にする
- 7 障害のある人もない人も、互いに交流できる機会を積極的に設ける
- 8 障害のある人がスポーツや文化活動などに参加しやすくする
- 9 生活に必要な情報を入手し、本人の意思が的確に伝えられるよう支援する
- 10 預貯金の出し入れの代行など財産管理の支援を行う
- 11 障害のある人に対する各種相談、情報提供事業を進める
- 12 障害のある人に対する正しい理解と認識が深められるよう、啓発活動を進める
- 13 学校における特別支援教育を充実させる
- 14 障害のある人を援助する人たちへの配慮や保障を整える
- 15 障害者虐待を防止する
- 16 その他（具体的に： _____)
- 17 特に必要と思うことはない
- 18 わからない

※1 グループホーム…地域の住宅などで、世話人の支援を受けながら、少人数で生活する居住の場。

日本に住む外国人の人権についておたずねします

問 10 外国人に関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 外国人の生活習慣や文化への理解や認識が十分でないこと
- 2 病院や公共施設などに通訳や外国語表記が少ないので、十分なサービスを受けられないこと
- 3 就職、仕事の内容、待遇などで不利な条件におかれていること
- 4 地域社会において交流する機会が少ないこと
- 5 外国人の子どもに対して、その子に応じた十分な教育が行われていないこと
- 6 情報を外国人にわかりやすく伝えるための配慮が足りないこと
- 7 アパートなどへの入居を拒否されること
- 8 結婚について周囲の反対を受けること
- 9 ヘイトスピーチが行われていること
- 10 その他 (具体的に: _____)
- 11 特に問題と思うことはない
- 12 わからない

問 11 あなたは、外国人の人権を守るためには特にどのようなことが必要だと思えますか。
(3つまでに○)

- 1 外国人のための相談体制を充実する
- 2 日常生活に必要な情報を外国語により提供する
- 3 外国人を対象にした年金制度などの充実を図る
- 4 外国人の参加しやすい地域活動や交流イベントを開催する
- 5 外国の文化や伝統を尊重し、外国の人々と共に生きる教育を行う
- 6 国際理解を深めるための啓発・教育を進める
- 7 その他 (具体的に: _____)
- 8 特に必要と思うことはない
- 9 わからない

問 12 あなたは、ヘイトスピーチについてどう思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- 1 不愉快で許せないと思った
- 2 日本に対する印象が悪くなったと思った
- 3 自分には関係ないと思った
- 4 ヘイトスピーチをされる側に問題があると思った
- 5 「表現の自由」の範囲内のものだと思った
- 6 その他 (具体的に: _____)
- 7 特にない
- 8 わからない

性的指向及び性自認（性同一性）などについておたずねします

問 13 L G B T※¹などに関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 様々な性のあり方に関する理解や認識が十分でないこと
- 2 職場、学校等で嫌がらせやいじめが行われること
- 3 就職・職場で不利な扱いをされること
- 4 差別的な言動をされること
- 5 じろじろ見られたり、避けられたりすること
- 6 宿泊施設、店舗等への入店や施設の利用を拒否されること
- 7 アパート等への入居を拒否されること
- 8 本人の了解を得ず、その人の性的指向や性自認を第三者に明らかにする行為（アウトティング）が行われること
- 9 その他（具体的に： _____）
- 10 特に問題と思うことはない
- 11 わからない

※1 L G B T…性的指向（どのような性別の人を好きになるか）のあり方を表すレズビアン（Lesbian、女性で女性が好きな人）、ゲイ（Gay、男性で男性が好きな人）、バイセクシュアル（Bisexual、同性も異性も好きな人）及び性自認（自分の性をどのように認識しているか）のあり方を表すトランスジェンダー（Transgender、身体の性と心の性が一致せず、身体の性に違和感をもつ人）の頭文字を組み合わせたもので、性的少数者（セクシュアルマイノリティ）を表す言葉の一つとして使われている。

インターネット上の人権についておたずねします

問 14 インターネット・SNSに関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

- 1 他人を誹謗中傷する情報が掲載されること
- 2 他人を差別しようとする気持ちを起こさせたり、それを助長するような表現を用いた情報が掲載されること
- 3 出会い系サイトなどの犯罪を誘発する場となっていること
- 4 捜査の対象となっている未成年者の実名や顔写真などが掲載されること
- 5 プライバシーに関する情報が掲載されること
- 6 子どもたちの間でインターネット・SNS※¹を利用したいじめが発生していること
- 7 わいせつな画像や残虐な画像など有害な情報が掲載されること
- 8 いったん流れた情報の訂正や削除が難しいこと
- 9 その他（具体的に： _____）
- 10 特に問題と思うことはない
- 11 わからない

※1 SNS…ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略で、登録された利用者同士が交流できるウェブサイトの会員制サービスのこと。

さまざまな人権についておたずねします

問 15 災害発生時において、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 避難生活でプライバシーが守られないこと
- 2 避難生活の長期化によるストレスに伴う嫌がらせやトラブルが生じること
- 3 障害者、高齢者、乳幼児、妊産婦などに十分な配慮が行き届かないこと
- 4 女性や子育て家庭への十分な配慮が行き届かないこと
- 5 デマ・風評などによる差別的な言動が起きること
- 6 支援や被災状況などの必要な情報が行き届かないこと
- 7 その他 (具体的に: _____)
- 8 特に問題と思うことはない
- 9 わからない

問 16 新型コロナウイルス (COVID-19) 感染症の流行によって様々な問題が生じています。この感染症に関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてに○)

- 1 感染者に対して差別的な言動・いじめ等が行われること
- 2 感染者の家族に対して差別的な言動・いじめ等が行われること
- 3 治療にあたる医療従事者に対して差別的な言動が行われること
- 4 小売業や流通業、清掃業等、社会生活の維持に欠かせない職業に就いている人に対して差別的な言動が行われること
- 5 集団感染が発生した医療機関・施設・学校・店舗等に対して誹謗中傷が行われること
- 6 インターネットやSNS上で誹謗中傷やデマが流されること
- 7 学校や職場、地域等の中で悪質なうわさやデマが流されること
- 8 感染者やその家族等の個人情報インターネットやSNS上に流されること
- 9 行政からの外出や業者の自粛の呼びかけに応じない個人・店舗等に対して嫌がらせが行われること
- 10 その他 (具体的に: _____)
- 11 特に問題と思うことはない
- 12 わからない

同和問題についておたずねします

問 17 あなたは、同和問題について差別意識は解消しつつあると思われますか。(1つに○)

- | | | |
|---------------|--------------|---------|
| 1 かなり解消してきている | 3 あまり変わっていない | 5 わからない |
| 2 少しは解消してきている | 4 前より強まっている | |

問 18 あなたは、過去5年以内に職場や地域の身近な人から同和問題に関連した差別発言を聞いたことがありますか。(1つに○)

- | | | | |
|-------------|----------|------------|----------|
| 1 たびたび聞いている | → 問 19 へ | 3 聞いたことがない | → 問 20 へ |
| 2 聞いたことがある | → 問 19 へ | | |

問 18で「1 たびたび聞いている」「2 聞いたことがある」と答えた方だけにおたずねします。

問 19 そのときあなたはこうされましたか。(1つに○)

- | |
|--|
| 1 何もしないでそのままにしておいた |
| 2 差別のまちがいについて指摘し、注意した |
| 3 差別のまちがいについて注意し、その人と話し合った |
| 4 同和問題のことをよく知っている人を交えて、話し合った
(行政の人権問題の窓口へ相談するなども含む) |
| 5 どうしていいのかわからなかった |

すべての方におたずねします。

問 20 あなたは、同和問題を解決するための取組や対応に関して、次のA～Dのような考え方についてどのように思いますか。(A～Dのそれぞれについて1つに○)

	そう思う	そう思う どちらかといえば	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
A 同和問題についての理解や認識を深め、差別をしない人権尊重の意識を高める	1	2	3	4	5
B 同和問題のことなど口にせず、そっとしておけば、差別は自然になくなる	1	2	3	4	5
C 差別的な言動による人権侵害を救済する法整備をする	1	2	3	4	5
D 身元調査をしない、させない取組を進めることが必要	1	2	3	4	5

人権問題とその対策についておたずねします

問 21 あなたは、過去5年以内に、差別や人権侵害を受けたことがありますか。(1つに○)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 ある → 問 22 へ | 2 ない → 問 23 へ |
|---------------|---------------|

問 21で「1 ある」と答えた方だけにおたずねします。

問 22 差し支えなければ、人権が侵害された内容とその際の相談先について下記の中から、お答えください。(あてはまるものすべてに○)

<人権侵害の内容>

- | | |
|--------------------------|-----------------------|
| 1 病院、施設などにおける虐待 | 10 国籍などによる差別 |
| 2 DV (ドメスティック・バイオレンス) ※1 | 11 思想、信仰などによる差別 |
| 3 公務員、警察官などによる不当な扱い | 12 パワー・ハラズメント |
| 4 学校などにおける体罰、いじめ | 13 プライバシーの侵害 |
| 5 ストーカー行為 | 14 あらぬ噂や陰口による名誉・信用の侵害 |
| 6 セクシュアル・ハラズメント | 15 労働の強制など不当な待遇 |
| 7 性別による差別 | 16 暴力、強迫、強要行為 |
| 8 障害による差別 | 17 その他(具体的に:) |
| 9 本籍、出身地による差別 | 18 回答しない |

※1 DV (ドメスティック・バイオレンス) …配偶者やパートナーなどから受ける暴力のことで、「殴る・蹴る」などの身体的暴力のほかに、言葉による精神的暴力、性的行為の強要、行動の制限なども含む。

〈相談先〉

1 家族や親戚	6 人権擁護委員や人権擁護推進員	11 NPOなど民間団体
2 友人や知人	7 市役所	12 民生委員・児童委員
3 学校	8 弁護士	13 その他(具体的に:)
4 職場	9 警察	14 相談していない(我慢した)
5 法務局	10 専門機関(児童相談所など)	15 相談していない(自分で対処した)

人権尊重についておたずねします

問 23 あなたは、「東近江市は人権が尊重されるまち」になっていると思いますか。(1つに○)

- | | |
|------------------|----------|
| 1 そう思う | 4 そう思わない |
| 2 どちらかといえばそう思う | 5 わからない |
| 3 どちらかといえばそう思わない | |

問 24 あなたは、人権問題を解決するために、どのような行動をとろうと思いますか。(1つに○)

- | |
|--------------------------------------|
| 1 自分も市民の一人として問題の解決を目指し努力したい |
| 2 自分ではむずかしいと思うが、誰かしかるべき人が解決しなければならない |
| 3 自分ではどうしようもない問題なのでなりゆきに任せる |
| 4 人権問題はないので、対処する必要はない |
| 5 わからない |

人権問題の啓発活動についておたずねします

問 25 あなたは、最近(5年以内)に、人権に関する講演会や研修会に参加されたことがありますか。(1つに○)

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 1 3回以上参加した → 問 26 へ | 3 全く参加したことがない → 問 27 へ |
| 2 1～2回参加した → 問 26 へ | |

問 25 で「1 3回以上参加した」「2 1～2回参加した」と答えた方だけにおたずねします。

問 26 これまでにどのようなテーマの講演を聞かれたことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|------------|-----------------------------|
| 1 女性の人権問題 | 7 HIV感染者、ハンセン病患者・回復者などの人権問題 |
| 2 子どもの人権問題 | 8 インターネット上の人権問題 |
| 3 高齢者の人権問題 | 9 プライバシーの問題 |
| 4 障害者の人権問題 | 10 人種差別、民族差別などの人権問題 |
| 5 同和問題 | 11 その他(具体的に:) |
| 6 外国人の人権問題 | |

すべての方におたずねします。

問 27 あなたは人権問題についての理解を深めるにあたって、どのようなものが特に役立つとお考えでしょうか。(3つまでに○)

1 講演会	7 インターネット・SNS
2 人権のまちづくり町別懇談会	8 人権問題についての資料、図書
3 新聞、テレビ、ラジオ	9 園での人権保育及び小中学校での人権教育
4 映画、DVDなど	10 その他(具体的に:)
5 掲示物(ポスター・立看板・懸垂幕など)	11 特になし
6 広報紙(誌)、パンフレット、冊子	12 わからない

問 28 あなたは、次のAからDの人権に関わる法律や条例についてご存知ですか。(A～Dのそれぞれについて1つに○)

	知っている	名前はあるが、内容は知らない	名前は聞いたことがあるが、内容までは知らない	知らない
A 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)	1	2	3	
B 部落差別の解消の推進に関する法律(部落差別解消推進法)	1	2	3	
C 本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律(ヘイトスピーチ解消法)	1	2	3	
D 東近江市人権尊重のまちづくり条例	1	2	3	

あなた自身のことについておたずねします

問 29 あなたの性別は。(1つに○)

1 女性	2 男性	3 回答しない
------	------	---------

問 30 あなたの年齢は。(1つに○)

1 18～19歳	4 40～49歳	7 70～79歳
2 20～29歳	5 50～59歳	8 80歳以上
3 30～39歳	6 60～69歳	

問 31 あなたのお住まいはどちらですか。(1つに○)

1 平田地区	5 建部地区	9 永源寺地区	13 能登川地区
2 市辺地区	6 中野地区	10 五個荘地区	14 蒲生地区
3 玉緒地区	7 八日市地区	11 愛東地区	
4 御園地区	8 南部地区	12 湖東地区	

問 32 あなたの現在のお仕事は。(1つに○)

- 1 自営業を営んでいる、またはその手伝いをしている
- 2 従業員 19 人以下の事業所・団体などに勤めている
- 3 従業員 20 人以上の事業所・団体などに勤めている
- 4 官公庁に勤めている
- 5 学校関係の職場に勤めている
- 6 学生
- 7 家事
- 8 無職
- 9 その他()
- 10 回答しない

※滋賀県では、常時使用する従業員が 20 人以上の事業所に対し、「事業所内公正採用選考・人権啓発担当者」を設置し、事業所の社会的責任としての公正な採用選考の実施や同和問題をはじめとするさまざまな人権課題についての研修の実施を推進しています。

自由意見

問 33 人権に関して御意見や御感想がございましたら自由にお書きください。

御協力いただきまして、誠にありがとうございました。記入もれがないか、今一度お確かめください。記入した調査票は3つ折りにして、同封した返信用封筒に入れ、令和3年10月15日(金)までに、切手を貼らずにポストに投函してください。

東近江市人権問題に関する市民意識調査
報告書

令和4年3月

東近江市 市民環境部 人権・男女共同参画課

滋賀県東近江市八日市緑町10番5号

I P 電 話 050-5801-5620

電 話 0748-24-5620

F A X 0748-24-0217

PIONEER CITY
東近江イズム。
HIGASHIOMISM